

キャンプ瑞慶覧内病院地区に係る文化財発掘調査報告書 3

— 普天間古集落遺跡 —

平成 28 (2016) 年 3 月

沖縄県立埋蔵文化財センター



## 序

本報告書は、沖縄県立埋蔵文化財センターが平成22～23年度に、米軍の海軍病院建設に伴う記録保存調査として実施した普天間古集落遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。

本遺跡は、宜野湾市字普天間に所在し、普天満宮、普天満山神宮寺の西側に広がる遺跡です。旧普天間集落は、第二次世界大戦前には沖縄本島北部と南部を結ぶ交通の要所であったとともに、多くの公共施設が設置された重要な場所でした。また、各地から普天満宮及び普天満山神宮寺への参拝者が訪れることから賑わいを見せていました。

しかしながら、第二次世界大戦によって、集落すべてが米軍に接収され、戦後はキャンプ瑞慶覧内の住宅地区として使用されていました。

発掘調査の結果、縄文時代、グスク時代、近世～近代の時期の遺構や遺物が確認されました。各時代の主な遺構として、縄文時代は深く掘り込まれた土坑、グスク時代は複数の建物跡が見つかりました。

本遺跡の主体を占める近世～近代は、前回同様、調査区全体に広がる溝跡が確認され、これまでの調査で確認された屋敷地などの空間を区画すると考えられる溝跡と繋がることが判明しました。この成果は、当時の集落の様相を明らかにする上で重要です。

本報告書が、学術研究をはじめ、地域の文化・歴史学習などの資料として活用されるとともに、文化財保護の普及等の一助になれば幸いです。

最後となりましたが、現地調査及び資料整理にあたり、多大な御協力を賜りました宜野湾市教育委員会をはじめとした関係機関並びに関係各位の皆様に対し、厚く御礼申し上げます。

平成28（2016）年3月

沖縄県立埋蔵文化財センター  
所長 下地 英輝





巻頭図版1 遺構完掘状況 上：Ⅶ地区2地点（西から） 下：Ⅶ地区6地点（東から）



巻頭図版2 遺構完掘状況 上：IX地区3地点（北から） 下：同 6地点（南西から）



巻頭図版3 縄文時代の遺構 上：Ⅶ地区 SK011（北から） 下：Ⅸ地区 SK236（西から）



巻頭図版4 グスク時代の遺構 上：Ⅷ地区 掘立柱建物8（東から）  
下：Ⅸ地区 掘立柱建物4（南から）



巻頭図版5 近世～近代の遺構 上：IX地区 SK433（東から） 下：地下塚跡 SX022（南から）



巻頭図版 6 近世～近代の遺構 (IX地区 SX033) 上：遺物出土状況 (南西から) 下：出土遺物

## 例言

- 1 本報告書は、沖縄県宜野湾市字普天間（キャンプ瑞慶覧内）に所在する普天間古集落遺跡における米軍の海軍病院建設に伴う記録保存を目的とした緊急発掘調査の成果をまとめたものである。
- 2 本調査は、沖縄防衛局からの委託を受け、沖縄県立埋蔵文化財センターが平成 22 年度及び平成 23 年度に現地調査、平成 23 ～ 27 年度に資料整理を実施した。
- 3 本報告は平成 22 年度及び平成 23 年度調査分の約 12,700m<sup>2</sup>について行う。
- 4 地図データは、国土地理院の電子国土 Web システムから配信されたものを使用している。
- 5 航空写真は、宜野湾市教育委員会から提供を受けたものに加筆し、使用している。
- 6 本報告で使用している座標は、世界測地系の第 XV 系である。
- 7 土色は、農林水産省農林水産技術会議事務局 監修「新版標準土色帖」を使用した。
- 8 本書の編集は、当センター職員の協力を得て、金城貴子が行った。執筆は次の通りである。  
知念隆博 第 1 章、第 2 章第 2 節、第 3 章第 1 節、第 4 章第 1 節  
金城貴子 第 1 章、第 2 章第 1 節、第 3 章、第 4 章、第 6 章  
又吉幸嗣 第 4 章第 2 節・同第 3 節  
バリノ・サーヴェイ 第 5 章
- 9 本書に掲載された写真撮影は、現地調査状況を新垣力、知念隆博、金城貴子が行い、遺物を矢舟章浩、領家範夫が行った。
- 10 現地調査で得られた遺物、実測図及び写真等の記録は、全て沖縄県立埋蔵文化財センターにて保管している。

# 目次

序	
巻頭図版	
例言	
第1章 調査に至る経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査体制	2
第2章 遺跡の位置と環境	4
第1節 遺跡の立地と地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 調査経過	7
第1節 調査の方法	7
第2節 発掘調査	10
第3節 資料整理作業	12
第4章 調査の成果	13
第1節 基本層序	13
第2節 縄文時代・グスク時代	47
第1項 縄文時代の遺構及び遺構内出土遺物	47
第2項 グスク時代の遺構及び遺構内出土遺物	61
第3項 包含層（Ⅲ層）出土遺物	73
第3節 近世～近代	74
第1項 遺構及び遺構内出土遺物	74
第2項 包含層（Ⅱ層）出土遺物	176
第5章 自然科学分析	178
第6章 総括	189
引用・参考文献	194
報告書抄録	198

## 目次

第1図 沖縄本島の位置	5	第38図 区画26の遺構2 (VII地区)	76
第2図 周辺の遺跡	6	第39図 区画27の遺構1 (VII地区)	77
第3図 グリッド配置図	8	第40図 区画27の遺構2 (VII地区)	78
第4図 壁面図化箇所 (VII・VIII・IX地区)	15	第41図 区画28の遺構1 (VI地区)	80
第5図 VII地区 壁面図1	17	第42図 区画28の遺構2 (VI地区)	81
第6図 VII地区 壁面図2	19	第43図 区画29の遺構1 (VII地区)	82
第7図 VII地区 壁面図1	21	第44図 区画29の遺構2 (VI地区)	83
第8図 VII地区 壁面図2	23	第45図 区画29の遺構3 (VI地区)	84
第9図 IX地区 壁面図1	25	第46図 区画29の遺構4 (VI地区)	85
第10図 IX地区 壁面図2	27	第47図 区画30の遺構1 (VI地区)	89
第11図 IX地区 壁面図3	29	第48図 区画30の遺構2 (VI地区)	90
第12図 調査区全体図 (I~IX地区)	45	第49図 区画30の遺構3 (VI地区)	92
第13図 縄文時代の遺構位置図 (VII~IX地区)	47	第50図 区画31の遺構1 (VII地区)	93
第14図 縄文時代の遺構1 (VII地区)	48	第51図 区画31の遺構2 (VI地区)	94
第15図 縄文時代の遺構2 (VII地区)	49	第52図 区画32の遺構1 (VII・IX地区)	95
第16図 縄文時代の遺構3 (VII地区)	50	第53図 区画32の遺構2 (VI地区)	96
第17図 縄文時代の遺構4 (VII地区)	51	第54図 区画33の遺構1 (IX地区)	99
第18図 縄文時代の遺構5 (VII地区)	52	第55図 区画33の遺構2 (IX地区)	100
第19図 縄文時代の遺構6 (IX地区)	53	第56図 区画33の遺構3 (IX地区)	102
第20図 縄文時代の遺構7 (IX地区)	54	第57図 区画33の遺構4 (IX地区)	103
第21図 縄文時代の遺構8 (IX地区)	55	第58図 区画33の遺構5 (IX地区)	104
第22図 縄文時代の遺構9 (IX地区)	56	第59図 区画34の遺構1 (VII地区)	106
第23図 縄文時代の遺構 出土遺物 (VII・VIII・IX地区)	59	第60図 区画34の遺構2 (VII地区)	107
第24図 グスク時代の遺構位置図 (VII~IX地区)	61	第61図 区画34の遺構3 (VII地区)	108
第25図 グスク時代の遺構1 (VII地区)	62	第62図 VII地区の遺構1 (4地点)	109
第26図 グスク時代の遺構2 (VII地区)	63	第63図 VII地区の遺構2 (4地点)	110
第27図 グスク時代の遺構3 (VII地区)	64	第64図 VII地区の遺構1	111
第28図 グスク時代の遺構4 (IX地区)	65	第65図 VII地区の遺構2	112
第29図 グスク時代の遺構5 (IX地区)	66	第66図 VII地区の遺構3	113
第30図 グスク時代の遺構6 (IX地区)	67	第67図 IX地区の遺構1 (1地点)	116
第31図 グスク時代の遺構7 (IX地区)	68	第68図 IX地区の遺構2 (2地点)	117
第32図 グスク時代の遺構8 (IX地区)	69	第69図 IX地区の遺構3 (2地点)	118
第33図 グスク時代の遺構9 (VII地区)	70	第70図 IX地区の遺構4 (3地点)	119
第34図 グスク時代の遺構 出土遺物 (VII・VIII・IX地区)	72	第71図 IX地区の遺構5 (4地点)	120
第35図 包含層 (III層) 出土遺物	73	第72図 IX地区の遺構6 (4地点)	121
第36図 近世~近代の遺構位置図 (VII~IX地区)	74	第73図 IX地区の遺構7 (5地点)	123
第37図 区画26の遺構1 (VII地区)	75	第74図 IX地区の遺構8 (5地点)	124
		第75図 IX地区の遺構9 (6地点)	126
		第76図 IX地区の遺構10 (6地点)	127

第 77 図	近世～近代の遺構 出土遺物 1 (Ⅶ地区)137
第 78 図	近世～近代の遺構 出土遺物 2 (Ⅶ地区)138
第 79 図	近世～近代の遺構 出土遺物 3 (Ⅶ地区)139
第 80 図	近世～近代の遺構 出土遺物 4 (Ⅶ地区)140
第 81 図	近世～近代の遺構 出土遺物 5 (Ⅶ地区)141
第 82 図	近世～近代の遺構 出土遺物 6 (Ⅶ地区)142
第 83 図	近世～近代の遺構 出土遺物 7 (Ⅶ地区)143
第 84 図	近世～近代の遺構 出土遺物 8 (Ⅶ地区)144
第 85 図	近世～近代の遺構 出土遺物 9 (Ⅶ地区)145

第 86 図	近世～近代の遺構 出土遺物 1 (Ⅶ地区)162
第 87 図	近世～近代の遺構 出土遺物 2 (Ⅶ地区)163
第 88 図	近世～近代の遺構 出土遺物 1 (Ⅸ地区)171
第 89 図	近世～近代の遺構 出土遺物 2 (Ⅸ地区)172
第 90 図	包含層 (Ⅱ層) 出土遺物 …………… 176

## 図版目次

巻頭図版 1	遺構発掘状況	図版 8	Ⅸ地区 壁面 3…………… 43
上：Ⅶ地区 2 地点 (西から)		図版 9	縄文時代の遺構 出土遺物 (Ⅶ・Ⅶ・Ⅸ地区) …………… 60
下：Ⅶ地区 6 地点 (東から)		図版 10	グスク時代の遺構 出土遺物 (Ⅶ・Ⅶ・Ⅸ地区) …………… 72
巻頭図版 2	遺構発掘状況	図版 11	包含層 (Ⅲ層) 出土遺物 …………… 73
上：Ⅸ地区 3 地点 (北から)		図版 12	区画 27 の遺構 1 (Ⅶ地区) …………… 79
下：同 6 地点 (南西から)		図版 13	区画 28 の遺構 1 (Ⅶ地区) …………… 82
巻頭図版 3	縄文時代の遺構	図版 14	区画 29 の遺構 1 (Ⅶ地区) …………… 86
上：Ⅶ地区 SK011 (北から)		図版 15	区画 29 の遺構 2 (Ⅶ地区) …………… 87
下：Ⅸ地区 SK236 (西から)		図版 16	区画 29 の遺構 3 (Ⅶ地区) …………… 88
巻頭図版 4	グスク時代の遺構	図版 17	区画 30 の遺構 1 (Ⅶ地区) …………… 91
上：Ⅶ地区 掘立柱建物 8 (東から)		図版 18	区画 32 の遺構 1 (Ⅶ・Ⅸ地区) …………… 97
下：Ⅸ地区 掘立柱建物 4 (南から)		図版 19	区画 32 の遺構 2 (Ⅸ地区) …………… 98
巻頭図版 5	近世～近代の遺構	図版 20	区画 33 の遺構 1 (Ⅸ地区) …………… 101
上：Ⅸ地区 SK433 (東から)		図版 21	区画 33 の遺構 2 (Ⅸ地区) …………… 105
下：地下壕跡 SX022 (南から)		図版 22	Ⅶ地区の遺構 1 …………… 114
巻頭図版 6	近世～近代の遺構 (Ⅸ地区 SK033)	図版 23	Ⅶ地区の遺構 2 …………… 115
上：遺物出土状況 (南西から)		図版 24	Ⅸ地区の遺構 1 (4 地点) …………… 122
下：出土遺物		図版 25	Ⅸ地区の遺構 2 (5 地点) …………… 125
図版 1	調査箇所と遺跡範囲図……………9	図版 26	Ⅸ地区の遺構 3 (6 地点) …………… 128
図版 2	Ⅶ地区 壁面 1…………… 31	図版 27	近世～近代の遺構 出土遺物 1 (Ⅶ地区) 146
図版 3	Ⅶ地区 壁面 2…………… 33	図版 28	近世～近代の遺構 出土遺物 2 (Ⅶ地区)147
図版 4	Ⅶ地区 壁面 1…………… 35	図版 29	近世～近代の遺構 出土遺物 3 (Ⅶ地区)148
図版 5	Ⅶ地区 壁面 2…………… 37	図版 30	近世～近代の遺構 出土遺物 4 (Ⅶ地区) 149
図版 6	Ⅸ地区 壁面 1…………… 39		
図版 7	Ⅸ地区 壁面 2…………… 41		

図版 31	近世～近代の遺構 出土遺物 5 (VII地区)	150	図版 46	近世～近代の遺構 出土遺物 2 (IX地区)	174
図版 32	近世～近代の遺構 出土遺物 6 (VII地区)	151	図版 47	近世～近代の遺構 出土遺物 3 (IX地区)	175
図版 33	近世～近代の遺構 出土遺物 7 (VII地区)	152	図版 48	包含層 (II層) 出土遺物 (VII・VIII・IX地区)	177
図版 34	近世～近代の遺構 出土遺物 8 (VII地区)	153	図版 49	炭素種実・花粉化石・シダ類胞子・炭化材	186
図版 35	近世～近代の遺構 出土遺物 9 (VII地区)	154	図版 50	植物珪酸体	187
図版 36	近世～近代の遺構 出土遺物 10 (VII地区)	155	図版 51	窯体薄片	188
図版 37	近世～近代の遺構 出土遺物 11 (VII地区)	156	図版 52	昭和 20 年撮影航空写真調査箇所重ね図	196
図版 38	近世～近代の遺構 出土遺物 12 (VII地区)	157			
図版 39	近世～近代の遺構 出土遺物 13 (VII地区)	158			
図版 40	近世～近代の遺構 出土遺物 14 (VII地区)	159			
図版 41	近世～近代の遺構 出土遺物 1 (VIII地区)	164			
図版 42	近世～近代の遺構 出土遺物 2 (VIII地区)	165			
図版 43	近世～近代の遺構 出土遺物 3 (VIII地区)	166			
図版 44	近世～近代の遺構 出土遺物 4 (VIII地区)	167			
図版 45	近世～近代の遺構 出土遺物 1 (IX地区)	173			

## 表目次

第 1 表	縄文時代の遺構 出土遺物観察一覧 (VII・VIII・IX地区)	57	第 7 表	遺構出土遺物観察一覧 (VIII地区) c	131
第 2 表	縄文時代の遺構 遺物出土状況 (VII・VIII・IX地区)	58	第 7 表	遺構出土遺物観察一覧 (VIII地区) d	132
第 3 表	古スク時代の遺構 遺物出土状況 (VII・VIII・IX地区)	71	第 7 表	遺構出土遺物観察一覧 (VIII地区) e	133
第 4 表	古スク時代の遺構 出土遺物観察一覧 (VII・VIII・IX地区) a	71	第 7 表	遺構出土遺物観察一覧 (VIII地区) f	134
第 4 表	古スク時代の遺構 出土遺物観察一覧 (VII・VIII・IX地区) b	72	第 7 表	遺構出土遺物観察一覧 (VIII地区) g	135
第 5 表	包含層 (III層) 遺物出土状況 (VII地区)	73	第 7 表	遺構出土遺物観察一覧 (VIII地区) h	136
第 6 表	包含層 (III層) 出土遺物観察一覧 (VII地区)	73	第 8 表	遺構出土遺物観察一覧 (VIII地区) a	159
第 7 表	遺構出土遺物観察一覧 (VIII地区) a	129	第 8 表	遺構出土遺物観察一覧 (VIII地区) b	160
第 7 表	遺構出土遺物観察一覧 (VIII地区) b	130	第 8 表	遺構出土遺物観察一覧 (VIII地区) c	161
			第 9 表	遺構出土遺物観察一覧 (IX地区) a	168
			第 9 表	遺構出土遺物観察一覧 (IX地区) b	169
			第 9 表	遺構出土遺物観察一覧 (IX地区) c	170
			第 10 表	包含層 (II層) 出土遺物観察一覧 (VII・IX地区)	176
			第 11 表	放射性炭素年代測定結果	181

第12表	暦年較正結果	181
第13表	微細物分析結果	182
第14表	花粉分析結果	182
第15表	植物珪酸体分析・灰像分析結果	183
第16表	遺物出土状況	197

<付属 CD 所収データ一覧>

第18表	近世～近代の遺構 (SD・SK・SL・SP・SX) 及び包含層 (II層) 遺物出土状況 (VI地区)
第19表	近世～近代の遺構 (SD・SK・SP・SE・SL・SX) 及び包含層 (II層) 遺物出土状況 (VII地区)
第20表	近世～近代の遺構 (SD・SK・SL・SP・SX) 及び包含層 (II層) 遺物出土状況 (IX地区)

## 第1章 調査に至る経緯

### 第1節 調査に至る経緯

平成8年12月の沖縄に関する特別行動委員会（SACO）の最終報告にて、キャンプ桑江内の海軍病院をキャンプ瑞慶覧内に移設することが合意され、加えてキャンプ桑江内及びキャンプ瑞慶覧内の米軍住宅を統合し、住宅用地の一部を返還されることも合意された。

海軍病院の移設候補地として、普天満宮西側の米軍住宅地域が挙がった。当地は普天間フィールー丘陵古墓群、普天間グスクンニ一遺跡等の遺跡が確認されていたが、住宅地域については、試掘調査等はなされておらず、未確認の状況であった。そのため、平成10年に沖縄県教育委員会（以下、県教委）により、18箇所試掘調査を行った結果、広く普天間古集落遺跡、普天間石川原遺跡等が広がることが確認された。

それから暫くの間、海軍病院建設に関する調整等はなされず、平成16年に入り沖縄防衛局（当時は那覇防衛施設局、平成19年9月より沖縄防衛局）より平成16年5月12日付けで宜野湾市教育委員会（以下、市教委）へ埋蔵文化財の有無の照会が行われた。市教委から、市の事務規模を超える事案であることから、県教委に依頼したいとの報告があり、県教委は承諾し、その後の調整は県教委と市教委が同席して行うこととなった。平成16年7月27日付けで沖縄防衛局より県教委へ「埋蔵文化財の取扱い等の協議」が届き、平成16年7月30日付けで県教委より試掘調査を実施していくことの回答を行っている。これより試掘調査が開始され、平成16年度は病院本体部分を中心に89箇所調査を行い、平成17年度からは市教委も試掘調査に加わり、県教委が48箇所、市教委が43箇所実施し、周知の埋蔵文化財包蔵地に加え、新たな埋蔵文化財包蔵地も確認した。

しかし、平成16・17年度に実施した試掘調査は病院本体及び関連施設に限定したものであり、その他の施設、造成、給排水施設等の工事による影響を把握できない状況であることが確認された。そのため、平成18年度に海軍病院建設予定地全体の状況を把握するための試掘調査箇所の見直しを行い、その結果、新たに約480箇所の試掘調査が必要となった。平成18年度は県教委が157箇所、市教委が199箇所実施し、全域で周知の埋蔵文化財包蔵地を確認するとともに、新たな埋蔵文化財包蔵地も確認した。

平成19年度の県教委が68箇所試掘調査を実施し、広範囲で周知の埋蔵文化財包蔵地と古墓を確認し、海軍病院建設予定地全域の試掘調査を完了した。

試掘調査により新たに確認された埋蔵文化財包蔵地については、沖縄防衛局が市教委を経由して県教委へ平成19年3月28日付けで遺跡発見通知を提出し、平成19年4月4日付けで、新たに普天間後原第二遺跡、普天間下原第二遺跡が周知の埋蔵文化財包蔵地として取り扱われることとなった。

一方、試掘調査により周知の埋蔵文化財包蔵地が確認されてきたことから、試掘調査完了前に沖縄防衛局、県教委、市教委は病院建設予定地の変更について調整を行った。しかし、変更できないとの沖縄防衛局の見解から、記録保存調査についての調整も行うこととなった。

沖縄防衛局から県教委及び市教委へ、病院本体範囲の記録保存調査について平成18年度及び平成19年度の実施要望があったが、県教委及び市教委は、試掘調査が終了していない段階で記録保存調査の期間及び経費の算出はできないこと、工事設計図と試掘調査結果の調整ができていないこと、広い面積の調査を実施するための体制が整っていないことから平成20年度以降実施する方向で調整を行った。

平成19年度に経費、期間、県教委と市教委の調査範囲分担等を行い、平成20年度に調査実施で

きるように進めていき、平成19年11月20日付けで沖縄防衛局より市教委を経て埋蔵文化財発掘の通知が県教委に届き、平成19年11月29日付けで県教委より市教委を経て沖縄防衛局へ回答を行い、正式に記録保存調査を実施することとなった。

平成20年3月28日付けで、沖縄防衛局、県教委、市教委の3者で「キャンプ瑞慶覧内海軍病院建設予定地区 埋蔵文化財に関する協定書」を交わし、平成20年4月11日付けで沖縄防衛局と沖縄県は発掘調査に関する契約を締結し、平成20年度の調査を実施した。なお、現地における発掘調査にて確認した遺物は、終了後に平成21年4月6日付けで沖縄県立埋蔵文化財センター（以下、県埋文センター）から県教育庁文化課あて報告し、平成21年4月13日付けで県教育長より宜野湾警察署長へ埋蔵文化財発見の通知を行っている。

平成22年度は、平成22年5月31日付けで沖縄防衛局と県教委は契約を締結し、平成22年8月12日より発掘調査を実施した。調査終了後は、平成23年3月30日付けで県埋文センターから県教育庁文化課あて報告し、平成23年3月31日付けで県教育長より宜野湾警察署長へ埋蔵文化財発見の通知を行った。また、平成22年度以降の調査については定められていなかったことから、平成22年3月31日付けで、沖縄防衛局、県教委、市教委の3者で協定書に係る「覚書」を交わし、発掘調査が平成25年度末まで、資料整理が平成27年末まで期間が延長となった。

平成23年度は、平成23年6月1日付けで沖縄防衛局と県教委は契約を締結し、平成23年8月1日から発掘調査を実施した。調査終了後は、平成24年3月16日付けで県埋文センターから県教育庁文化財課あて報告し、平成24年3月19日付けで県教育長より宜野湾警察署長へ埋蔵文化財発見の通知を行った。

その後、平成26年度には、協定書第8条第2項に基づく沖縄防衛局、県教委、市教委の3者による調整を経て、平成26年11月21日付けで「覚書」が締結され、資料整理が平成28年末まで期間が延長となった。

## 第2節 調査体制

本報告の普天間古集落遺跡の発掘調査は、平成22・23年度に現地での発掘作業、平成23～27年度にかけて資料整理及び報告書作成を行った。実施体制は以下のとおりである。

事業主体	沖縄県教育委員会
教育長	金武正八郎（平成22年度）、大城 浩（平成23～24年度）、諸見里 明（平成25～27年度）
事業所管	沖縄県教育庁文化課（平成22年度）、文化財課（平成23～27年度）
課長	大城 慧（平成22年度）、長堂嘉一郎（平成23・24年度）、新垣悦男（平成25年度） 嘉数 卓（参事兼課長：平成26年度）、萩尾俊章（平成27年度）
副参事	島袋 洋（平成23～24年度）
記念物班長	島袋 洋（平成22年度）、盛本 勲（平成23～25年度）、金城亀信（平成26年度、副参事兼班長：平成27年度）
担当	久高 健（指導主事：平成22年度）、上地 博（主任専門員：平成22年度）、田場直樹（指導主事：平成23年度）、長嶺 均（主任専門員：平成23～27年度）、知念隆博（主任専門員：平成26年度）
事業実施	沖縄県立埋蔵文化財センター

所長 守内泰三(平成22年度)、大城 慧(平成23年度)、崎濱文秀(平成24年度)、下地英輝(平成25～27年度)

副参事 島袋 洋(平成25～26年度)、盛本 勲(平成27年度)

総務班長 嘉手苅 勤(平成22年度)、萩堂治邦(平成23～24年度)、新垣勝弘(平成25～27年度)

担当 本永 恵(主査:平成22年度、玉寄秀人(主査:平成22年度)、恩河朝子(主査:平成22～23年度)、西島康二(主査:平成23～25年度)、比嘉 睦(主任:平成26年度、主査:平成27年度)、新里 靖(主査:平成27年度)

調査班長 金城亀信(調査班長:平成22～25年度)、盛本 勲(平成26年度)、上地 博(平成27年度)

担当 知念隆博(主任:平成22～23年度、主任専門員:平成24～25年度)、新垣 力(主任:平成22～23年度)、金城貴子(専門員:平成22～23年度、主任:平成24～27年度)、具志堅清大(専門員(臨任):平成24年度、専門員:平成25～26年度)、又吉幸嗣(専門員(臨任):平成27年度)

文化財調査嘱託員(平成22～27年度)

新垣有一郎、伊藝由希、池原悠貴、井上奈々、岩元さつき、内間真吾、大城 歩、大屋匡史、翁長圭乃子、具志堅清大、幸地千明、崎原盛俊、新屋敷小春、菅原沙香、杉山千曜、瑞慶覧長順、玉城 綾、田村 薫、當山奈央、小橋川里江、仲程勝哉、仲嶺真太、長嶺 優、波木基真、比嘉優子、又吉幸嗣、宮城明恵、宮里知恵、山口こずえ、山城 勝

埋蔵文化財資料整理嘱託員(平成22～27年度)

赤嶺恵子、赤嶺雅子、安里綾子、新垣裕子、新垣利津代、有光綾子、伊藝由希、石橋英子、石嶺敏子、市川里恵、伊藤恵美利、股 倉平、上地由紀子、上原作美、上原園子、小渡直子、萩堂さやか、喜屋武朋子、久貝裕子、具志みどり、久保田有美、幸地麻美、崎原美智子、後田多昌代、城間彩香、城間千鶴子、島袋久美子、平良貴子、高橋弘治、田中章子、玉城照美、玉城実子、玉寄智恵子、知念 愛、津多 恵、津波古彩乃、照屋芳美、當山哲也、徳本加代子、仲里由利、仲宗根めぐみ、仲間文香、中山まり、西原健二、比嘉登美子、比嘉なおみ、東仲千夏、譜久村泰子、又吉志麻子、又吉純子、又吉利文、宮城かの子、宮城友香、目島直美、屋我尚子、矢舟章浩、山川美織、山城美奈、山城由紀子、與儀みなみ、吉村綾子、須家範夫、渡邊愛依

資料整理作業員

下里利美、玉那覇美野、知花香織、桃原りずむ、照屋葉史、屋我尚子、赤嶺恵子、島袋久美子、謝花恵子、仲松安花奈、又吉 淳、宮城綾子

事務補助員 安里綾子、酒井若葉、下地麻利恵、砂川美樹、嵩原美千代、立津尚美、仲村綾乃、名幸さと子、花城咲子、普天間しげ美、安井美和

業務委託 発掘調査支援業務 (株)アーキジオ、(株)イビソク、(株)パスコ  
自然科学分析 バリノ・サーヴェイ(株)

## 調査指導及び協力者（所属等は当時）

福宜田佳男（文化庁文化財部記念物課）、和田敬悟・呉屋義勝・豊里友哉・仲村健・城間肇・森田直哉・伊藤圭（宜野湾市教育委員会）、新垣義夫（普天満宮）、大橋康二（佐賀県立九州陶磁文化館）、堀内秀樹・追川吉生（東京大学埋蔵文化調査室）、樋泉岳二（早稲田大学）、野上建紀（有田町歴史民俗資料館）、渡久地真（中城村教育委員会）、神谷厚昭（金城町石畳研究所）、小林達雄（國學院大学）、成田涼子（豊島区教育委員会）、渡辺芳郎（鹿児島大学）

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 遺跡の立地と地理的環境

海軍病院建設予定地である宜野湾市は、沖縄本島の中部西海岸にあり、北は北谷町、北東は北中城村、東は中城村、東南は西原町、南は浦添市に隣接し、西は東シナ海に面している。総面積は、19.37km<sup>2</sup>で、東西に約6.1km、南北に約5.2kmとやや長方形をなしている。地形をみると、海岸から内陸部に向かって段状を呈しており、標高3～30mの海岸低地、標高30～40mの石灰岩段丘、標高50～90mの石灰岩段丘、標高90m以上の高位段丘の4つの海岸段丘から形成されている。海軍病院建設予定地は第3面に当たる標高50～90mの段丘上に位置し、大半が琉球石灰岩層から成る。この琉球石灰岩の段丘縁には洞穴と湧泉が点在している。本市を流れる河川は、浦添市・西原町との境界に比屋良川、北谷町・北中城村・中城村との境界に普天間川がある。

宜野湾市普天間に位置する海軍病院建設予定地内の標高は約50～90mで、今調査範囲には、普天間古集落遺跡が広がり、またその周辺には、普天満宮洞穴遺跡、普天間後原第二遺跡、普天間下原第二遺跡、普天間石川原遺跡、普天間グスクンニー遺跡、普天間フィールー丘陵古墓群、普天間稲嶺屋取古集落、普天間グスクンニー古墓群など、多くの遺跡が確認されている。

### 第2節 歴史的環境

普天間には、琉球八社の一つである普天満宮及び神宮寺が所在しており、『絵図郷村帳』等に「寺ふてま村」とあり、古くから集落の中心であり、村の名前の由来になっていたことが分かる。琉球王国時代には国王も普天満宮を参詣する行事があり、その際に参道として利用された宜野湾並松は、1932年に一部が国の天然記念物に指定された。

普天間古集落遺跡が所在する字普天間は、当初は中城間切であったが、1671年（康熙10年）に中城間切、北谷間切、浦添間切から13村の分割及び新設した1村を併せて宜野湾間切を新設する際に宜野湾間切に編入された。

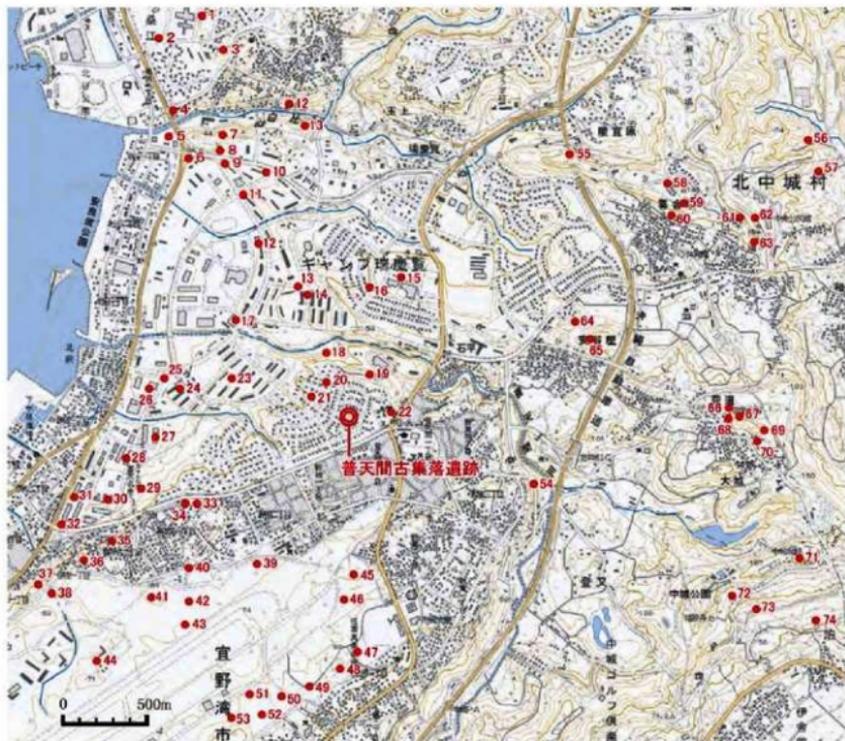
第二次世界大戦前の普天間には、中頭地方事務所、中頭教育会館、農事試験場、郵便局等の官公庁が設置され、また、宜野湾並松は首里・那覇方面と中北部を結ぶ交通の要所地であったため、街道沿いに商店、旅館、飲食店、写真店等が並び中部の政治経済の中心地となっていた。

しかし、第二次世界大戦にて集落は灰塵に帰し、さらに米軍に接収され、現在はキャンプ瑞慶覧として使用され、旧集落の面影は僅かに普天満宮と神宮寺が残っているだけである。

遺跡は普天間古集落遺跡に隣接して、普天間フィールー古墓群、普天間下原第二遺跡、普天間後原第二遺跡、普天間宮洞穴遺跡、普天間グスクンニー遺跡、普天間石川原遺跡がある。米軍基地内ということから、調査を円滑に行うことは難しいが、これまでの調査で、縄文時代から近代までの遺構、遺物が得られている。そのことから、長い間、人々が生活してきたことが明らかとなってきている。



第1図 沖縄本島の位置



この背景地図データは、国土院の電子国土 Web システムから配信されたものである。

### 〈周辺遺跡の凡例〉

- |                   |                 |                |
|-------------------|-----------------|----------------|
| 1. 伊地差久原古墳        | 27. 喜友名下原第三遺跡   | 53. 赤道渡呂原原割穴遺跡 |
| 2. 前原古島 B 遺跡      | 28. 伊佐原第二遺跡     | 54. 野宮ウガヌスカタ遺跡 |
| 3. 前原古島群          | 29. 喜友名下原第一遺跡   | 55. ヒニグスク      |
| 4. 陸ダス            | 30. 伊佐原第一遺跡     | 56. 前田原 B 遺跡   |
| 5. 白北川河口遺物散布地     | 31. 伊佐原第二遺跡     | 57. 前田原 A 遺跡   |
| 6. 北谷寺南址          | 32. 伊佐原第一遺跡     | 58. 甲斐川遺跡      |
| 7. 北谷城遺跡群         | 33. 喜友名貝塚       | 59. 喜舎場上原遺物散布地 |
| 8. 北谷城第 7 遺跡      | 34. 喜友名ダス遺跡     | 60. 喜舎場御前遺物散布地 |
| 9. 堀川原遺跡          | 35. 喜友名前原第一遺跡   | 61. 仲瀬原貝塚      |
| 10. 玉代勢原遺跡        | 36. 伊佐上原遺跡 E 地点 | 62. 仲瀬原遺跡      |
| 11. 長老山遺物散布地      | 37. 大山岳之佐久原第三遺跡 | 63. 仲瀬原遺物散布地   |
| 12. 東表原遺跡         | 38. 大山岳之佐久原第一遺跡 | 64. 若松遺跡       |
| 13. 大瀬原 A 遺跡      | 39. 上原遺跡群       | 65. 安古屋ダス      |
| 14. 大瀬原 B 遺跡      | 40. 喜友名東原スベキ遺跡  | 66. 伏宮貝塚       |
| 15. 伊波川原遺跡        | 41. 喜友名前原第三遺跡   | 67. 大城ダス       |
| 16. 横高原遺跡         | 42. 喜友名東原第三遺跡   | 68. 鉄道遺跡       |
| 17. 樋子原遺跡         | 43. 喜友名東原第二遺跡   | 69. ミーダス       |
| 18. 普通間ダスタンゴー遺跡   | 44. 神山黒敷原古墳群    | 70. 大城遺跡       |
| 19. 普通間フイーター土壁古墳群 | 45. 野馬ダス原遺跡     | 71. 中城城跡       |
| 20. 喜友名下原第二遺跡     | 46. 新成原遺跡       | 72. 古島原遺跡      |
| 21. 普通間石川原遺跡      | 47. 上原原遺跡       | 73. 古島原散布地     |
| 22. 普通間宮窪穴遺跡      | 48. 上原仲北原遺跡     | 74. 泊原散布地      |
| 23. 安仁屋トクシヤマ遺跡    | 49. 仲原原遺跡       |                |
| 24. 新成下原遺跡        | 50. 赤道シキロー流域古基群 |                |
| 25. 新成下原第二遺跡      | 51. 赤道渡呂原原割穴古墳群 |                |
| 26. 安仁屋原遺跡        | 52. 赤道渡呂原原割穴古集落 |                |



第 2 図 周辺の遺跡

## 第3章 調査経過

### 第1節 調査の方法

今回報告を行うのは、平成22～23年度に実施した発掘調査成果のうち、Ⅶ地区～Ⅸ地区についてである。調査範囲は、沖縄防衛局から提示された病院本体部分の工事範囲に基づき、平成22年度はⅦ地区及びⅧ地区、平成23年度はⅧ地区及びⅨ地区を設定した。

グリッドは、試掘調査時に当てはめたものを本調査でも使用した。設定方法は、普天間飛行場内の調査で設定されているグリッドを延長し、新たにグリッド番号を追加した。基本となる座標（X：31,000、Y：26,500 日本測地系）は世界測地系への移行前に設定されたため、日本測地系となっている。グリッドは第Ⅰ区画、第Ⅱ区画の2段階に分けており、第Ⅰ区画を300mメッシュ、第Ⅱ区画を20mメッシュで区切っている。第Ⅰ区画はキャンプ瑞慶覧の宜野湾市区域を1～33に分割設定し、第Ⅱ区画はさらに細かく東から西へ1～15、北から南へA～Oを設定している。グリッドの名称は、第Ⅰ区画、第Ⅱ区画を組合せ、15-A 1、16-F14等としており、今回調査の第Ⅰ区画は14及び15となっている。

調査は初めに、磁気探査と表土掘削を行った。磁気探査は、水平探査を実施した結果、調査範囲全域に異常点が確認され、確認探査はⅦ・Ⅷ・Ⅸ地区を合わせて1260点にも及んだ。確認探査時の掘削により、米軍住宅建設時の埋設管等が地下に縦横に広がることが分かり、埋設管等設置時の掘削による攪乱が広がることを確認した。表土掘削は、重機により行い、攪乱土、造成土及び近世～近代の遺物包含層までを掘削した。

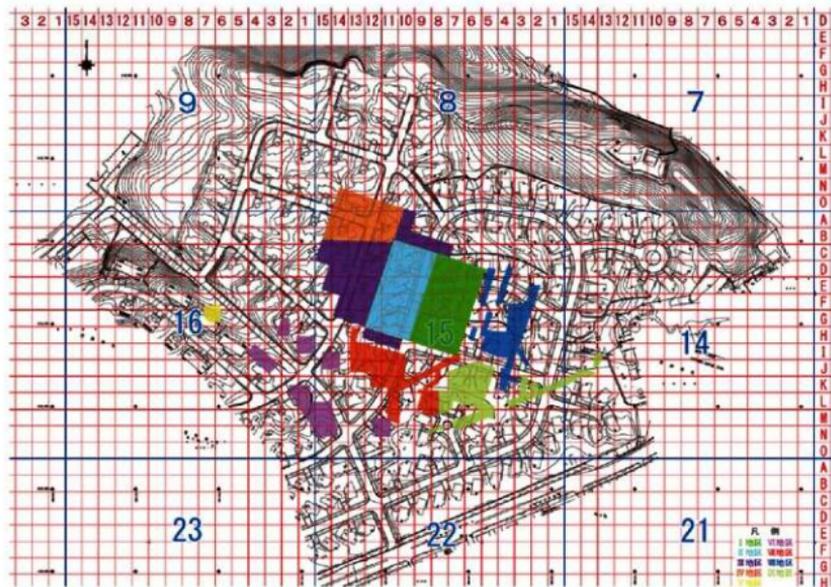
表土掘削後は、作業員の手作業による包含層掘削と遺構検出に移り、高所作業車からの遺構検出写真撮影後に検出された遺構の調査を行った。調査の工程については、調査面積が広大であること、さらに平成21年度からは、病院本体（昨年度調査範囲）の建設工事が着手され、工事と発掘調査が同時並行で進められることになったため、安全管理の面から沖縄防衛局及び工事請負業者との調整の上、調査区を便宜的に分割して調査を行った。Ⅶ地区は、1～7地点、Ⅷ地区及びⅨ地区については1～6地点に分割した。遺構個々の調査は規模や時期に合わせ、半載や4分割による調査を行った。本遺跡では、遺構数が多かったため、検出時及び完掘状況の平面図作成は測量機器を用いて行い、断面図作成は基本的に人手により行った。人手による実測より効率が良いと考えられる場合は、写真測量も実施した。

写真撮影は遺構個々の検出状況及び完掘状況を白黒フィルム、カラーリバーサルフィルム、デジタルカメラを用いて行い、高所作業車を使用しての遺構検出状況及び完掘状況を撮影した。

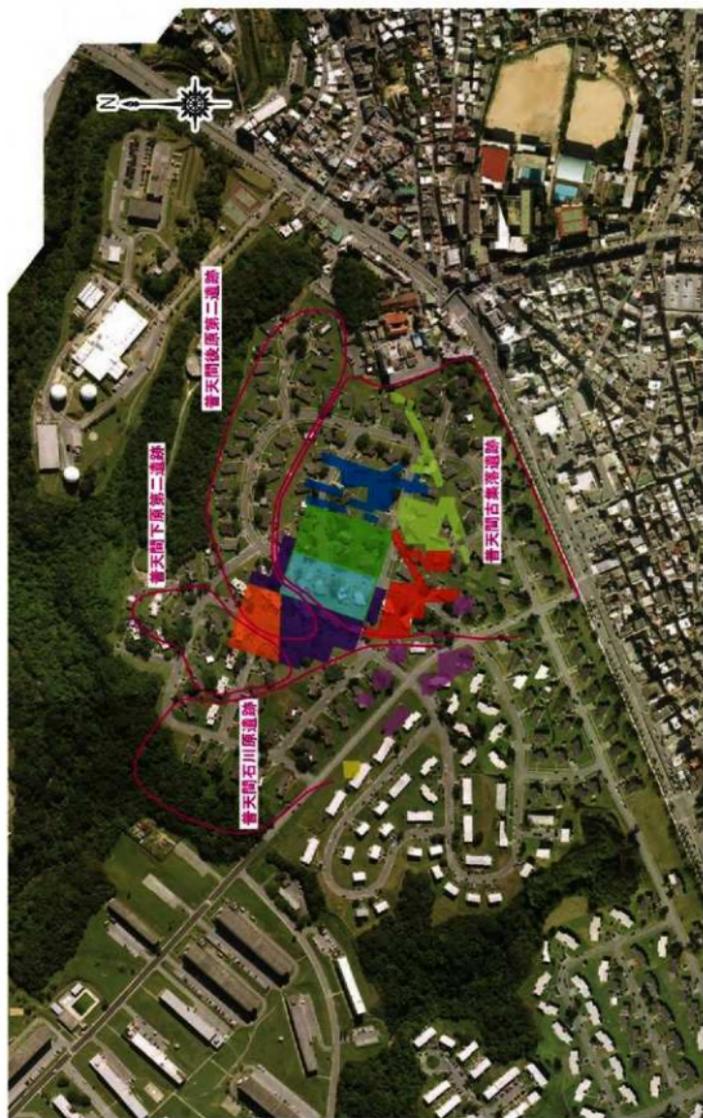


第 I 区画 : 300mメッシュ

第 II 区画 : 20mメッシュ



第 3 図 グリッド配置図



図版 1 調査箇所之遺跡範囲図

## 第2節 発掘調査

Ⅶ地区～Ⅸ地区の発掘調査経過について、地区別にまとめる。

(Ⅶ地区)

発掘作業は平成22年8月30日から平成23年3月29日まで行った。調査は、1地点：15・H11～13、同J11～13、同K11・12、2地点：同G12・13、同H13、同I10～13、3地点：同J10・11、同K10・11、4地点：同L10・11、同M10・11、5地点：同L8・9、同M8・9、6地点：同J8、同K8・9、7地点：同J7～9、同K9・10の7つの地点に分けて実施した。調査面積は4,500㎡である。経過については以下に概略を記す。

平成22年

8月：30日より調査予定地周辺に基準点を設置し、調査区の位置出し作業を行った。

9月：水道及び仮設事務所設置を行う等の現場環境整備を進めるとともに、地中の不発弾有無確認のための磁気探査を1地点から行い、危険物がないと判断できた箇所より重機を使用して表土掘削を開始した。そして、表土掘削が終わった箇所から人力による調査区壁面清掃作業及び遺構検出作業に取り掛かった。

10月：13日に高所作業車による1地点の遺構検出写真撮影を行った。その後、検出した遺構の掘下げを進めるとともに、2地点の磁気探査に取り掛かった。

11月：1地点の遺構掘削を進めるとともに、2地点の表土掘削を開始した。そして、表土掘削が終わった箇所から、人力による調査区壁面清掃作業及び遺構検出作業に取り掛かった。

12月：9日には高所作業車を使用して2地点の遺構検出写真撮影を行い、翌日からは1地点と並行して、2地点における遺構掘削に取り掛かった。その後、14日に高所作業車を使用して、1地点の遺構完掘写真撮影を行った。その後、3地点での磁気探査に取り掛かり、翌日からは同地点において、危険物がないと判断できた箇所より表土掘削を開始し、年内の作業を終了した。

平成23年

1月：引き続き、2地点は遺構掘削を行い、3地点は調査区壁面清掃作業及び遺構検出作業に取り掛かった。さらに4地点の磁気探査に取り掛かった後、並行して5地点及び6地点磁気探査を実施した。14日に高所作業車を使用して、2地点の遺構完掘写真撮影を行った後、4地点では表土掘削及び人力による掘削を開始した。さらに7地点の磁気探査にも取り掛かり、18日には3地点における遺構検出写真撮影を行った。その翌日からは、同地点における遺構掘削を実施するとともに、4地点では、遺構のまとめりごとで検出写真を撮影した。さらに2地点北西部では、Ⅲ層の広がり確認されたため、Ⅲ層の確認調査を行った。続けて、5地点及び6地点の表土掘削とともに4地点の遺構掘削を開始した。

2月：3地点では引き続き遺構掘削、さらに7地点では表土掘削を開始した。9日に高所作業車を使用して3地点の遺構完掘写真撮影を行い、その後、2地点の東側で確認されたⅢ層の確認掘削も並行して取り掛かった。25日には高所作業車を使用して、5地点の遺構検出写真撮影、さらに28日には6地点の遺構検出写真撮影を行った。

3月：5地点に続いて6地点の遺構掘削に取り掛かり、4日には4地点及び6地点の遺構完掘写真撮影と7地点の遺構検出撮影を高所作業車を使用して実施した。その後、7地点の遺構掘削に取り掛かり、18日には5地点及び7地点の遺構完掘写真を高所作業車を使用して実施した。22日より平面測量等の記録作業を行い、29日に現場撤収をもって、調査完了となった。

#### (Ⅷ地区)

発掘作業は平成23年8月1日から平成24年2月16日まで行った。調査は、1地点：15-D・E 5、同F 5・6、2地点：同G・H 6、3地点：同D 4、同E 4・5、同F 4・5、4地点：同F 5、同G 5・6、同H 5・6、5地点：同E 2・3、同F 3・4、同G 3・4、同H 3～5、同I 3～6、同J 3・4、同K 3・4の6つの地点に分けて実施した。調査面積は3,800㎡である。経過については以下に概略を記す。

#### 平成23年

- 8月：事前に調査区の境界測量や磁気探査を実施し、1地点及び2地点の表土掘削を開始した。また、水道及び仮設事務所設置を行う等の現場環境整備も進め、17日からは、表土掘削が終わった箇所について人力による調査区壁面清掃作業及び遺構検出作業に取り掛かった。24日には高所作業車を使用して1地点及び2地点の遺構検出写真撮影を実施し、その後、遺構掘削に取り掛かった。並行して、3地点及び4地点の表土掘削を開始した。
- 9月：2日に高所作業車を使用して、1地点及び2地点の遺構検出写真撮影を行った。その後、3地点に続き4地点において、表土掘削が終わった箇所から人力による遺構検出作業に取り掛かり、8日には高所作業車による両地点の遺構検出写真撮影を行った。その翌日からは両地点の遺構掘削を開始した。
- 10月：引き続き3地点及び4地点の遺構掘削を行い、7日には高所作業車を使用して遺構検出写真撮影を実施した。その後、5地点の表土掘削、人力による調査区壁面清掃作業及び遺構検出作業に取り掛かり、19日には遺構検出写真撮影を高所作業車を使用して行った。そしてその翌日から同地点の遺構掘削を開始した。
- 11月：引き続き5地点の遺構の掘削を進めるとともに、6地点における磁気探査を実施した。
- 12月：5地点の遺構掘削が終わり、2日に高所作業車を使用して遺構検出写真を撮影した。その後、6地点の表土掘削、人力による調査区壁面清掃作業及び遺構検出作業に取り掛かり、22日には遺構検出写真を撮影した。その後は同地点の遺構掘削に取り掛かったところで年内の作業を終了した。

#### 平成24年

- 1月：引き続き6地点の遺構掘削を行った。
- 2月：SX022（地下壕跡）の確認調査を残し、10日に高所作業車を使用して6地点の遺構検出写真撮影を行った。その後、SX022の掘削及び、その他遺構の平面測量等の記録作業を行い、17日に現場撤収をもって、調査完了となった。

#### (Ⅸ地区)

発掘作業は平成23年8月8日から平成24年3月12日まで行った。調査は、1地点：14-I・J14、2地点：同J14・15、同K14・15、15-K 1・2、3地点：15-K 2・3、同L 2～4、4地区：15-L 5、同M 5～7、同N 6・7、5地区：15-M 8・9、同N 8・9、6地区：15-J 5～7、同K 5～7、同L 5～8、同M 8の6つの地点に分けて実施した。調査面積は4,400㎡である。経過については以下に概略を記す。

#### 平成23年

- 8月：調査予定地周辺に基準点を設置し、調査区の位置出し作業を実施した。また、水道及び仮設事務所設置を行う等の現場環境整備を進めるとともに1地点及び2地点の磁気探査を行った。その後、危険物がないと判断できた箇所から重機を使用して表土掘削を開始し、掘削が

終わった箇所より人力による調査区壁面清掃作業及び遺構検出作業に取り掛かった。後半以降、3地点の磁気探査を開始した。

9月：6日には高所作業車を使用して、1地点及び2地点の遺構検出写真撮影を行った。その後、1地点から遺構掘削を開始し、続けて2地点の遺構掘削作業に取り掛かった。これらの作業と並行して3地点の重機による表土掘削、4地点及び5地点の磁気探査及び表土掘削を開始した。21日には、高所作業車を使用して1地点の遺構完掘写真撮影及び3地点の遺構検出写真撮影を行った。

10月：3地点の遺構掘削に取り掛かった。14日には2地点の遺構完掘写真撮影を実施した。

11月：引き続き、3地点の遺構掘削を進めるとともに、4地点の調査区壁面清掃作業及び遺構検出作業を行った。そして17日には4地点の遺構検出写真、18日には3地点の遺構完掘写真の撮影を高所作業車を使用して行った。21日からは4地点の遺構掘削作業と並行して、5地点の表土掘削、調査区壁面清掃作業及び遺構検出作業を行い、25日には遺構検出写真撮影を行った。また、6地点の磁気探査を実施し、後半以降は表土掘削を開始した。

12月：4地点に続き、5地点における遺構掘削に取り掛かった。6地点では表土掘削と並行して遺構検出作業を実施した。4地点の遺構完掘写真撮影、20日には6地点の東側（6-1地点）の遺構検出写真撮影、27日には5地点の遺構完掘写真撮影を実施した。その後、6-1地点の遺構掘削に取り掛かったところで年内の作業を終了した。

#### 平成24年

1月：6-1地点では遺構掘削、6地点西側（6-2・3地点）は磁気探査及び表土掘削を開始した。

20日には、高所作業車を使用して6-1地点の遺構完掘写真撮影を行った。その後は6-2・3地点の遺構検出作業に取り掛かった。

2月：1日に高所作業車を使用して、6-2・3地点の遺構検出写真を撮影し、その翌日から遺構掘削を開始した。

3月：1日に高所作業車を使用して遺構完掘写真撮影を行った。その後、大型遺構の断割り作業及び記録作成、測量作業等を行い、12日に現場撤収をもって、調査完了となった。

### 第3節 資料整理作業

資料整理は平成23年度から実施した。まず出土遺物の洗浄から始め、平成24年度からは注記等を中心に進めた。続いて平成25年度より、遺物の分類、接合作業、実測用遺物の抜出しを行い、平成26～27年度に実測図の作成、トレース、写真撮影等を行った。

これらの作業と並行して、遺構図等のトレースを進めた後、発掘現場で撮影した写真と併せてレイアウト作成を行った。本報告書で報告体対象となるⅦ～Ⅸ地区については、発掘調査によって見つかった遺構数も多く、また密な箇所も多かったため、他の遺構との関連に注意しながら検討する必要があった。また、遺構とともに、出土した遺物の量も膨大に及んだため、整理には多くの時間を要した。

平成27年度は、原稿執筆及び報告書全体のレイアウトを完成させた後に、指名競争入札により落札した印刷業者と契約を行い、本調査報告書を刊行した。

## 第4章 調査の成果

### 第1節 基本層序

今調査における層序は、基本的に平成20年度瑞慶覧病院地区に係る文化財発掘調査成果に基づく層序を踏襲している。以下に調査区別に土層の堆積状況について報告する。

#### 層序

- I層：表土・造成土。沖繩戦中に米軍に接収され、造成されたときの層。調査区全体に広がる。層中に土器、石器、中国産陶磁器、沖繩産陶器等の多種多様な遺物を含む。このことから、普天間ハウジング建築の際に敷地内から土砂が集められ造成されたものと考えられる。
- II層：暗褐色砂質土（10YR3/4）で、米軍接収以前の耕作土及び地表面と思われる。近世～近代の遺物を含み、調査区全体に広がる。数層に細分可能である。層中に沖繩産陶器を中心として、本土産陶磁器、中国産陶磁器等を含む。この層の中、又は地山（島尻マージ）及びIII層との境に近世～近代の遺構が確認できる。土色が灰オリーブ色及び暗オリーブ色の箇所もある。
- III-a層：黒褐色砂質シルト（10YR3/2）で、迫地地形に該当する箇所に部分的に分布する。数層に細分可能で、上方から下方へと粘りが強くなり、中に3～5mmの炭化物、焼土、黄褐色土粒を含む。一部では水分、マンガン及び鉄分の影響により色調が変化している。全体的に根跡若しくは貫入があり、その中には褐灰色の土が入る。遺物はグスク土器、石器を確認している。
- III-b層：黒褐色砂質シルト（10YR2/3）で、III-a層とIII-c層より明るく、区別ができる。III-a層と同様の分布であり、中に3～5mmの炭化物、焼土、黄褐色土粒を含む。III-a層より粘性が強い。
- III-c層：暗褐色砂質シルト（10YR3/4）で、III-a層と同様の分布である。上方から下方へと粘りが強くなると共に砂質も強くなる。層中にマンガンを含む。根跡若しくは貫入に入っている土は、上方は褐灰色と黄褐色が混ざるが、下方にいくに従い黄褐色が強くなり、最後は黄褐色土のみとなる。
- IV層：地山。褐色シルト（10YR4/4）又は暗褐色シルト（10YR3/4）で、粘性が強い層と砂質が強い層に分けることができる。全体的にマンガンを含む。基盤の琉球石灰岩に接する箇所は、他の部分より黒味が強く、暗褐色を呈する。多くの遺構は、I～III層とこの層の境で確認されている。

#### Ⅶ地区

本調査区の土層の堆積状況については、2～5及び7地点の北壁、南壁、東壁における堆積状況を示す（第4図）。

本調査区は全体的に大きく攪乱を受けているものの、Ⅰ～Ⅳ層まで確認された。Ⅱ層は1～7地点の調査区全体に広がり、南～東側で厚く堆積している状況が確認された。層厚は約20～60cmである。Ⅲ層は2、3、7地点及び5地点の一部で確認された。15-G・H13、I-10・11、J-10・11、K-10、L-8グリッド周辺に広がりを見せる。層厚は15cm～60cmあり、特に2地点北西部15-G・H13グリッドでは60cmの厚さがあるなど、調査区北側で厚く堆積している（第5～6図）。また、Ⅲ層の分布がみられる周辺はグスク時代と考えられるピットが検出されている。

地形的には、Ⅳ層の地山の検出レベル高より、調査区の北側はやや低く、南側にかけてやや高くなる状況がうかがえる。

#### Ⅷ地区

本調査区の土層の堆積状況については、5～6地点の北壁及び東壁における堆積状況を示す（第4図）。

本調査区においても、Ⅶ、Ⅸ地区同様に全体的に大きく攪乱を受けている状況が確認された。層序はⅠ、Ⅱ、Ⅳ層が確認されている。Ⅱ層は1～6地点の調査区全体に広がりを見せるが、造成等によって大きく削られ、層厚は約10～30cmである。6地点の北側の一部では60cmの堆積がみられる箇所もある。なお、本調査区ではⅢ層は確認されていない（第7～8図）。地形的にはほぼ平坦といえる。

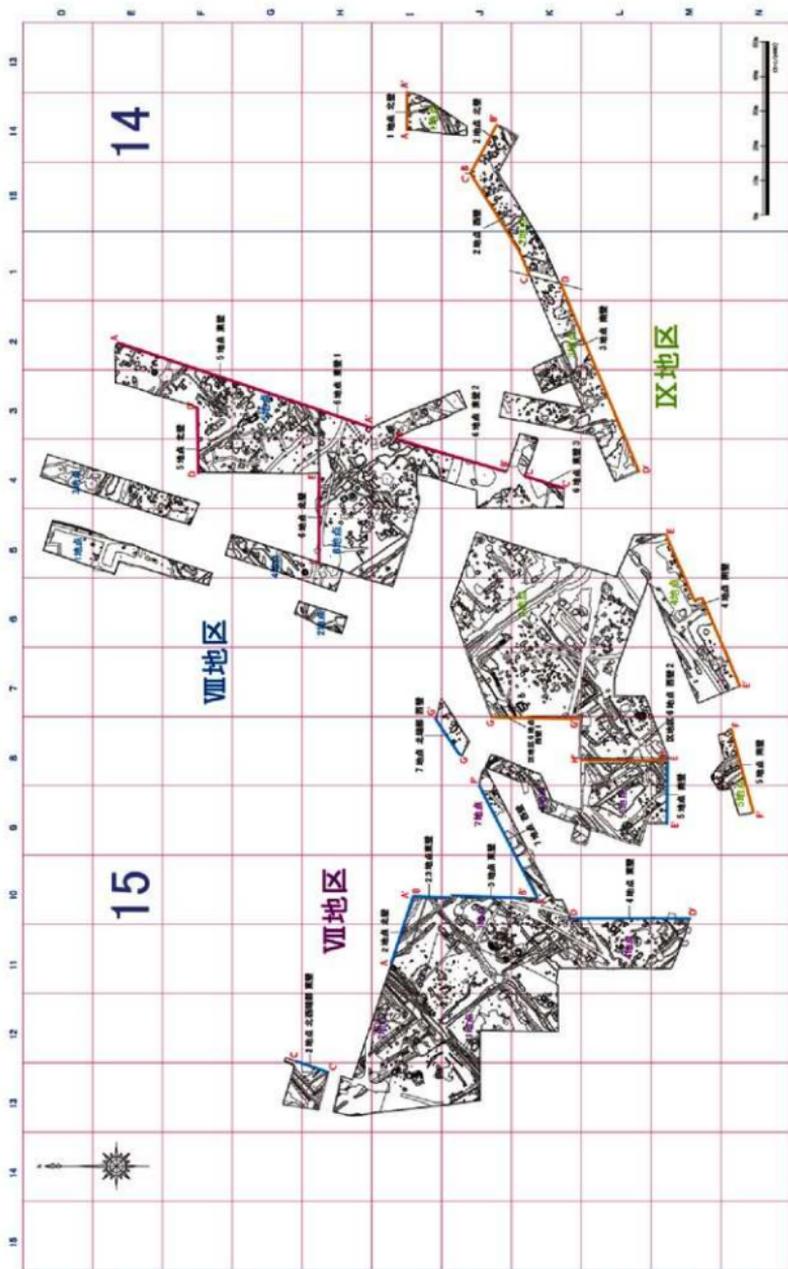
#### Ⅸ地区

本調査区の土層の堆積状況については、1～6地点の北壁、南壁、西壁における堆積状況を示す（第4図）。

本調査区においても、Ⅶ、Ⅷ地区同様に全体的に大きく攪乱を受けている状況が確認された。中でも3地点西側と6地点西側ではⅠ層が厚い。層序はⅠ～Ⅳ層を確認している。

Ⅱ層は1～6地点の調査区全体に広がり、層厚は約15～60cmである。1地点の北壁で最も厚く堆積している。Ⅲ層は3地点及び6地点で確認され、15-L 2～4、8、J・K 7グリッド周辺に広がりをみせる。層厚は約10～70cmあり、中でも3地点南壁にて70cmの堆積が確認される（第9～11図）。

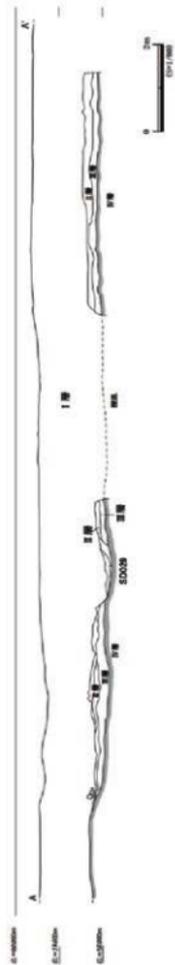
地形的には、調査区の東側が高く、西側にかけて徐々に低くなる状況がうかがえる。



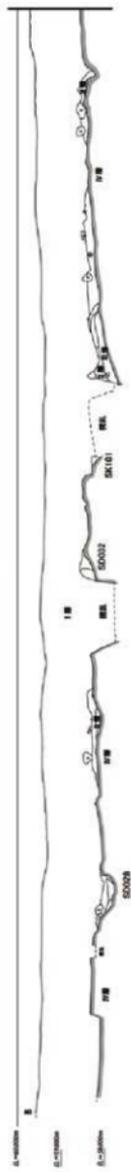
第4图 建筑工业化设计 (VIII·IX·X地区)



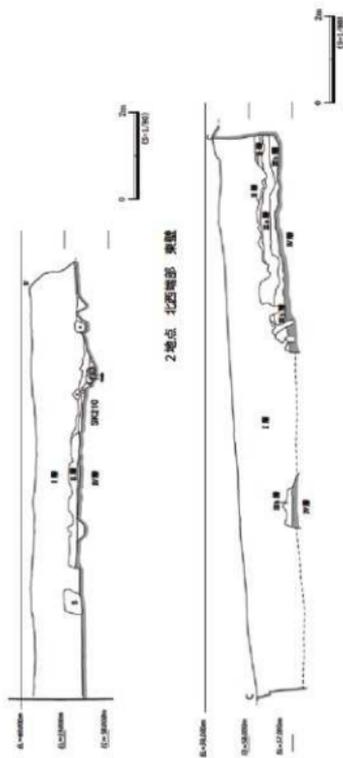
2地点 北壁



2・3地点 東壁



2地点 北西角部 東壁





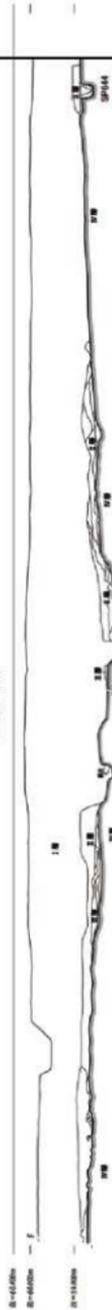
4地点 東壁



5地点 南壁



7地点 西壁

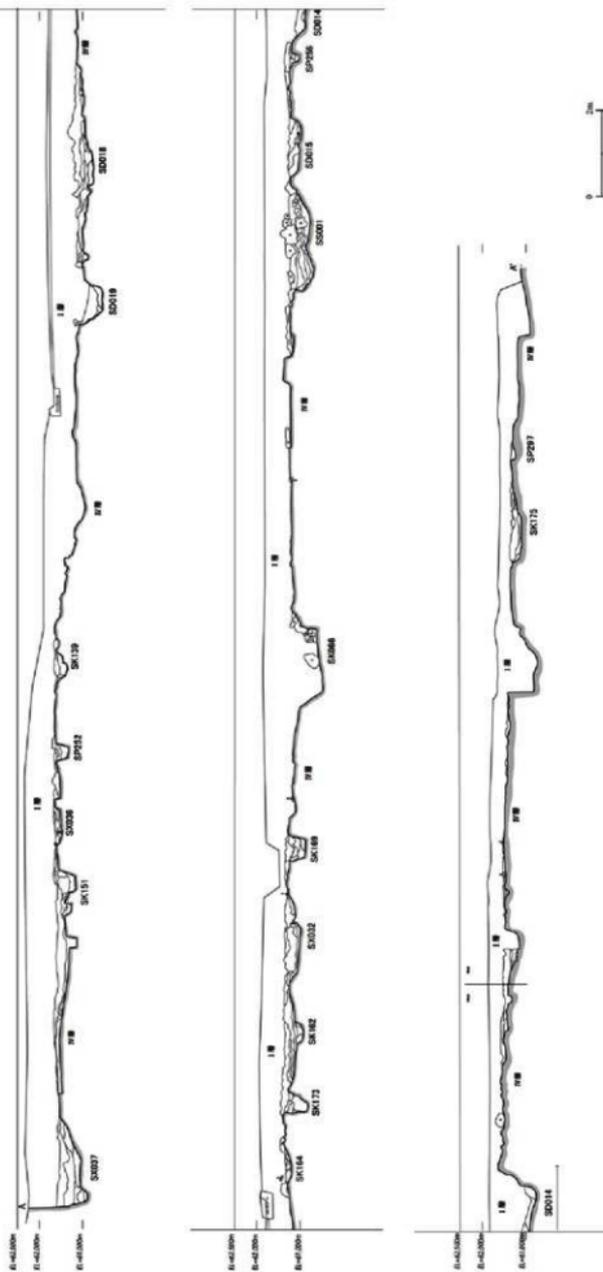


7地点 北側部 西壁



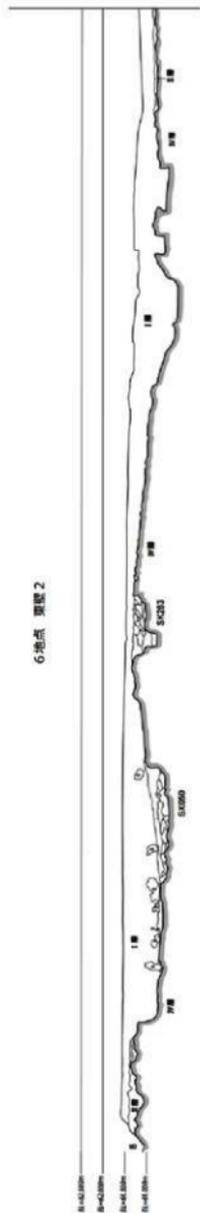


5・6地区 測量





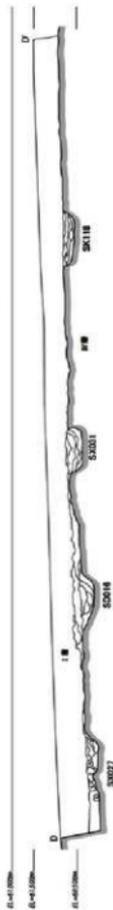
6地点 断面2



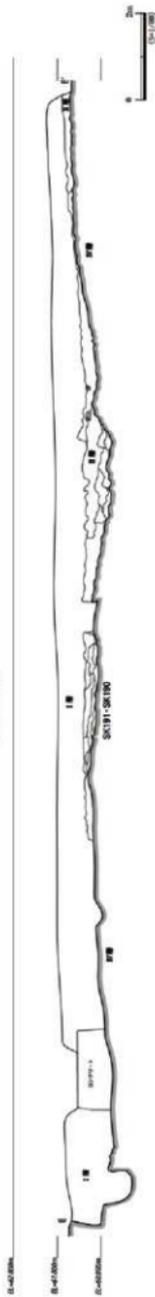
6地点 断面3



5地点 北壁



6地点 北壁



第8回 VII地区 断面図2



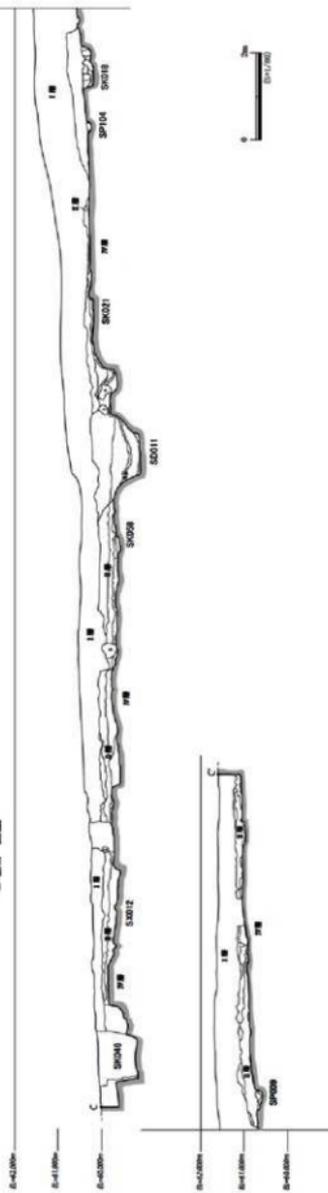
1地点 北壁



2地点 北壁



2地点 西壁





3 地区 南壁

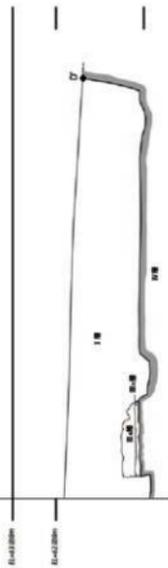
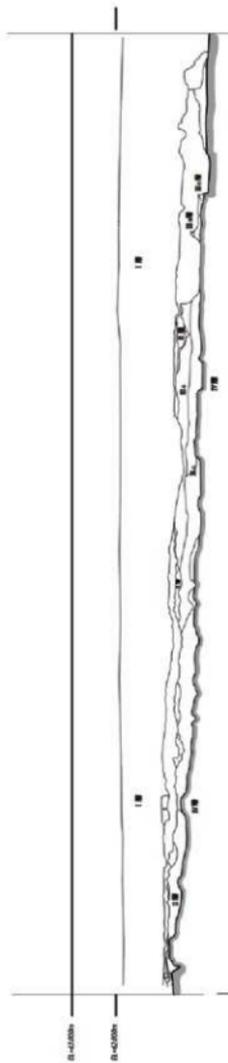
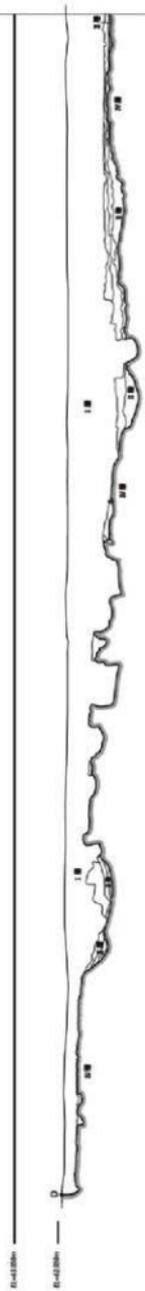
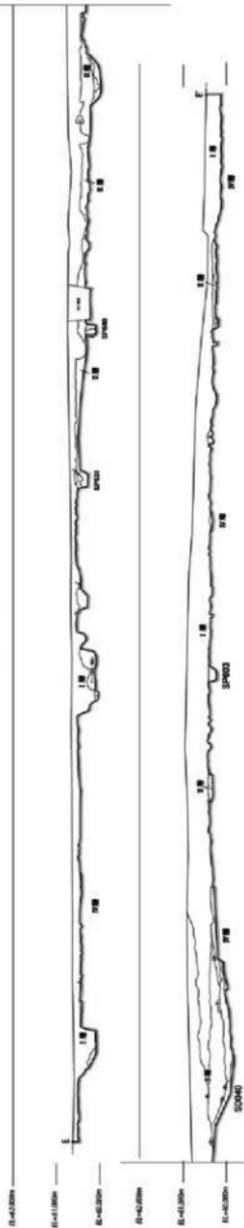


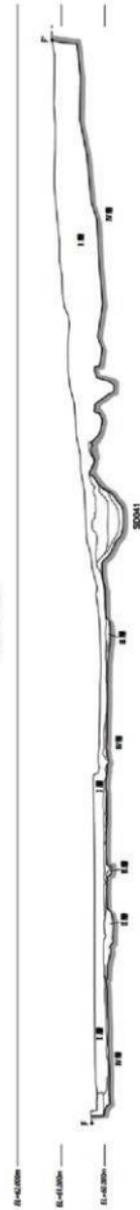
图 10 ⅠX 地区 南壁图 2



4地点 南壁



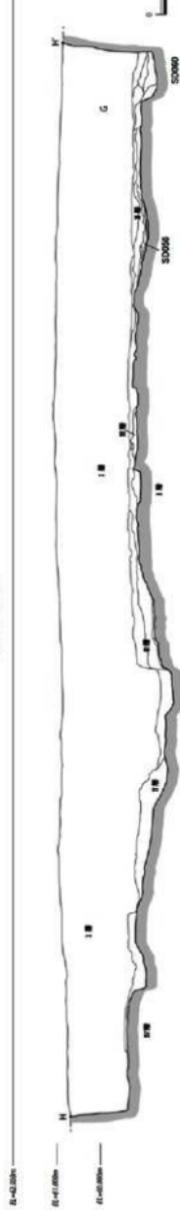
5地点 南壁



6地点 西壁1



6地点 西壁2







2地点 北塚1 (西側から)



2地点 北西側部 溝壁 (西側から)



2地点 北塚2 (南側から)



3地点 溝壁 (西側から)



図版2 V地区 溝壁1





4地点 南塚 (北から)



5地点 南塚 (北から)



5地点 南塚 (北から)



7地点 高塚 (北から)



図版3 V10地区 掘削2





S地点 北壁 (南から)



S地点 東壁 (南から)



図版4 VHS区 壁面1





6地点 北壁 (南から)



6地点 東壁 (南から)



図版 5 Ⅷ-145K 断面 2





1地点 北壁 (南から)



2地点 北壁 (南から)



2地点 北壁2 (南から)



5地点 南壁 (北から)







3地点 雨壁（北から）



4地点 雨壁（北から）



図版7 Ⅱ地区 断面2





6-1地点 西壁 (奥から)



6-2地点 西壁 (奥から)





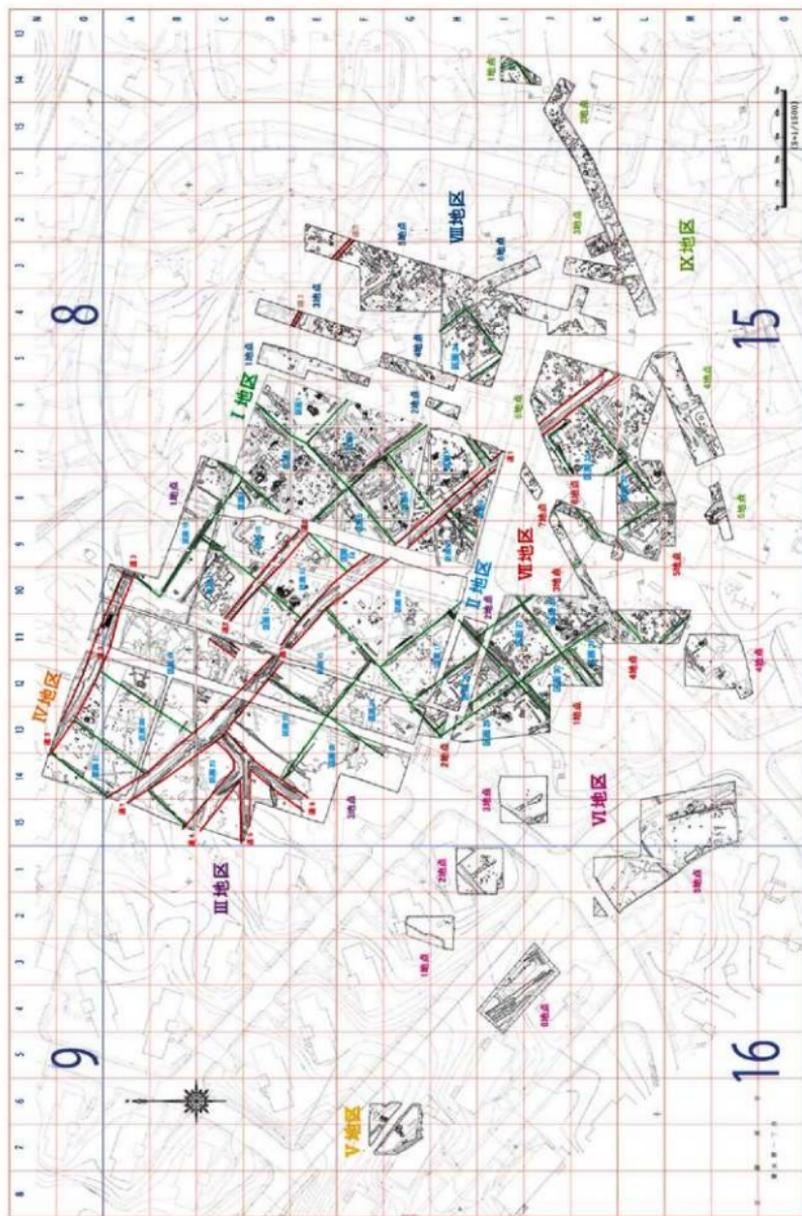


图 12 图 青海省全图 (I~VI地区)



## 第2節 縄文時代・グスク時代

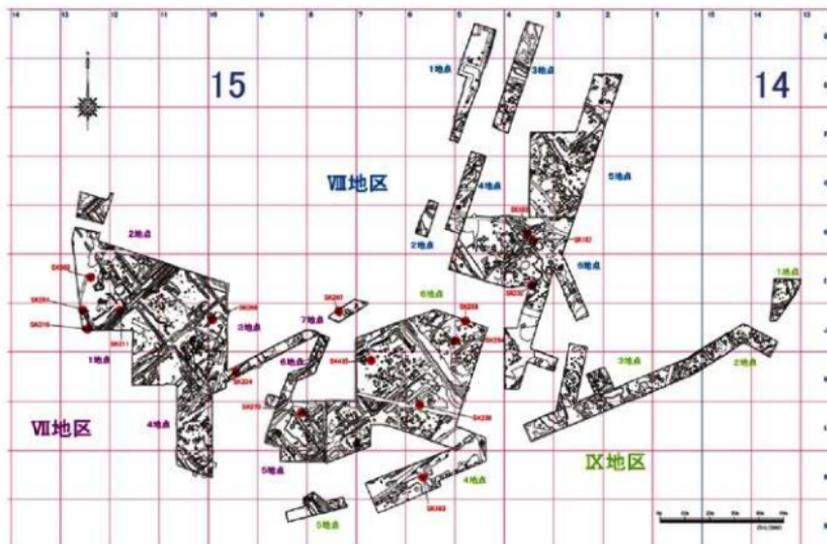
調査箇所となったⅦ・Ⅷ・Ⅸ地区は、普天間古集落遺跡の範囲内に位置する（図版1）。発掘調査の結果、縄文時代、グスク時代、近世～近代の遺構が確認された。以下に、遺構及び遺構内出土遺物、包含層出土遺物について時代別にまとめる。

### 第1項 縄文時代の遺構及び遺構内出土遺物

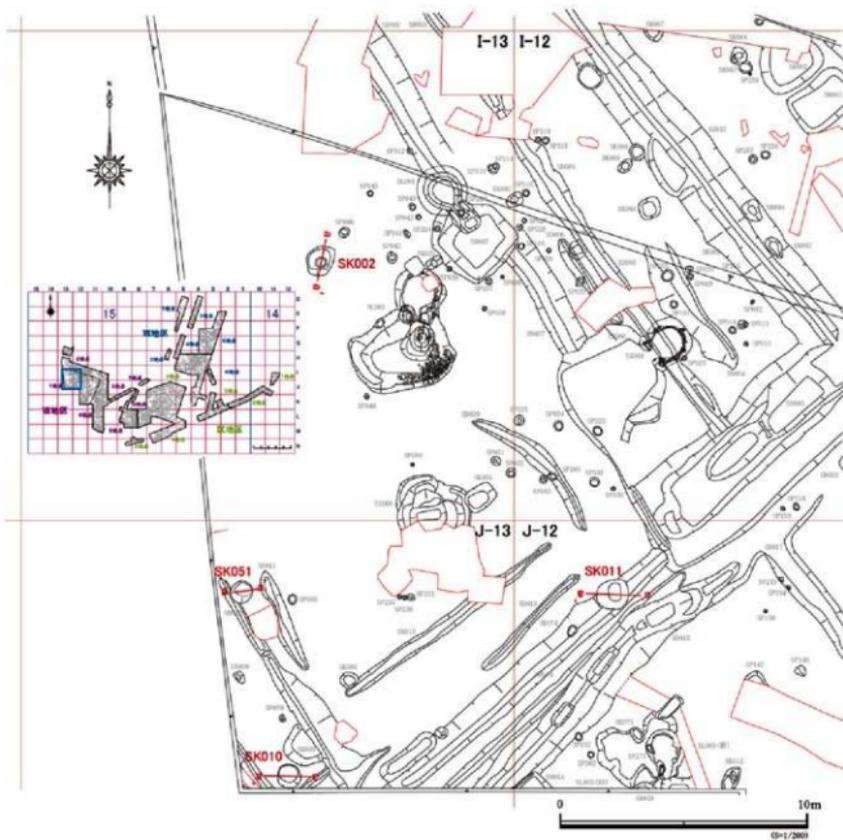
#### a 遺構

縄文時代の遺構と考えられる遺構は、Ⅶ～Ⅸ地区の各地区で確認されている。そのほとんどがマージを掘り込んだ土坑である。深いもので200cm以上掘り込まれたものもあり、下部は岩盤まで達するものもある。これらの遺構の埋土は、炭粒や焼土粒を含む暗褐色砂質シルトを呈するという特徴がみられる。以下、地区別にまとめる。

Ⅶ地区では、9基の土坑が確認された。このうちSK002、SK010、SK011、SK051（1地点）、SK098（3地点）、SK297（7地点）の6基について報告する。そのほとんどが地山のマージを掘り込み、深く落ち込む形状を呈する。SK002は深さ約90cmで、土器や砂岩を含む。SK010は深さが約70cm、方形に掘り込まれている。SK011は深さ約90cm、土器が出土している。SK051は深さが約60cmあり、掘り込みは岩盤まで達する。SK098は逆三角形形状にすぼまりつつ、さらに下部にかけてはフラスコ状の広がりを呈し、岩盤まで達する。SK297は深さ約165cmで、暗褐色砂質シルト層とマージブロック層が交互に堆積している。



第13図 縄文時代の遺構位置図（Ⅶ～Ⅸ地区）

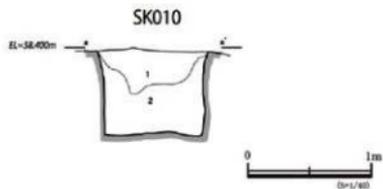


- 1層 褐色土 粘質シルト、炭を含む。
- 2層 褐色土 粘質シルト、焼土、炭を含む。
- 3層 褐色土 粘質シルト、赤土ブロックを含む。
- 4層 褐色土 粘質シルト、赤土ブロックを含む。
- 5層 褐色土 粘質シルト、赤土ブロック、炭を含む。
- 6層 褐色土 粘質シルト。



SK002 断面 (西から)

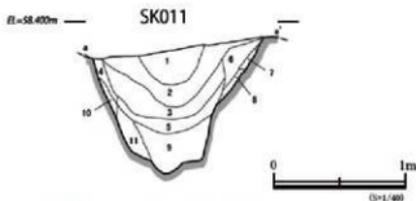
第14図 縄文時代の遺構1 (VI地区)



- 1層 暗褐色土 砂質シルト、炭土、褐色土を含む。  
2層 暗褐色土 粘質シルト、褐色土を含む。



SK010 断面（北から）



- 1層 黒褐色土 粘質シルト、炭、炭土、暗赤褐色土を含む。  
2層 暗褐色土 粘質シルト、炭、炭土を含む。  
3層 暗褐色土 粘質シルト、炭、炭土を含む。  
4層 褐色土 粘質シルト、炭を含む。  
5層 暗褐色土 粘質シルト。  
6層 暗褐色土 粘質シルト、炭、炭土を含む。  
7層 褐色土 粘質シルト。  
8層 褐色土 粘質シルト。  
9層 暗褐色土 粘質シルト、炭を含む。  
10層 褐色土 粘質シルト。  
11層 褐色土 粘質シルト、赤土ブロックを含む。

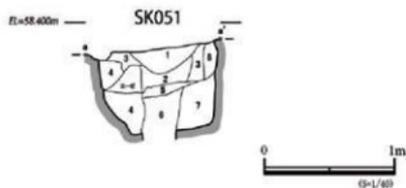


SK011 断面（北から）

SK011からは、比較的残りの良い状態で土器が出土した。口縁部形態より、室川式土器と考えられる（第23図2）。

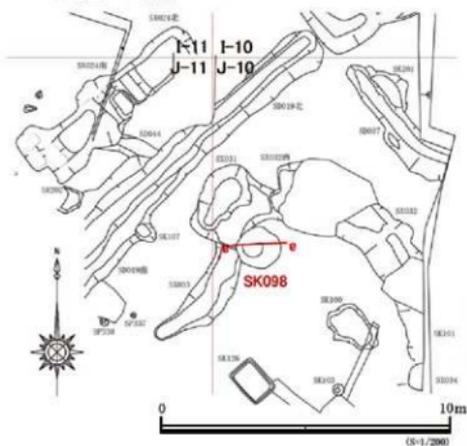


SK011 土器検出状況（北から）



SK051 断面（南東から）

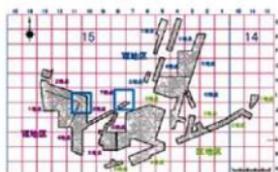
Ⅶ地区 3地点



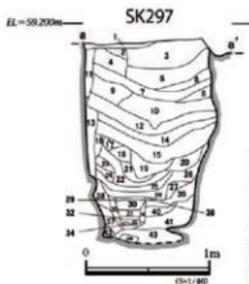
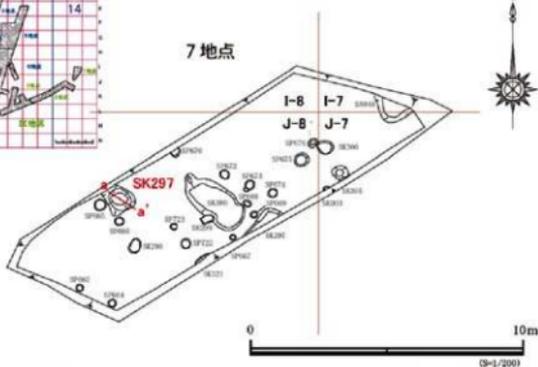
SK098の地表面約110cm下より、焼土の塊が検出された。サンプルを採取し、放射性炭素年代測定を実施した結果、 $1,090 \pm 20BP$  という値が得られた（第5章参照）。しかしながら、縄文時代相当の土器が出土していることや、従来の調査で縄文時代の遺構と判断された遺構と埋土の特徴が類似する等より、縄文時代の遺構として報告する。



SK098 断面（北から）



7地点



- 1層 焼土 埋土(11)・埋土 埋土層  
 2, 3, 11, 12, 13, 14, 16, 18, 20, 21層 埋土層 埋土層(11)・埋土層(12)  
 5, 15, 16層 埋土層(11) 埋土層(11)・埋土層(11)・埋土層(11)・埋土層(11)  
 4層 埋土層 埋土層(11)・埋土層(11)  
 6, 11, 13, 14, 16, 18, 19, 20, 21層 埋土層(11) 埋土層(11)・埋土層(11)・埋土層(11)  
 7層 埋土層(11) 埋土層(11)・埋土層(11)・埋土層(11)・埋土層(11)  
 8, 10, 12, 13, 14, 16, 18, 19, 20, 21層 埋土層(11) 埋土層(11)・埋土層(11)・埋土層(11)  
 11, 12, 13層 埋土層(11) 埋土層(11)  
 12層 埋土層(11) 埋土層(11)  
 13, 14, 15, 16, 18, 19, 20, 21層 埋土層(11) 埋土層(11)・埋土層(11)・埋土層(11)  
 18, 19層 埋土層(11) 埋土層(11)  
 20, 21層 埋土層(11) 埋土層(11)・埋土層(11)・埋土層(11)  
 22層 埋土層(11) 埋土層(11)  
 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41層 埋土層(11) 埋土層(11)・埋土層(11)・埋土層(11)  
 1層 埋土層(11) 埋土層(11)・埋土層(11)・埋土層(11)

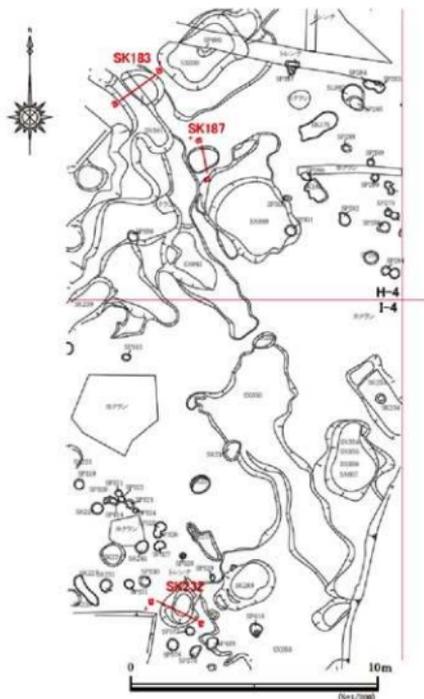
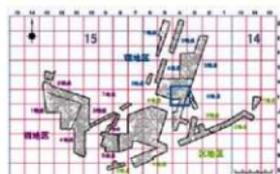


SK297 断面（南から）

第16図 縄文時代の遺構3（Ⅶ地区）

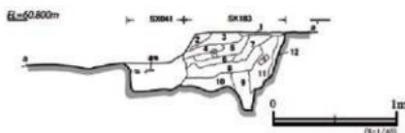
VII地区では、6地点で3基の土坑が確認された。SK183とSK187は平面形が楕円状を呈する。それぞれ縄文晩期相当の土器片が多く出土するものの、焼土が集中する等の様相はみられない。詳細な性格については不明である。SK232は深さ約170cmで、掘り込みは岩盤まで達する。

#### VII地区 6地点



SK183からは多くの土器片が出土した。今回、見つかった縄文時代の遺構の中でも特に遺物の出土量が多い。縄文時代晩期の仲原式土器と考えられる土器がみられることより、主体は縄文時代晩期頃と考えられる。しかしながら、後世の遺構に削られるなど、遺構の残存状況は悪く、どのような性格のものか、詳細については不明である。

#### SK183

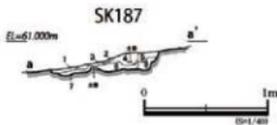


- |             |                           |
|-------------|---------------------------|
| 1層 暗褐色土     | 粘質シルト、赤土ブロック、焼土、礫を含む。     |
| 2層 黒褐色土     | 砂質シルト、石灰岩片を含む。土器が出土。      |
| 3層 黒褐色土     | 砂質シルト、灰、焼土、石灰岩片を含む。土器が出土。 |
| 4層 暗オリーブ褐色土 | 砂質シルト、焼土、暗褐色土を含む。         |
| 5層 黒褐色土     | 砂質シルト、灰、焼土、石灰岩片、暗褐色土を含む。  |
| 6層 暗オリーブ褐色土 | 砂質シルト、焼土、石灰岩片、暗褐色土を含む。    |
| 7層 暗オリーブ褐色土 | 砂質シルト、石灰岩片、黄褐色土を含む。       |
| 8層 濃い黄褐色土   | 砂質シルト、焼土、黄褐色土を含む。         |
| 9層 褐色土      | 砂質シルト、焼土、暗褐色土、黄褐色土を含む。    |
| 10層 褐色土     | 砂質シルト、灰、黄褐色土を含む。          |
| 11層 褐色土     | 粘質シルト、灰、焼土、礫、黄褐色土を含む。     |
| 12層 褐色土     | 粘質シルト、赤土、暗褐色土を含む。         |



SK183 断面（南東から）

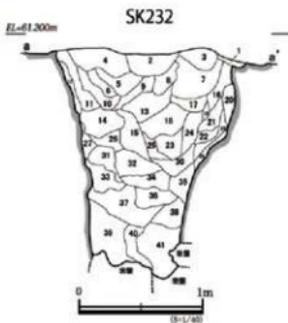
第17図 縄文時代の遺構4（VII地区）



- 1層 珪礫色土 砂質シルト、赤土ブロック、炭、焼土、礫を含む。
- 2層 珪礫色土 砂質シルト。
- 3層 珪礫色土 砂質シルト、赤土ブロックを含む。
- 4層 珪礫色土 砂質シルト、赤土ブロック、炭を含む。土層が薄く、
- 5、8層 珪礫色土 砂質シルト、赤土ブロック、炭、焼土を含む。
- 6層 珪礫色土 砂質シルト、赤土ブロックを含む。土層が薄く、
- 7層 珪礫色土 砂質シルト、珪礫色土を含む。



SK187 断面（北東から）



- |               |                       |                         |                             |                    |                       |                       |                            |                     |                   |                             |                             |                          |                        |                               |                          |                     |                           |                          |                        |                        |                   |                      |                             |                        |                          |                             |                          |                          |                           |
|---------------|-----------------------|-------------------------|-----------------------------|--------------------|-----------------------|-----------------------|----------------------------|---------------------|-------------------|-----------------------------|-----------------------------|--------------------------|------------------------|-------------------------------|--------------------------|---------------------|---------------------------|--------------------------|------------------------|------------------------|-------------------|----------------------|-----------------------------|------------------------|--------------------------|-----------------------------|--------------------------|--------------------------|---------------------------|
| 1層 珪礫色土 礫を含む。 | 2層 珪礫色土 炭、焼土、珪礫色土を含む。 | 3、6、10層 珪礫色土 炭、珪礫色土を含む。 | 4、17、32層 珪礫色土 炭、焼土、珪礫色土を含む。 | 5層 珪礫色土 炭、珪礫色土を含む。 | 6層 珪礫色土 炭、焼土、珪礫色土を含む。 | 7層 珪礫色土 炭、焼土、珪礫色土を含む。 | 9層 珪礫色土 マンガン、炭、焼土、珪礫色土を含む。 | 11層 珪礫色土 炭、珪礫色土を含む。 | 12層 珪礫色土 珪礫色土を含む。 | 13層 珪礫色土 マンガン、炭、焼土、珪礫色土を含む。 | 14層 珪礫色土 マンガン、珪礫色土、珪礫色土を含む。 | 15層 珪礫色土 マンガン、炭、珪礫色土を含む。 | 16層 珪礫色土 珪礫色土、珪礫色土を含む。 | 18層 珪礫色土 マンガン、炭、珪礫色土、珪礫色土を含む。 | 19層 珪礫色土 炭、珪礫色土、珪礫色土を含む。 | 20層 珪礫色土 炭、珪礫色土を含む。 | 21、24、25層 珪礫色土 炭、珪礫色土を含む。 | 23層 珪礫色土 マンガン、炭、珪礫色土を含む。 | 26、27層 珪礫色土 炭、珪礫色土を含む。 | 28層 珪礫色土 珪礫色土、珪礫色土を含む。 | 29層 珪礫色土 珪礫色土を含む。 | 31、33層 珪礫色土 マンガンを含む。 | 32層 珪礫色土 マンガン、炭、焼土、珪礫色土を含む。 | 34層 珪礫色土 マンガン、珪礫色土を含む。 | 35層 珪礫色土 マンガン、炭、珪礫色土を含む。 | 36層 珪礫色土 マンガン、珪礫色土、珪礫色土を含む。 | 37層 珪礫色土 マンガン、炭、珪礫色土を含む。 | 38層 珪礫色土 マンガン、炭、珪礫色土を含む。 | 39～40層 珪礫色土 マンガン、珪礫色土を含む。 |
|---------------|-----------------------|-------------------------|-----------------------------|--------------------|-----------------------|-----------------------|----------------------------|---------------------|-------------------|-----------------------------|-----------------------------|--------------------------|------------------------|-------------------------------|--------------------------|---------------------|---------------------------|--------------------------|------------------------|------------------------|-------------------|----------------------|-----------------------------|------------------------|--------------------------|-----------------------------|--------------------------|--------------------------|---------------------------|



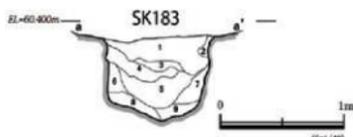
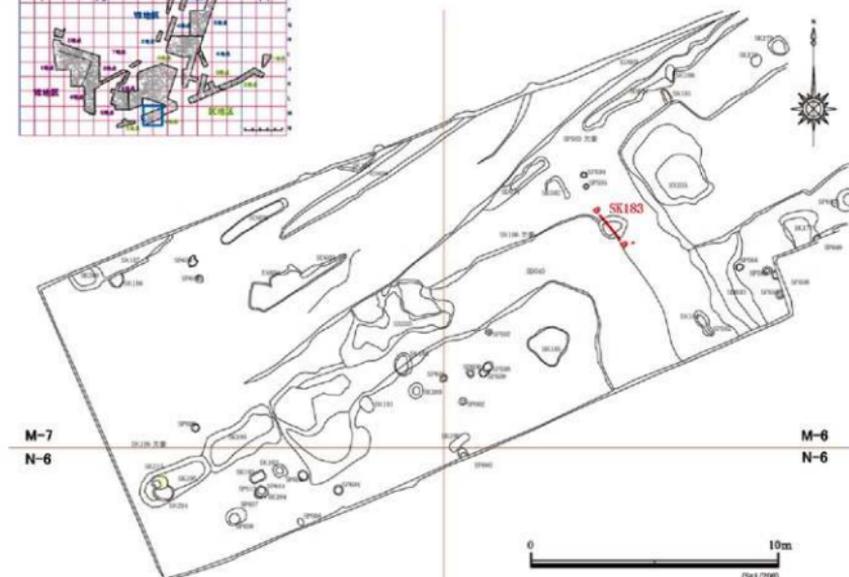
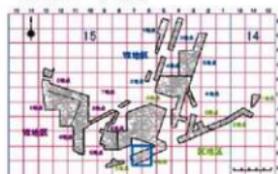
SK232 断面（北から）

IX地区では9基の土坑が確認された。このうちSK183（4地点）、SK236、SK258、SK294、SK435（6地点）の5基について報告する。これらの遺構もマーヅを掘り込み、深く落ち込む形状を呈する。

SK183は深さ約70cmで、下部は岩盤まで掘り込む。SK236は深さが約230cmあり、下部は岩盤まで掘り込む。石斧や萩堂式土器が出土している。SK258は深さが約200cm、SK294は深さが約150cmで、暗褐色砂質シルト層とマーヅブロック層が交互に堆積している。SK435は深さが約280cmあり、下部の掘り込みは岩盤まで達する。萩堂式土器や、石器、石材が出土している。

これらの遺構はI～VI地区の調査でも確認されており、特に掘り込みの深さが100cmを越えるもののほとんどは、落とし穴としての性格が考えられる。

#### IX地区 4地点



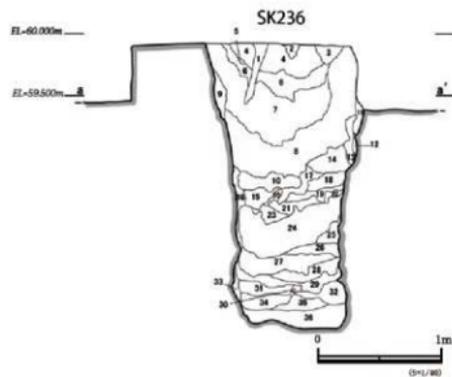
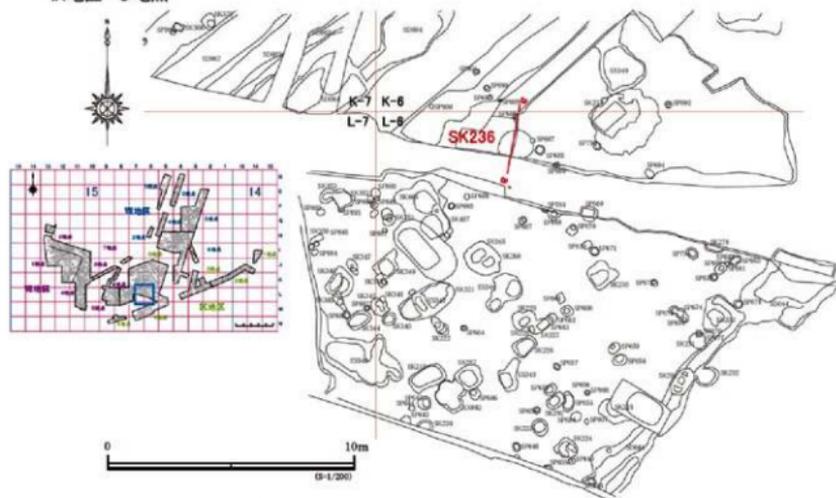
- |    |     |                    |
|----|-----|--------------------|
| 1層 | 褐色土 | 砂質シルト、赤土ブロック、炭を含む。 |
| 2層 | 褐色土 | 砂質シルト、赤土ブロック、炭を含む。 |
| 3層 | 褐色土 | 砂質シルト、赤土ブロック、炭を含む。 |
| 4層 | 褐色土 | 砂質シルト、赤土ブロック、炭を含む。 |
| 5層 | 褐色土 | 砂質シルト、赤土ブロックを含む。   |
| 6層 | 褐色土 | 砂質シルト、赤土ブロック、炭を含む。 |
| 7層 | 褐色土 | 砂質シルト、赤土ブロック、炭を含む。 |
| 8層 | 褐色土 | 砂質シルト、赤土ブロック、炭を含む。 |
| 9層 | 褐色土 | 砂質シルト、赤土ブロック、炭を含む。 |



SK183 断面（西から）

第19図 縄文時代の遺構6（IX地区）

## IX地区 6地点



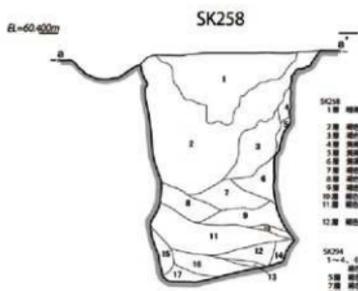
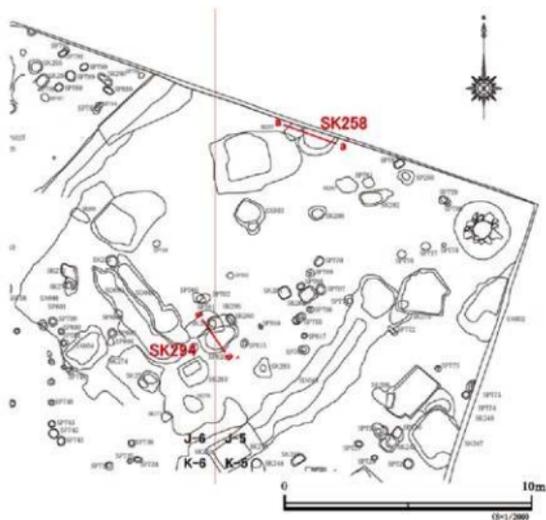
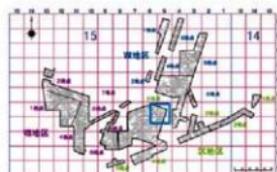
SK236 断面 (西から)



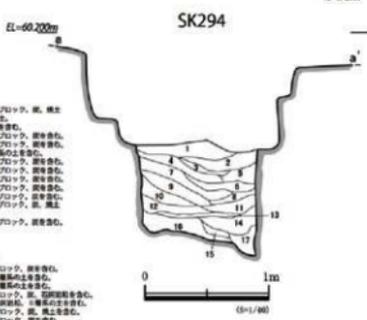
SK236 石斧出土状況 (北から)

- 1層 暗褐色土 砂質シルト、赤土ブロック、炭、砂粒を含む。
- 2層 暗褐色土 砂質シルト、石灰質砂を含む。
- 3, 8, 9, 10, 15, 17, 19~24, 26, 32~33層 暗褐色土 砂質シルト、赤土ブロック、炭を含む。
- 4層 暗褐色土 砂質シルト、赤土、炭、石灰質砂、II層系の土を含む。
- 5層 暗褐色土 砂質シルト、赤土ブロックを含む。
- 6層 暗褐色土 砂質シルト、赤土ブロック、炭を含む。土粒が粗上。
- 7層 暗褐色土 砂質シルト、赤土ブロック、炭。石灰質砂を含む。砂粒が粗上。
- 11層 黄褐色土 粘質シルト、II層系の土を含む。
- 12層 黄褐色土 砂質シルト、II層系の土を含む。
- 13層 黄褐色土 粘質シルト、赤土ブロック、炭を含む。
- 14層 暗褐色土 砂質シルト、赤土ブロック、炭を含む。
- 16層 暗褐色土 砂質シルト、石灰質砂、III層系の土を含む。
- 18層 暗褐色土 砂質シルト、II層系の土を含む。
- 25層 暗褐色土 マーブ層、炭、II層系の土を含む。
- 27層 暗褐色土 砂質シルト、赤土ブロック、炭を含む。
- 28層 暗褐色土 砂質シルト、赤土ブロック、炭、III層系の土を含む。
- 29層 暗褐色土 砂質シルト、赤土ブロック、炭、III層系の土を含む。
- 30層 暗褐色土 マーブ層、炭、II層系の土を含む。
- 31, 35層 暗褐色土 砂質シルト、赤土ブロック、炭、III層系の土を含む。

第20図 縄文時代の遺構7 (IX地区)



- SK258**
- 1層 雑草土 砂質シルト、赤土ブロック、灰、焼土、赤褐色、土層が厚い。
  - 2層 雑草土 砂質シルト、赤土ブロック、灰、赤褐色。
  - 3層 雑草土 砂質シルト、赤土ブロック、灰、赤褐色。
  - 4層 雑草土 砂質シルト、赤土ブロック、灰、赤褐色。
  - 5層 雑草土 砂質シルト、赤土ブロック、灰、赤褐色。
  - 6層 雑草土 砂質シルト、赤土ブロック、灰、赤褐色。
  - 7層 雑草土 砂質シルト、赤土ブロック、灰、赤褐色。
  - 8層 雑草土 砂質シルト、赤土ブロック、灰、赤褐色。
  - 9層 雑草土 砂質シルト、赤土ブロック、灰、赤褐色。
  - 10層 雑草土 砂質シルト、赤土ブロック、灰、赤褐色。
  - 11層 雑草土 砂質シルト、赤土ブロック、灰、赤褐色。
  - 12層 雑草土 赤褐色。
  - 13層 雑草土 砂質シルト、赤土ブロック、灰、赤褐色。
- SK294**
- 1~4、6、9、12、13、15、17層 雑草土 砂質シルト、赤土ブロック、灰、赤褐色。
  - 5層 雑草土 砂質シルト、灰、赤褐色。
  - 7層 雑草土 砂質シルト、灰、赤褐色。
  - 8層 雑草土 砂質シルト、赤土ブロック、灰、赤褐色。
  - 10層 雑草土 砂質シルト、灰、赤褐色。
  - 11層 雑草土 砂質シルト、灰、赤褐色。
  - 14層 雑草土 砂質シルト、赤土ブロック、灰、赤褐色。
  - 16層 雑草土 砂質シルト、赤土ブロック、灰、赤褐色。

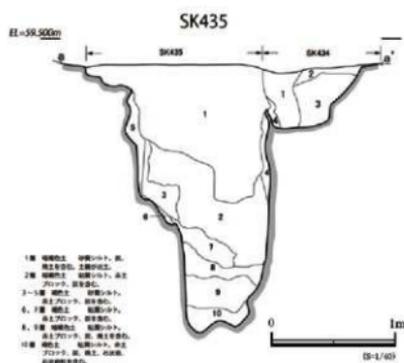
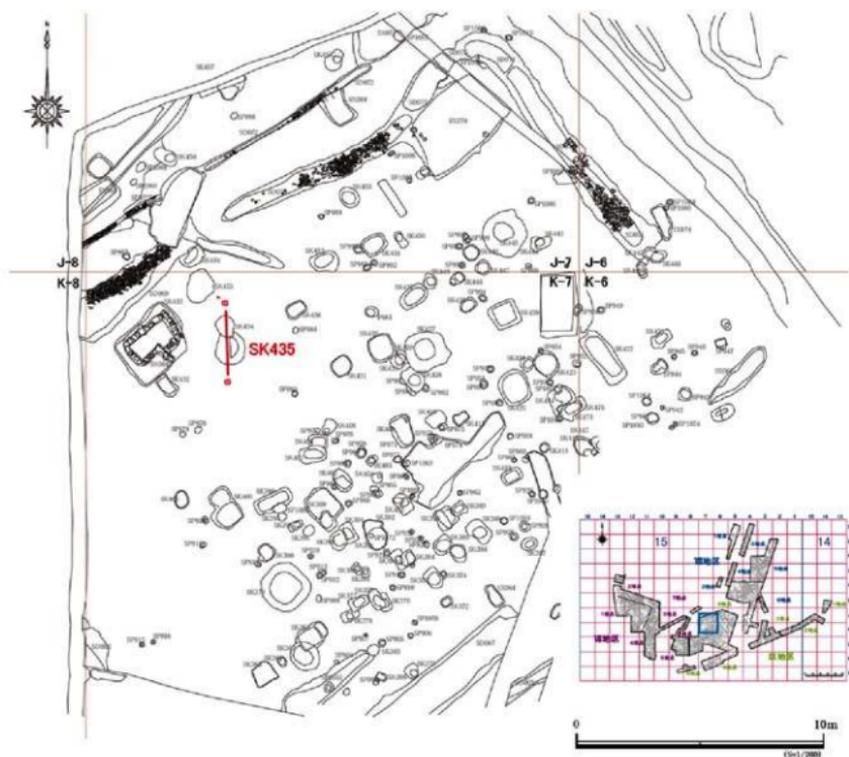


SK258 断面 (南から)



SK294 断面 (西から)

第21図 縄文時代の遺構8 (IX地区)



第22図 縄文時代の遺構9 (IX地区)

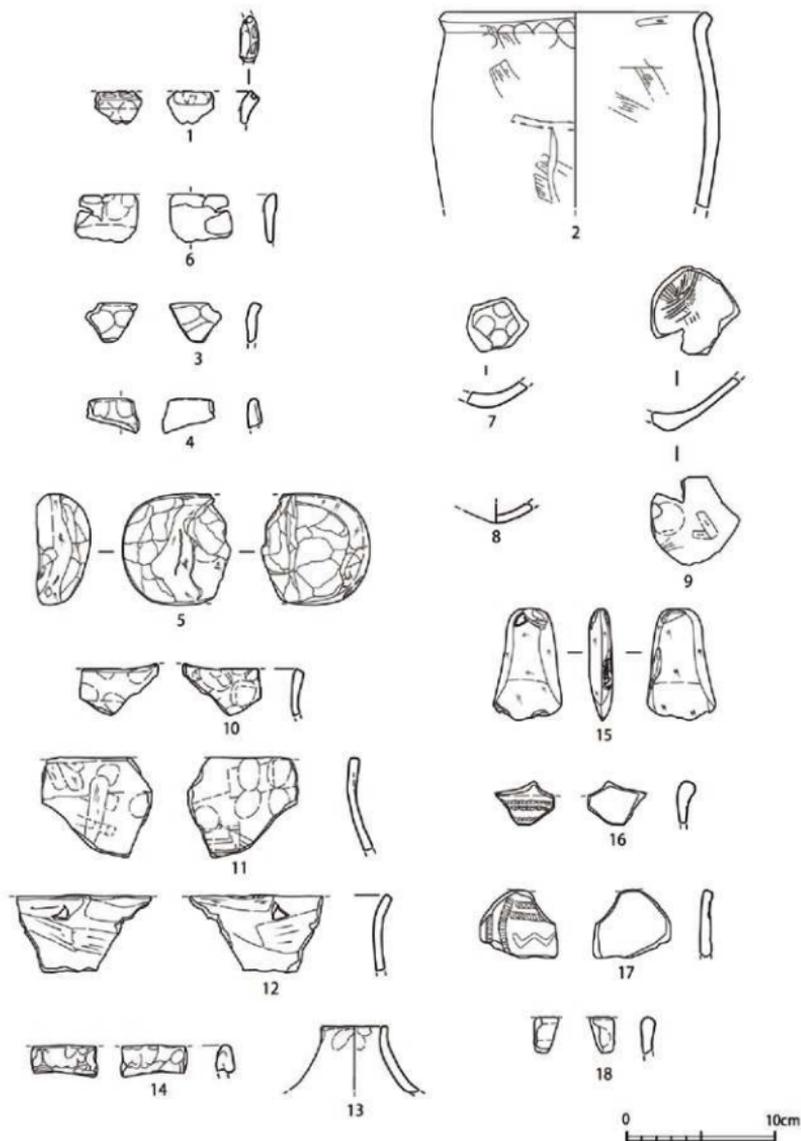
## b 遺物

縄文時代の遺構からは、土器、石器を中心に657点が出土している（第2表）。土器は、縄文時代後期～晩期のものが確認されており、縄文時代後期の土器には、荻堂式や室川式土器、縄文時代晩期の土器には、宇佐浜式や仲原式土器などが出土している。そのうち、18点について図化し、個々の所見を第1表にまとめた。遺物点数等については第2表に示す。

第1表 縄文時代の遺構 出土遺物観察一覧（VII・VIII・IX地区）

探検番号 採取番号	種類	器種	分類	部位	法量(cm)			観察事項	地区	出土地	
					口径 (径輪)	底径 (径輪)	器高 (厚さ)				
Ⅷ地区 Ⅷ9	1	土器	深鉢	縄文	口縁部	—	—	—	口唇部に横線刻文。胎土は黄褐色で泥質。混入物に白色粒、黑色粒等を含む。	Ⅷ	SK011 3層
	2	土器	深鉢	縄文	口縁部	18.4	—	—	口縁部は外反する。内面がアバタ状を呈する。器面による調整痕がみられる。胎土は黒褐色で泥質。混入物に砂粒、黒色粒等を含む。	Ⅷ	SK011 横土
	3	土器	深鉢	縄文	口縁部	—	—	—	口唇部平直。内外面に指痕による調整痕がみられる。胎土は黄灰色で砂質。混入物に石英、砂粒等を含む。	Ⅷ	SK098 横土
	4	土器	深鉢	縄文	口縁部	—	—	—	口縁部は有段肥厚か。胎土は明褐色。混入物に細か～砂粒を多く含む。	Ⅷ	SK096 横土
	5	石器	磨石	—	—	7.4	7.3	3.35	表面面及び側面に磨面。重量228.30g。砂岩。	Ⅷ	SK098 横土
	6	土器	深鉢	縄文	口縁部	—	—	—	口縁部が僅かに外反する。胎土は明赤褐色で泥質。外面がアバタ状を呈する。	Ⅷ	SK279 1層
	7	土器	深鉢	縄文	底部	—	—	—	尖底。胎土は白～黄褐色で砂質。混入物に砂粒を多く含む。	Ⅷ	SK297 7層
	8	土器	深鉢	縄文	底部	—	—	—	尖底。外面はナガ調整。胎土は明赤褐色～暗褐色で砂質。混入物に砂粒を多く含む。	Ⅷ	SK297 14層
	9	土器	深鉢	縄文	底部	—	—	—	尖底。内底に黒目状調整痕。内面に煤が付着。胎土は明赤褐色～暗褐色で砂質。焼成良好。混入物に砂粒、白色粒等を含む。	Ⅷ	SK297 26層
	10	土器	盃	縄文	口縁部	—	—	—	口唇部は平直。内外面に指痕による調整痕がみられる。胎土は灰白色で泥質。混入物に石英、砂粒等を含む。	Ⅷ	SK183 横土
	11	土器	深鉢	縄文	口縁部	—	—	—	外反口縁。口縁部に段を持つ。内外面に指痕による調整痕がみられる。胎土は褐色で砂質。混入物に石英、砂粒等を含む。	Ⅷ	SK183 横土
	12	土器	深鉢	縄文	口縁部	—	—	—	外反口縁。口唇部は平直。工具による調整痕がみられる。胎土は褐色で泥質。混入物に石英、砂粒等多く含む。	Ⅷ	SK183 横土
	13	土器	盃	縄文	口縁部	4.5	—	—	口縁部は直口。内外面はアバタ状を呈する。胎土は浅黄褐色で泥質。混入物に白色粒を含む。	Ⅷ	SK183 横土
	14	土器	深鉢	縄文	口縁部	—	—	—	肥厚口縁。胎土は明赤褐色で砂質。混入物に砂粒を多く含む。粘土接合部で外れる。	Ⅷ	SK187 横土
	15	石器	石斧	—	—	7.55	4.1	1.6	全面研磨。刃部一部刃こぼれ。重量97.04g。緑色結核岩。	IX	SK236 横土4136
	16	土器	深鉢	縄文	口縁部	—	—	—	山形口縁。外周に口縁部に2色の黒点文。その下側に黒点文がみられる。胎土は明赤褐色。混入物に石英、砂粒等を含む。	IX	SK236 2層
	17	土器	深鉢	縄文	口縁部	—	—	—	口縁部は若干外反する。外面に縦横の押引文。磨面文がみられる。胎土は明赤褐色で砂質。混入物に石英、砂粒等を含む。	IX	SK435 横土
	18	土器	深鉢	縄文	口縁部	—	—	—	口縁部は若干肥厚する。胎土は暗灰黄色で砂質。混入物に石英、砂粒等を多く含む。	IX	SK989 横土4139
Ⅷ地区 Ⅷ9	19	土器	深鉢	縄文	胴部	—	—	—	外面に磨面文か。胎土は褐色で砂質。混入物に砂粒、白色粒等を含む。	IX	SK435 横土
	20	土器	深鉢	縄文	口縁部	—	—	—	口縁部は肥厚する。胎土は暗灰黄色で砂質。混入物に石英、砂粒等を多く含む。	IX	SK244 横土
	21	土器	深鉢	縄文	底部	—	—	—	尖底。胎土は白～黄褐色～灰黄褐色で砂質。混入物に石英、砂粒、赤色粒等を含む。	IX	SK244 横土





第23図 縄文時代の遺構 出土遺物 (VII・VIII・IX地区)

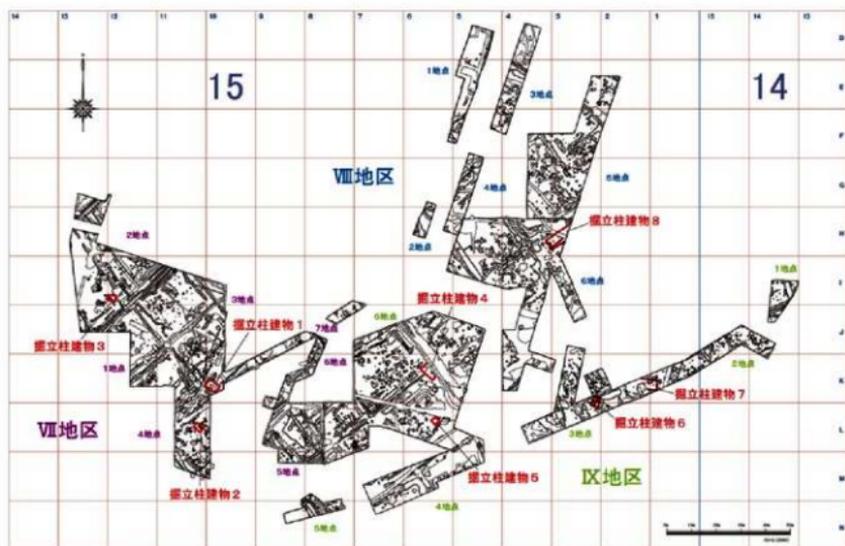


図版9 縄文時代の遺構 出土遺物 (VII・VIII・IX地区)

## 第2項 グスク時代の遺構及び遺構内出土遺物

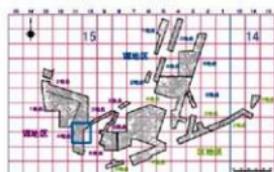
### a 遺構

グスク時代の遺構はVII～IX地区で確認されており、掘立柱建物跡、ピットがある。掘立柱建物跡は8棟確認された。主屋と想定されるのが4棟、倉庫跡と想定されるのが4棟で、掘立柱建物1～3がVII地区、掘立柱建物4～7がIX地区、掘立柱建物8がVIII地区で見つっている。ピットは14-H 3・4、15-I11、同J 8、同K 1～3・6・8・10・11、同L 3・8・9、同M- 8・9グリッドにおいてまとまって検出された。以下に、建物プランが認められた掘立柱建物跡と白磁玉縁碗が出土した SP362 (VII地区4地点) について報告する。



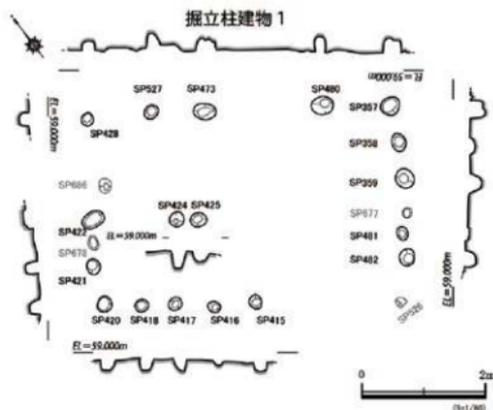
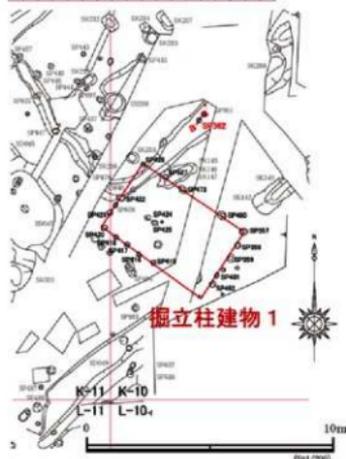
第24図 グスク時代の遺構位置図 (VII～IX地区)

VII地区 3地点



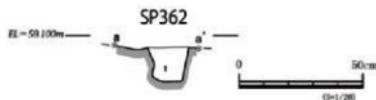
掘立柱建物 1

掘立柱建物 1は15-K10・11 グリッドに位置する。長方形のプランで、中柱を有すると考えられる。プランの南東側は攪乱を受けている。長軸は北西-南東方向、規模は約5×3.5mの17.5㎡である。柱穴の平面形は楕円形や円形を呈し、柱穴の大きさは長径25～40cm、短径15～25cmである。



掘立柱建物 1 完掘状況 (南東から)

SP362からは、遺構の年代の指標となる白磁玉縁碗の口縁部(第34図4)が出土した。本ピットと掘立柱建物1の柱穴及び周辺にみられるピットの埋土は類似していることより、これらの遺構はグスク時代初期の11～12世紀代のものと考えられる。

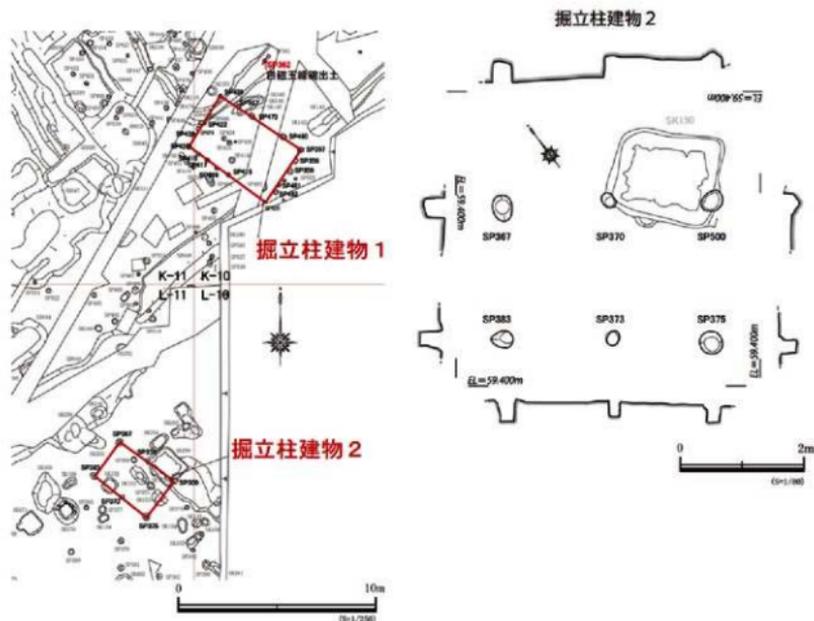


SP362 遺物出土状況 (南東から)

第25図 グスク時代の遺構 1 (VII地区)

### 掘立柱建物 2

掘立柱建物 2は 15-L11 グリッドに位置する。長方形のプランで、6本柱による建物である。長軸は北西-南東方向、規模は約 3.2 × 2.1m の 6.72㎡である。柱穴の平面形は楕円形や円形を呈し、柱穴の大きさは長径 15 ~ 40cm、短径 15 ~ 32cm である。高床倉庫跡と想定される。本遺構は掘立柱建物 1 とプランの長軸方向が共通しており、セット関係が考えられる。双方の建物間の距離は約 14.5m である。



掘立柱建物 2 検出状況 (北東から)



SP383 断面 (南西より)

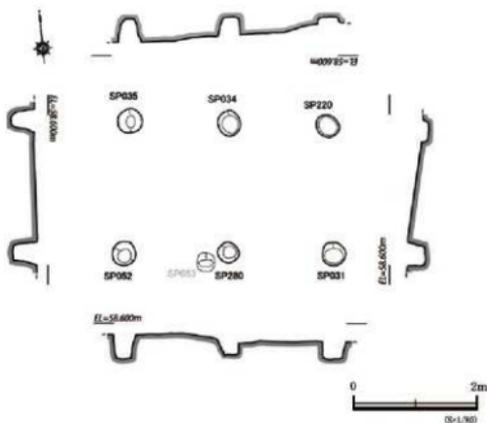
第 26 図 グスク時代の遺構 2 (VII地区)

### 掘立柱建物 3

掘立柱建物 3は 15-112 グリッドに位置する。長方形のプランで、6本柱による建物である。長軸は東西方向、規模は約3.6×2.4mの8.64㎡である。柱穴の平面形は円形を呈し、柱穴の大きさは長径40cmである。高床倉庫跡と想定される。プランの一つであるSP052からは鍋形の土器(第34図3)が出土している。

VII地区 1地点

### 掘立柱建物 3



SP035 断面(南から)



SP034 断面(南から)



SP052 断面(南から)

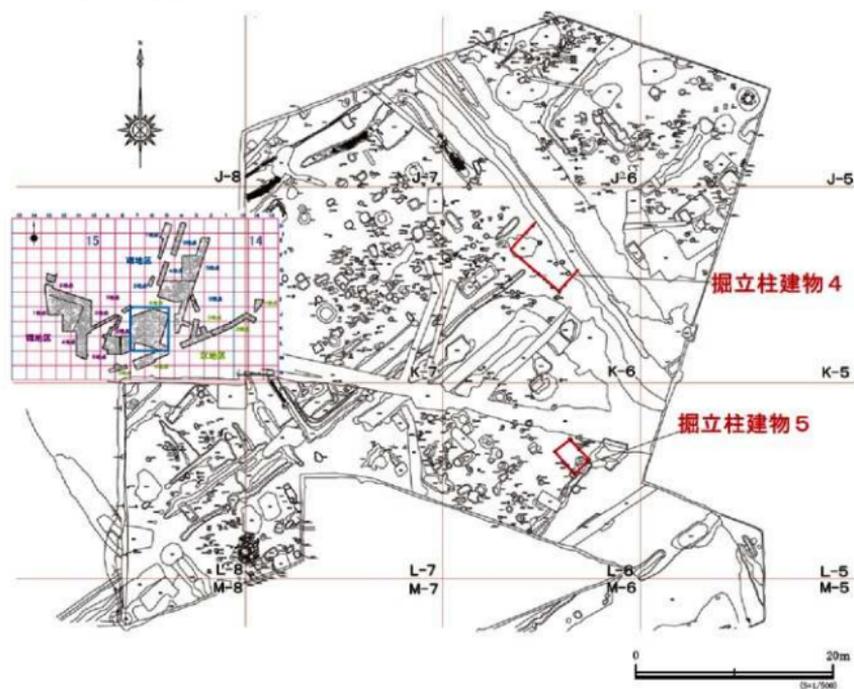


掘立柱建物 3 完掘状況(南から)



SP031 断面(南から)

IX地区 6地点



掘立柱建物4 完掘状況（南から）

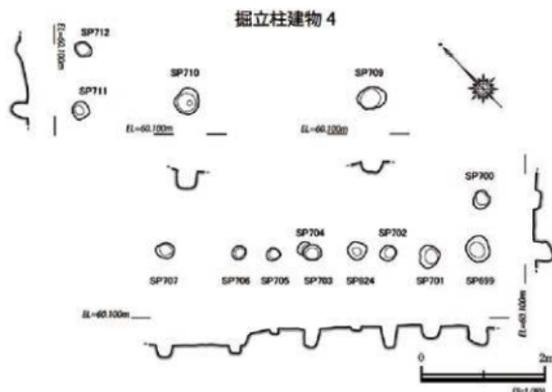


掘立柱建物5 完掘状況（西から）

第28図 グスク時代の遺構4（IX地区）

#### 掘立柱建物 4

掘立柱建物 4 は 15-K 6 グリッドに位置する。長方形のプランで、中柱 2 本を有する。プランの北東側は後世の道跡が通り、削られている。長軸は北西 - 南東方向、規模は約 6.7 × 5 m 程度になるものと考えられる。柱穴の平面形は楕円形や円形を呈し、柱穴の大きさは長径 30 ~ 50cm、短径 25 ~ 40cm である。なお、中柱のうち、SP710 内の炭化物について放射性炭素年代測定を実施した結果、補正年代で 890 ± 20BP、暦年代で calAD1,044 ~ 1,214 と 11 世紀中頃 ~ 13 世紀前半の値が得られている。その詳細については第 5 章自然科学分析の頁にて報告する。



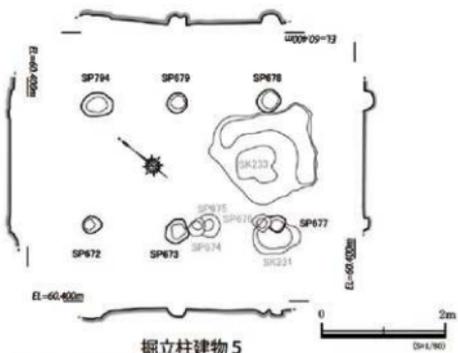
SP701 断面 (南から)



SP707 断面 (南から)

#### 掘立柱建物 5

掘立柱建物 5 は 15-L 6 グリッドに位置する。長方形のプランで、6 本柱による建物である。長軸は北西 - 南東方向、規模は約 3.2 × 2.2m の 7.04m<sup>2</sup> である。柱穴の平面形は楕円形や円形を呈し、柱穴の大きさは長径 30 ~ 52cm、短径 25 ~ 32cm である。高床倉庫跡と想定される。本遺構は掘立柱建物 4 とプランの長軸方向が共通しており、セット関係が考えられる。双方の建物間の距離は約 15m である。



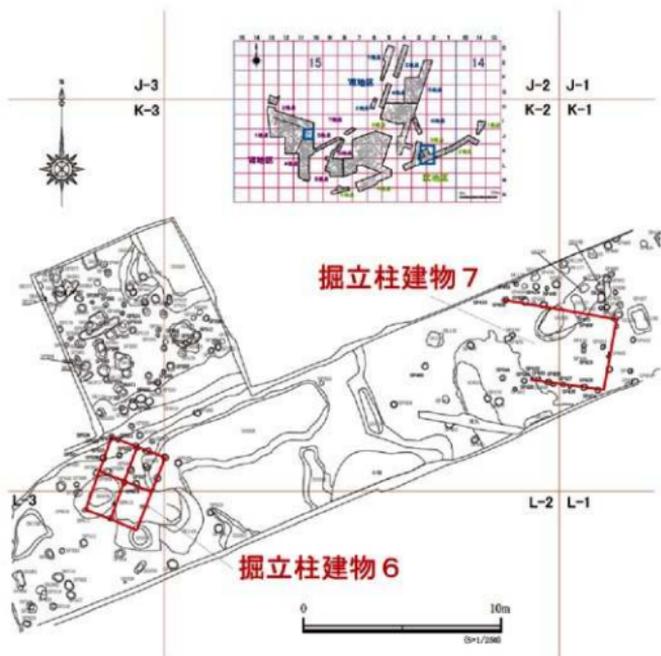
SP678 断面 (北から)



SP673 断面 (南から)

第 29 図 グスク時代の遺構 5 (IX 地区)

IX地区 3地点



掘立柱建物 6 完掘状況（北東から）

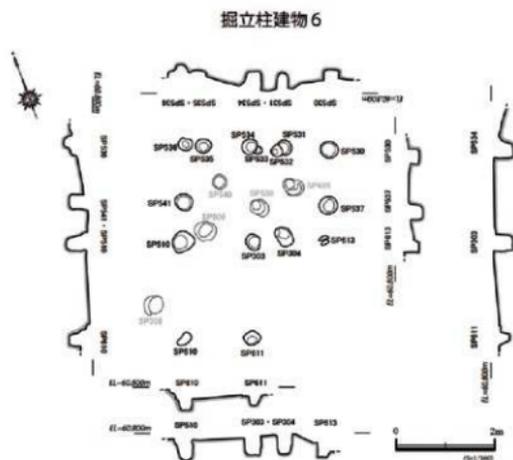


掘立柱建物 7 完掘状況（北東から）

第30図 グスク時代の遺構6（IX地区）

### 掘立柱建物 6

掘立柱建物 6 は 15-K・L 3 グリッドに位置する。長方形のプランで、9 本柱による建物である。長軸は北東 - 南西方向、規模は約 3.2 × 2.4m の 7.68㎡である。柱穴の平面形は楕円形や円形を呈し、柱穴の大きさは長径 24 ~ 35cm、短径 15 ~ 30cm である。高床倉庫跡と想定される。



掘立柱建物 6 発掘状況 (北から)



SP530 断面 (北から)



SP537 断面 (東から)

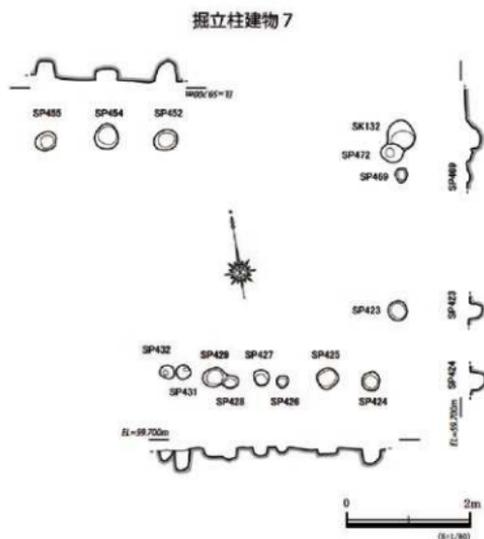


SP541 断面 (西から)

第 31 図 グスク時代の遺構 7 (IX 地区)

### 掘立柱建物 7

掘立柱建物 7 は 15-K 1・2 グリッドに位置する。長方形のプランで長軸は東西方向である。プランの西側が削られ、規模は不明である。柱穴の平面形は楕円形や円形を呈し、柱穴の大きさは長径 25～40cm、短径 20～32cm である。



SP423 断面（北から）



SP427 断面（北から）

Ⅷ地区 6地点

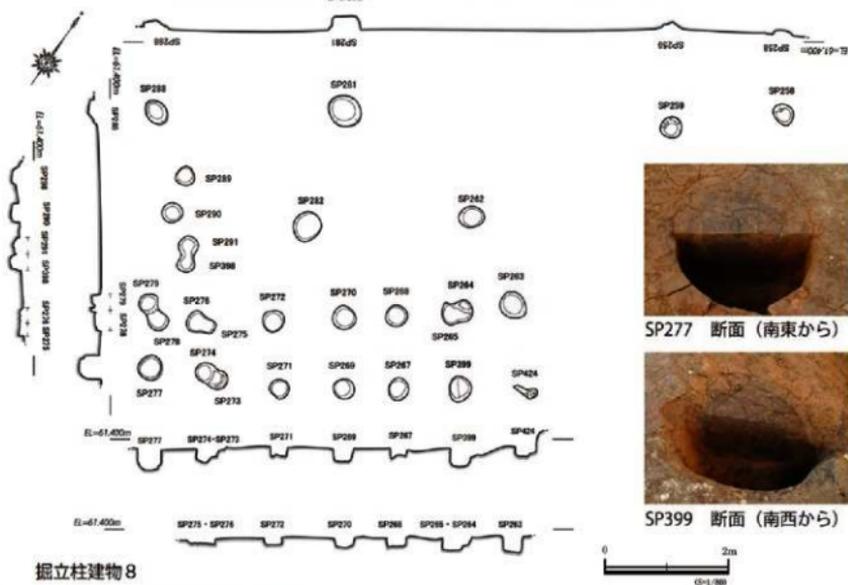


掘立柱建物 8

掘立柱建物 8は 15-H 3・4 グリッドに位置する。中柱 2本を有するプランになると考えられるが、南東側に 2列みられる柱穴の並びは軸の向きが合わないため、一つのプランではなく、同じ場所に建て替えたものと考えられる。長軸は北東・南西方向、プランの北東側は調査区外に当たるため、全体の規模については不明である。柱穴の平面形は楕円形や円形を呈し、柱穴の大きさは長径 32～56cm、短径 28～36cm である。



掘立柱建物 8 完掘状況 (東から)



掘立柱建物 8



SP277 断面 (南東から)



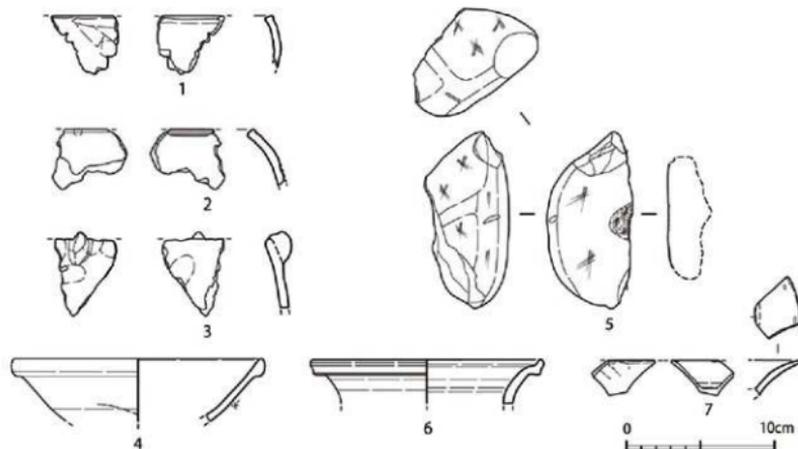
SP399 断面 (南西から)

第 33 図 グスク時代の遺構 9 (Ⅷ地区)



第4表 グスク時代の遺構 出土遺物観察一覧 (VII・VIII・IX地区) b

調査番号 調査番号	種類	器種	分類	部位	法量(cm)			観察事項	地区	出土地	
					口径 (長軸)	高さ (短軸)	器高 (厚さ)				
第34図 図版10	4	白磁	碗	—	口縁部	17.2	—	—	至縁口縁、内外面に黒い貫入がみられる。素地は灰白色で磨光。	Ⅷ	SP042 埋土
	5	石器	磨石	—	—	—	—	—	表面及び側面に磨面。重量440.5g、砂岩。	Ⅷ	SP422 2層
	6	カムイヤキ	炭	—	口縁部	18.8	—	—	口縁部に縁を持つ、十字調整が施される。胎土は灰色～暗赤褐色。	Ⅷ	SK241 埋土
	7	白磁	杯	—	口縁部	—	—	—	内反口縁。素地は白色で磨光。	Ⅸ	SP111 埋土
図版10	8	石器	石斧	—	—	11.5	6.9	2.6	全面研磨。表面面に磨打痕。側面に磨削の痕がみられる。刃部刃こぼれ。重量390.12g、輝綠岩。	Ⅷ	SP483 埋土



第34図 グスク時代の遺構 出土遺物 (VII・VIII・IX地区)



図版 10 グスク時代の遺構 出土遺物 (VII・VIII・IX地区)

### 第3項 包含層（Ⅲ層）出土遺物

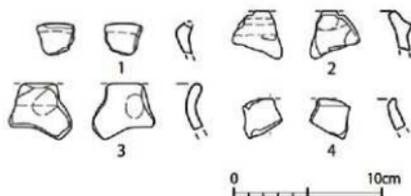
包含層（Ⅲ層）はⅦ地区とⅨ地区で確認されたが、このうちⅦ地区のⅢ層からは、278点の遺物が出土した。縄文土器、グスク土器、石器、石材など、縄文～グスク時代の遺物が混在している。そのうち、4点について図化し、個々の所見を第6表の観察表にまとめた。

第5表 包含層（Ⅲ層）遺物出土状況（Ⅶ地区）

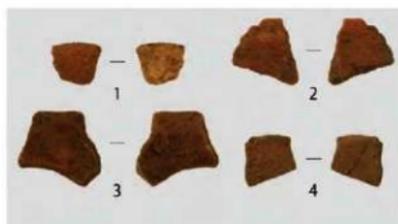
種類・器種・部位	土器							石器	石材	焼土	炭	木片
	グスク			縄文		器種不明						
	鍋	壺	器種不明	深鉢	深鉢							
出土地	口縁部	口縁部	口縁部	胴部	口縁部	胴部	胴部	磨石				
Ⅶ地区 Ⅲ層	1	1	1	33	6	100	35	2	22	74	2	1

第6表 包含層（Ⅲ層）出土遺物観察一覧（Ⅶ地区）

調査番号 図版番号	種類	器種	分類	部位	計量(cm)			観察事項	地区	出土地	
					口径 (長軸)	底径 (短軸)	器高 (厚さ)				
第35図 図版11	1	土器	壺	グスク	口縁部	—	—	—	外反口縁。口縁部が「く」の字状に曲がる。胎土は明黄褐色で砂質。混入物に石英、砂粒等を含む。	Ⅶ	Ⅲ層
	2	土器	深鉢	縄文か	口縁部	—	—	—	外面口縁部に凸条を起す。内外面に指痕による調整痕がみられる。胎土は灰黄褐色で砂質。混入物に白色粒を若干含む。	Ⅶ	Ⅲ層
	3	土器	深鉢	縄文	口縁部	—	—	—	外反口縁。内外面に指痕による調整痕がみられる。胎土は灰黄褐色で砂質。混入物に黒色粒、砂粒を含む。	Ⅶ	Ⅲ層
	4	土器	鍋	グスク	口縁部	—	—	—	外反口縁。口縁部が「く」の字状に曲がる。胎土は濃い黄褐色で砂質。混入物に砂粒、白色粒等を含む。	Ⅶ	Ⅲ層



第35図 包含層（Ⅲ層）出土遺物



図版11 包含層（Ⅲ層）出土遺物

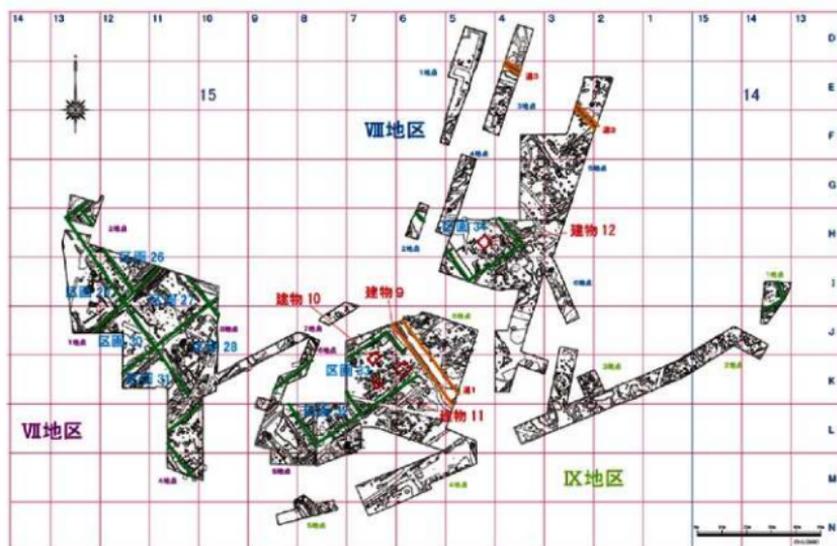
### 第3節 近世～近代

#### 第1項 遺構及び遺構内出土遺物

##### a 遺構

今回の調査で確認された遺構は、当該時期の遺構が主体を占める。主な遺構として、ピット、土坑、方形石組遺構、井戸、炉跡、溝跡等がある。中でも溝跡は、軸が一定方向に延びる状況で検出されていることより屋敷や畑等の区画を示すものと考えられる。前回報告したⅠ～Ⅵ地区までの調査区全体で25の区画を想定したが、今回報告するⅦ～Ⅸ地区の調査においては、これまで想定された25の区画とさらに連結する形で新たな区画を想定することができた。そこで今報告では、これまでの区画を踏襲しつつ、新たに想定された区画については区画25から連番を付した。その結果、Ⅰ～Ⅸ地区全体で想定される区画の数は34となった(第12図)。

建物跡についてはⅦ～Ⅸ地区全体で4棟確認され、中には区画に伴う建物跡も複数確認された。以下に、遺構についてまとめるが、区画のまとまりで捉えることができた区画内の遺構については、区画ごとに報告し、区画のまとまりで捉えることができなかった主な遺構については、地区別に報告する。



第36図 近世～近代の遺構位置図(Ⅶ～Ⅸ地区)

## 区画 26

15-G12・13、H12・13、I11・12グリッドに位置する。北側に区画24、北東側に区画17、南東側に区画27、南西側に区画29と隣接する。主な遺構にピット、土坑、溝跡等を確認している。

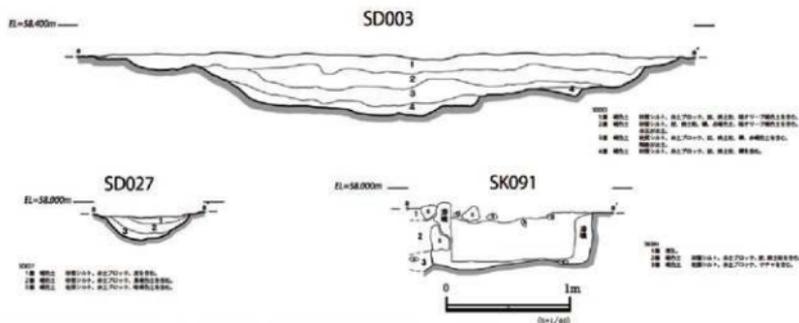
溝跡は複数確認され、そのうちSD002・003・032、027、034は空間を囲うように方形状を呈することより、区画としての機能が考えられる。SD002・003・032はⅢ地区（H21年度調査）のSD54・55・56に繋がりが、SD034もⅢ地区のSD15に繋がることが確認された。

ピットは検出数が少なく、建物プランは不明である。



SD034 東西ベルト（南から）

第37図 区画26の遺構1（Ⅶ地区）



SD003 断面（南西から）



SD027 断面（南東から）

土坑は、断面形状が方形状を呈するものや、楕円状を呈するものが確認された。中でも SK091 は、壁面及び床面を漆喰（又はモルタル）で構築した方形状の遺構で、遺構内の埋土中からは碗・皿類や壺・甕とともに印部石（ハレ石）が出土した。法量 62.3 × 33.1cm、材質は細粒砂岩製で、表面には「け いしきや原」と彫られていることより、調査地の原名である「石川原」の印部石と考えられる。廃棄土坑からの出土のため、原位置は不明である。



SK091 内 印部石検出状況（南東から）



SK091 遺構内完掘状況（南東から）

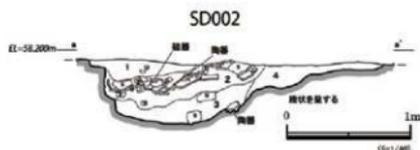
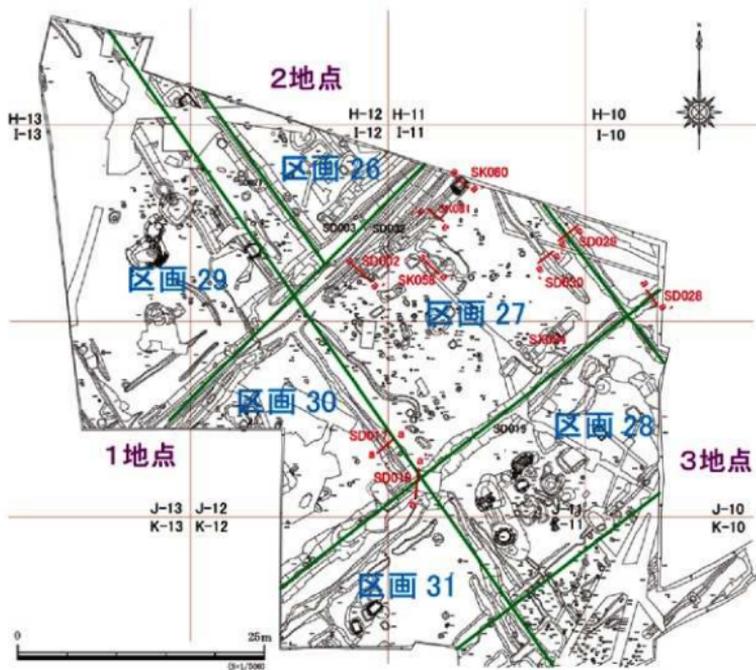


SK091 出土遺物

## 区画 27

15-I10～12、J10～12グリッドに位置する。北側に区画17、南東側に区画28、南西側に区画30、北西側に区画26と隣接する。主な遺構にピット、土坑、溝跡等を確認している。

溝跡は複数確認され、そのうちSD002・003・032、017、019、029は空間を囲うように方形状を呈することより、区画としての機能が考えられる。

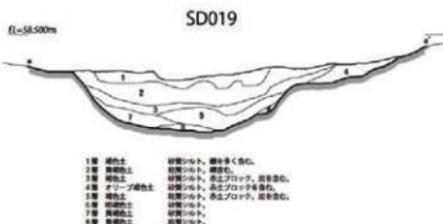


- 1層 焼物土 灰層(粘土、マンガン、石灰質を含有)、ガラス、磁器片散在。
- 2層 焼物土 灰層(粘土、マンガン、石灰質を含有)、瓦、陶磁器片散在。
- 3層 焼物土 灰層(粘土、赤土プロット、マンガン、石灰質を含有)。
- 4層 焼物土 灰層(粘土、赤土プロット、瓦、マンガン)を含有。



SD002 断面 (南西から)

第39図 区画27の遺構1 (VII地区)



土坑は、断面形状が方形状を呈するものがほとんどで、SK058及びSK081の法量は約100cm×70cmである。SK080は約100×95cmで、壁面及び床面に10～15cm大の石灰岩を敷き、その上に漆喰(又はモルタル)を施している。

その他の遺構として、SX024は地山を方形状に掘り込み、内部には階段状の段差を伴う土坑が2つ並ぶように検出されたものだが、用途は不明である。また、J11・12グリッドの一部では鉄跡と考えられる平面形が三角形を呈し、深さが10cm程の小さな掘り込みが確認されていることより、本区画は耕作地としての利用が考えられる。



第40図 区画27の遺構2 (VII地区)



SD028 断面（南から）



SD029 断面（西から）



SD030 断面（東から）



SD017 断面（東から）



SK058 断面（南から）



SK080 床面検出状況（北西から）



SK081 完掘状況（東から）



SK024 完掘状況（南東から）

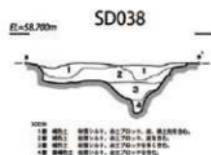
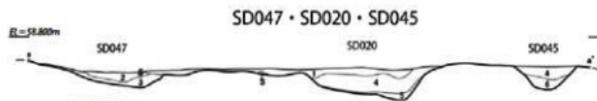
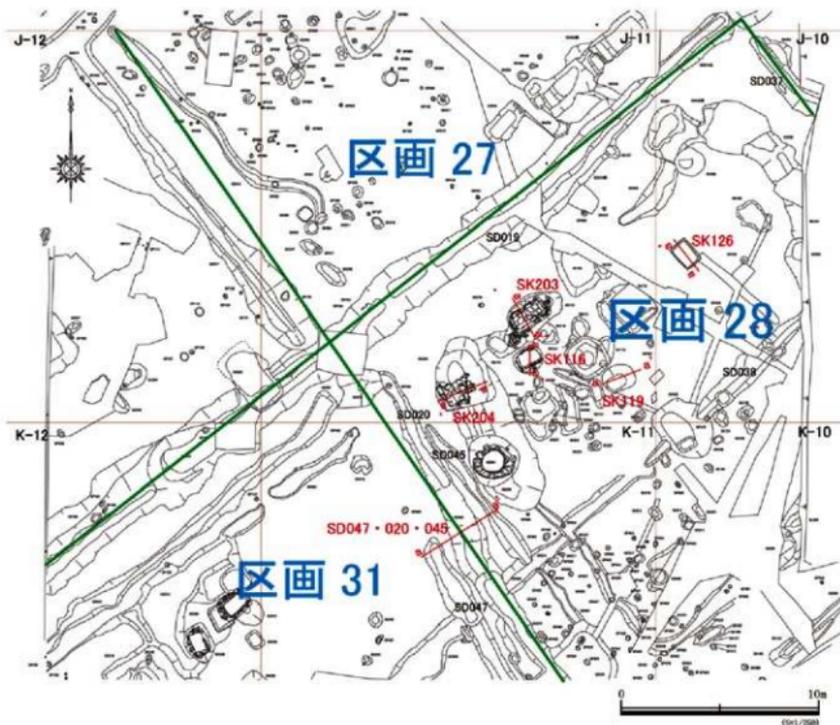
図版 12 区画 27 の遺構 1 (VII地区)

## 区画 28

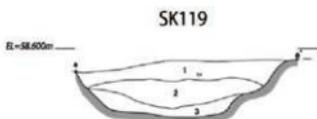
15・J10・11、K10・11 グリッドに位置する。北西側に区画 27、西側に区画 30、南西側に区画 31 と隣接する。主な遺構にピット、土坑、方形石組遺構、井戸、溝跡等を確認している。

溝跡は複数確認され、そのうち SD019、047・020・045、038、037 は空間を囲うように方形を呈することより、区画としての機能が考えられる。

土坑は、掘方が方形を呈するものが多い。SK126 はサンゴ砂利と細粒砂を混ぜたものを壁及び床面に 4 cm 程の厚さで貼り付けたもの（サントウ技法）である。その他、石灰岩の切石を壁及び床面に配置し、その表面にモルタル（又はセメント）を施した方形石組遺構（SK116、203、204）もみられる。



第 41 図 区画 28 の遺構 1 (VII地区)



- 1層 砂土  
2層 砂土  
3層 砂土
- 断面レベル、底、境土を含め、特に粘土ブロック等を含む。  
断面レベル、粘土ブロック、底、境界を含め。



SD047・020・045 完掘状況 (南東から)



SD038 断面 (北東から)



SK126 断面 (北東から)



SK126 遺構内完掘状況 (北東から)



SK119 断面 (南東から)



SK203・SK116 遺構内完掘状況 (西から)

中でも SK204 の埋土中から、近現代の本土産陶磁器や碗 22 点、小碗 5 点、小杯 5 点、皿 12 点、蓋 1 点、袋物 1 点、沖縄産施釉陶器の碗 5 点、無釉陶器 21 点、播鉢 2 点、陶質土器の火炉 1 点、漆製品の容器 1 点、その他を含めて計 85 点が検出された。そのほとんどが完形で、裏返しに数枚を重ねた状態で検出されたことより、これらの陶磁器類は意図的に置かれたものと考えられる。



SK204 遺物出土状況（北西から）



SK204 出土遺物

図版 13 区画 28 の遺構 1 (VII地区)

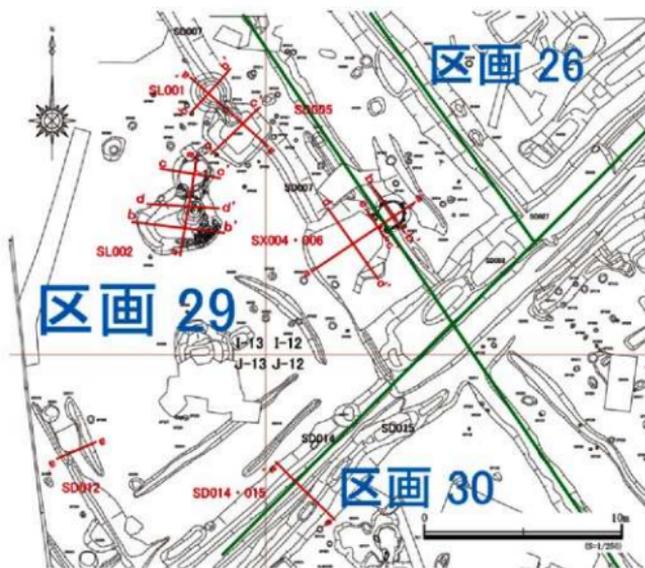
### 区画 29

15-H13、I12・13、J12・13 グリッドに位置する。北東側に区画 26、南東側に区画 30 と隣接する。主な遺構にピット、土坑、竈跡、溝跡等があるが、遺構数は少ない。

溝跡は複数確認され、そのうち SD005、014・015 は区画としての機能が考えられる。

ピットや土坑は少ないが、ピットについては竈跡の周辺に点在する状況が確認される。

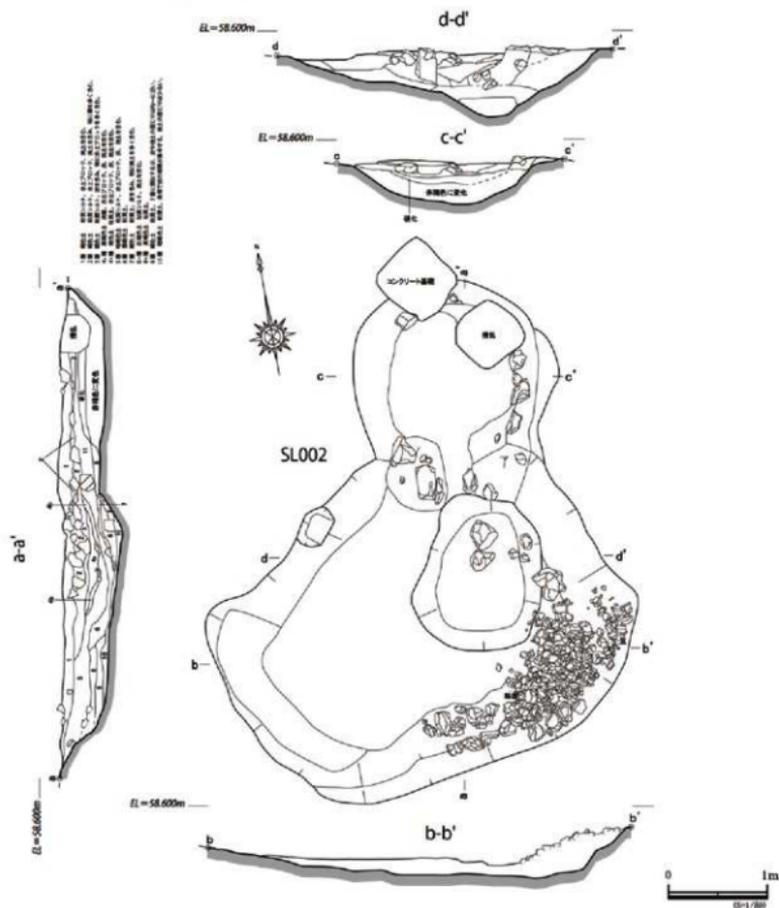
竈跡は 3 基あり、それぞれ隣接した状況で見つがっている。また、3 基ともに燃焼部は円形を呈し、燃えカスを焚口から掻き出す等の作業場と考えられる灰原部分は方形又は扇状に掘り込まれている。



第 43 図 区画 29 の遺構 1 (VII地区)



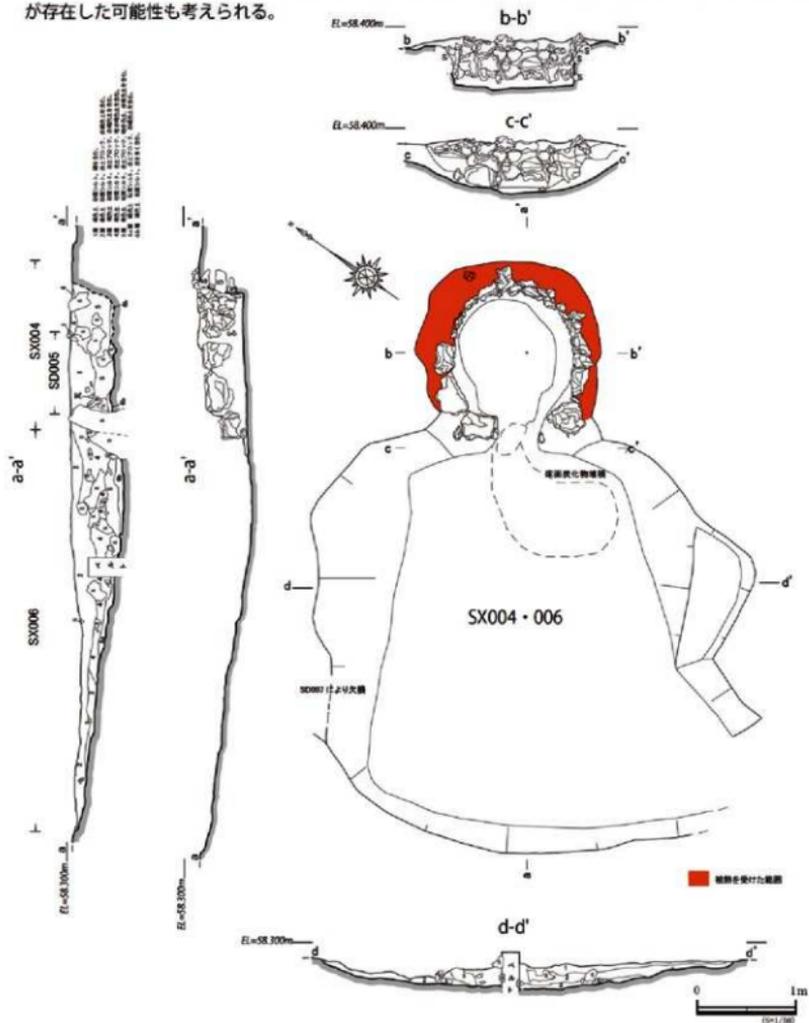
SL002は、燃焼部に数個の石灰岩が円を描いて並んでいることより、本来は燃焼部に切石を巡らせていたことがわかる。床面は火熱を受け、硬化している。また、灰部分は5～20cm大の石灰岩礫を壁面の傾斜に沿って配置している。これらの石灰岩礫は、灰原の西側では確認されていないが、本来は灰原の壁面全体に配置されていたものと考えられる。また、灰原の床面直上は、焼土塊が面広がる状況がみられた。焚口部には柱状に立った石灰岩と、石灰岩を立てるために掘り込んだピットがみられ、ピットは2か所確認されることより、本来は焚口部に2個の石灰岩を配置していたものとみられる。SL002の全長は約5m、燃焼部の長径は約1.2～1.3m、灰原部の深さは55cmである。なお、本遺構から採取された炭化材について放射性炭素年代測定を実施した結果、補正年代で170±20BP、暦年代でcalAD1,664～1,950と17世紀後半から現代の値が得られている。



第45図 区画29の遺構3 (VII地区)

SX004・006は、燃焼部に10～20cm大の石灰岩、焚口部に30～40cm大の石灰岩を配置しており、床面直上には炭層が堆積している。灰原は焚口部から灰原の外側へ向かって緩やかに傾斜する。SX004・006の全長は約5.7m、燃焼部は約1.2×1.2m、深さは45cm、灰原の最も深い部分は50cmである。

SL001・SX007とSX004・006について、周囲を囲い込むようにピットが存在することより、覆屋が存在した可能性も考えられる。



第46図 区画29の遺構4 (VII地区)



SD014 断面 (南西から)



SD015 断面 (南西から)



SD014・015 完掘状況 (南西から)



SD005 完掘状況 (南東から)



SL001 断面 1 (北東から)



SL001 断面 2 (北東から)



SL001 完掘状況 (南東から)



SL001 燃烧部 完掘状況 (南東から)

図版 14 区画 29 の遺構 1 (VII地区)



SL002 検出状況（南から）



SL002 床面検出状況（南から）



SL002 灰原 礫群検出状況 近景（南から）



SL002 完掘状況1（南から）



SL002 焚口部 断割り状況（南から）



SL002 完掘状況2（南から）



SX004・006 灰原断面1 (南東から)



SX004・006 灰原断面2 (南東から)



SX004・006 燃烧部断面 (南東から)



SX004・006 燃烧部床面検出状況 (南西から)



SX004・006 燃烧部完掘状況 (南西から)

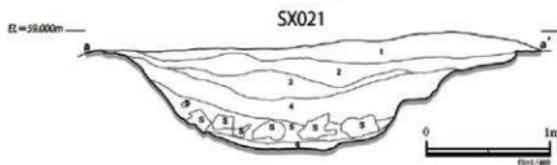


SX004・006 完掘状況 (南西から)

区画 30

15-I12、J11～13、K12 グリッドに位置する。北東側に区画 27、南東側に区画 31、北西側に区画 29 と隣接する。主な遺構にピット、土坑、竈跡、溝跡等があるが、遺構数は少ない。

溝跡は複数確認され、そのうち SD014・015、017、019 は区画としての機能が考えられる。



- 1層 緑色土 砂質シルト・粘土ブロック、焼土層、石瓦片を伴う。
- 2層 褐色土 砂質シルト、赤土ブロック、炭、焼土を伴う。
- 3層 褐色土 砂質シルト、赤土ブロック、炭を伴う。
- 4層 褐色土 砂質シルト、赤土ブロックを伴う。
- 5層 褐色土 砂質シルト、炭、焼土、瓦片を伴う。中に赤土ブロックを伴う。
- 6層 褐色土 赤土ブロック、炭を伴う。



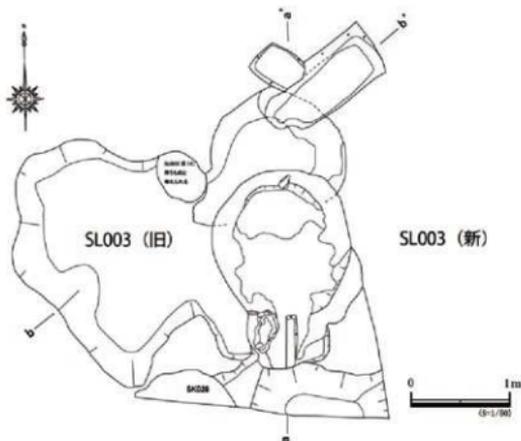
SX021 炭・焼土検出状況 (東から)  
第 47 図 区画 30 の遺構 1 (VII地区)



SX021 断面 (東から)

ピットや土坑は少ない。SX021は85cm掘り込まれており、最下層は炭層とその上面に10～30cm大の石灰岩が点在している。これらの様相は、これまで確認された窯跡の灰原に類似していることから、SX021は窯跡の可能性が考えられる。

窯跡は2基が切り合った状況で見つかった。SL003(新)がSL003(旧)を切っており、双方とも検出段階で、燃焼部は火熱を受けて硬化した面の検出であったため、上部は削平され、ほぼ床面部分のみ残存している状況であった。SL003(新)の焚口部には一つの石灰岩が残っていることから、本来、焚口部には石灰岩が配置されていたものと考えられる。また、SL003(旧)においても、焚口部に掘り込みが確認されるため、本遺構も同様に焚口部には石灰岩が配置されていたものと考えられる。さらに、SL003(旧)の燃焼部から外側へ、炭や焼土が混じるボロボロとした土が薄く広がる状況が確認された。これは本遺構に伴うものと考えられ、煙道的な性格を想定したが、残存状況が悪いため、詳細については不明である。SL003(旧)の全長は約3.5m、SL003(新)の全長は不明だが、燃焼部は約1×1.3mである。



SL003 新・旧 検出状況 (南から)



SL003 (旧) 断面 1 (北西から)



SL003 (旧) 断面 2 (北西から)



SL003 (新) 断面 (東から)



SL003 新・旧 完掘状況 1 (南から)



SL003 新・旧 完掘状況 2 (南から)

図版 17 区画 30 の遺構 1 (VII地区)

SX020 は地山をオーバーハングした掘り込みで、掘り込みは岩盤まで達する。SD019 内を垂直方向に 40cm 程掘り込んだ後、横方向に 3 m 以上掘り込んだものと考えられる。このような構造より、地下壕のようなものを想定したが、詳細については不明である。床面の幅は約 1.6m、奥行きは約 3m、床面からはサラサバティを蓋にした沖縄産無軸陶器の壺が出土している。



SX020 断面 (南から)



SX020 遺物出土状況 (南から)



SX020 遺物出土状況 近景 (南から)



SX020 完掘状況 (南から)



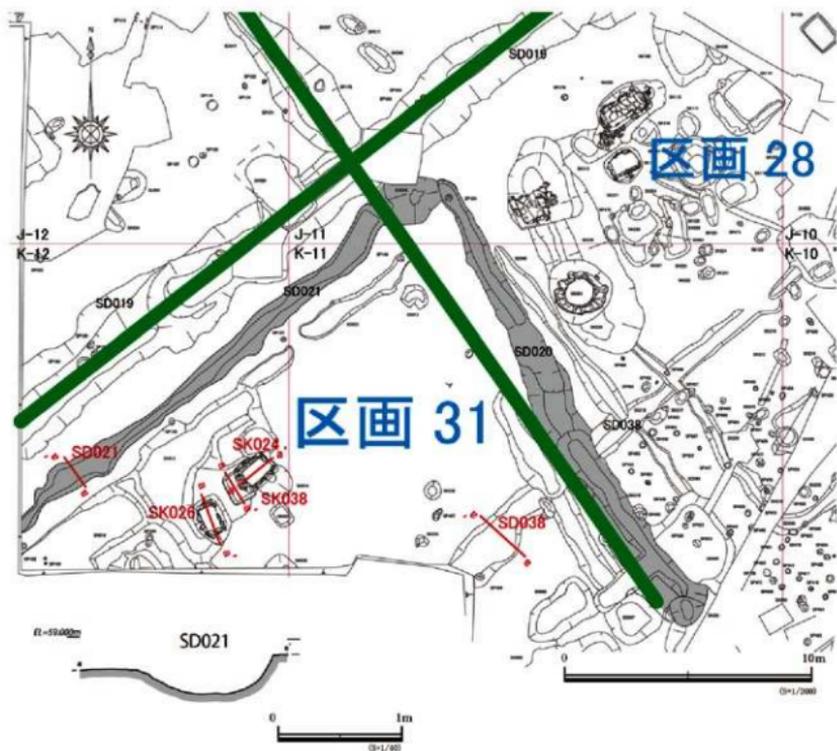
SX020 完掘状況 (西から)

第49図 区画30の遺構3 (VII地区)

### 区画 31

15-J11、K11・12 グリッドに位置する。北東側に区画 28、北西側に区画 30 と隣接する。主な遺構にピット、土坑、方形石組遺構、溝跡等があるが、遺構数は少ない。

溝跡は複数確認され、そのうち SD020、021 は区画としての機能が考えられる（グレー塗り部分）。ピットや土坑は少ない。

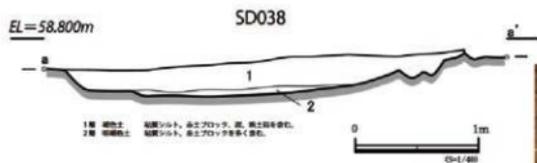


SD021 遺物出土状況（北東から）



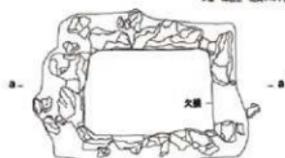
SD021 完掘状況（東から）

第 50 図 区画 31 の遺構 1 (VII地区)



SD038 断面（北東から）

土坑は地山を方形状に掘り込むものや、サントウ技法の土坑（SK038）がみられる。方形石組遺構はSK024、026が確認された。いずれも20～40cm大の石灰岩の切石を四方に配置し、床面には約10～15cm大の礫を敷き、その上からモルタル（又はセメント）を施して平坦に仕上げている。壁面の切石にも同様にモルタル（又はセメント）を施して目張りする。



SK024 遺構内完掘状況（東から）



SK026 遺構内完掘状況（東から）



SK038 完掘状況（北東から）



SK026 完掘状況（東から）

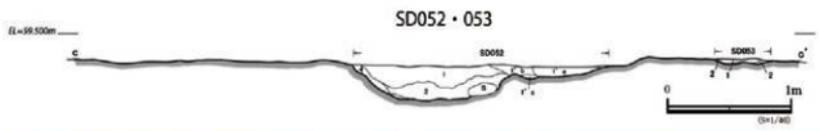
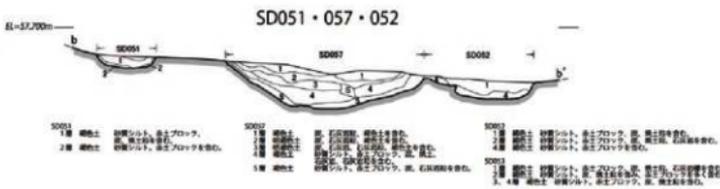
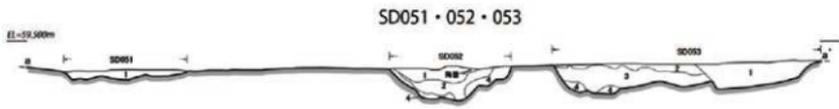
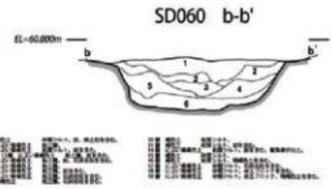
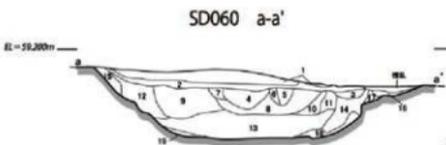
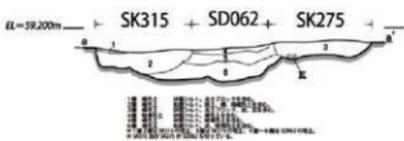
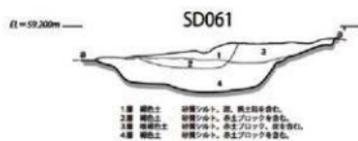
### 区画 32

15-K 7、L 7～9 グリッドに位置する。北東側に区画 33 と隣接する。主な遺構にピット、土坑、溝跡等がある。土坑は断面が方形状を呈するものが確認されている。

溝跡は複数確認され、そのうち SD060 (Ⅶ地区)、SD052、062 (Ⅸ地区) は区画としての機能が考えられる。



第 52 図 区画 32 の遺構 1 (Ⅶ・Ⅸ地区)



SK315・SD062・SK275 断面 (南西から)  
第53図 区画32の遺構2 (VII地区)



SD062 発掘状況 (南西から)



SD060 断面（南東から）



SD060 完掘状況（南東から）



SD061 断面（南西から）



SD061 完掘状況（南西から）



SD052 断面（北から）



SD052・053 断面（北から）



遺構完掘状況1 (南西から)



遺構完掘状況2 (南西から)



遺構完掘状況3 (北東から)

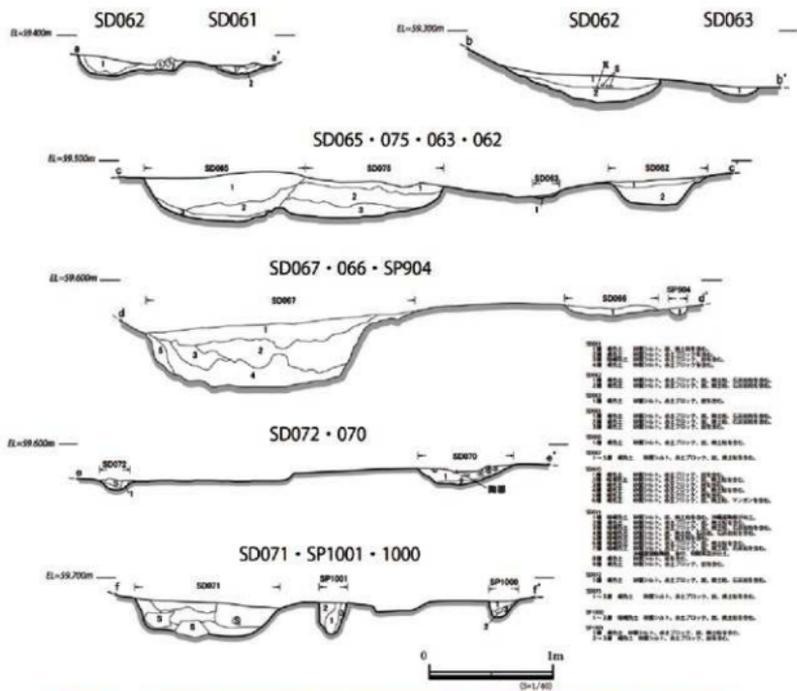
### 区画 33

15-J 6・7、K 6・7、L 7グリッドに位置する。南西側に区画 32と隣接する。多くの遺構が確認されており、主な遺構にピット、土坑、方形石組遺構、溝跡等がある。建物跡と考えられるものは3棟確認された。

溝跡は複数確認され、そのうちSD062、069～072は方形を描いてL字状に曲がっており、区画としての機能が考えられる。また、区画の南東側にあたるSD071は途中で止まっている。これは区画内への出入り口部分になるのか、注目される。SD062、069、070・071は幅1～1.5m、SD072は幅約30cmで、それぞれ溝内に5～15cm大の石灰岩礫がまとまった状況で検出された。これらの礫群は意図的に置かれたものと考えられる。



第54図 区画33の遺構1 (IX地区)



区画 33 完掘状況 (南西から)

第 55 図 区画 33 の遺構 2 (Ⅰ地区)



SD062・061 礎検出状況（西から）



SD062・063 断面（北から）



SD065・075 断面（南から）



SD063・062 断面（南から）



SD067 断面（北から）



SD071（東から）



SD071 断面1（西から）



SD071 断面2（西から）

図版 20 区画 33 の遺構 1 (IX地区)









SK422 断面（東から）



SK445 断面（北から）



SK452 断面（北から）



SK425 断面（北から）



SK427 断面（西から）



SK428 断面（西から）



SK471 断面（西から）



SK472 断面（西から）

図版 21 区画 33 の遺構 2 (IX地区)

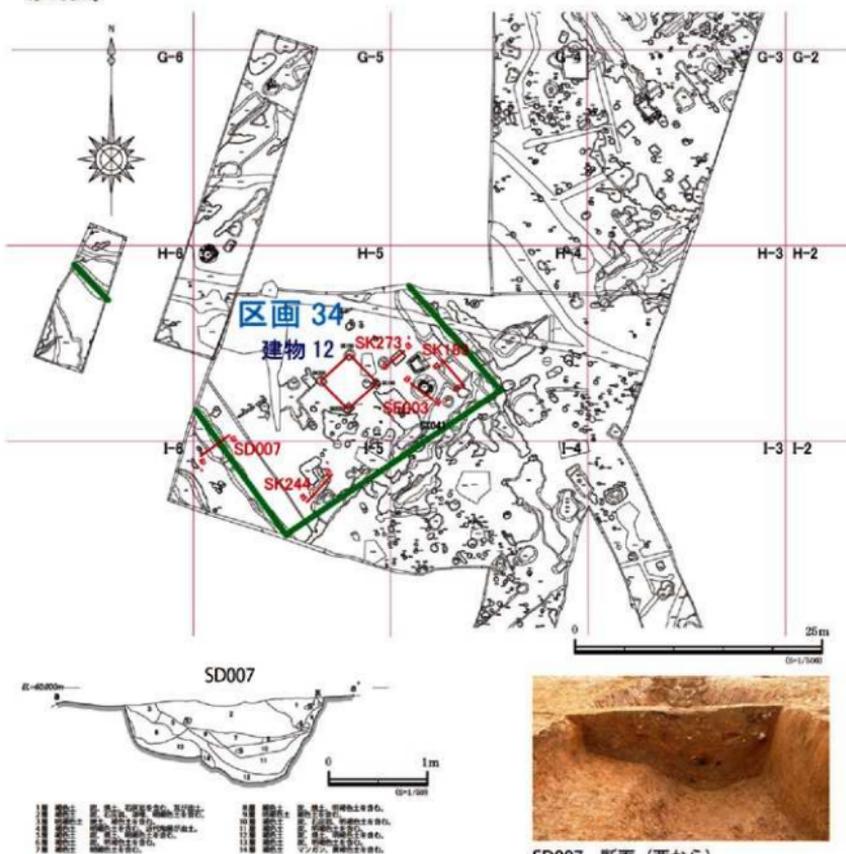
#### 区画 34

15・H 4・5、14・5、グリッドに位置する。主な遺構にピット、土坑、方形石組遺構、井戸、溝跡等がある。建物跡と考えられるものは1棟確認された。

溝跡は複数確認され、そのうち SD007 及び SX041 については、区画としての機能が考えられる。

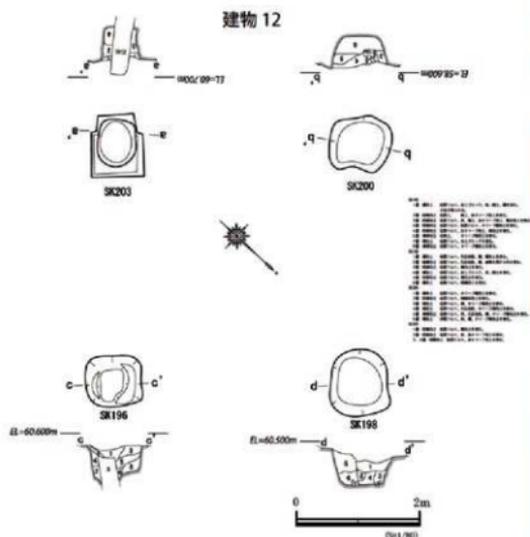
土坑は断面形が方形を呈するものがほとんどで、長軸 1～1.5m のものが多いが、中には SK244 のように長軸が 1.9m で長方形の大型の土坑もみられる。SK273 は、小さなサンゴと細粒砂を混ぜたものを壁及び床面に 4cm 程の厚さで貼り付けたサントウ技法で、法量は 1.5 × 1m である。SK189 は 35～50cm 大の石灰岩の切石を壁及び床面に配置し、その表面にモルタル（又はセメント）を施す。

井戸（SE003）は地山をほぼ垂直に掘り込み、20～30cm 大の石灰岩を岩盤直上よりハの字状に相方積みで積んでいる。10～20cm 大の石灰岩礫を裏込め石として蜜に使用している。井戸の直径は 70cm。



第 59 図 区画 34 の遺構 1 (VII地区)

建物 12 は 15-H 5 グリッドに位置する。方形のプランで、石灰岩の石柱からなる 4 本柱の建物である。区画の軸と同一であり、規模は約  $4 \times 4 \text{ m}$  の  $16 \text{ m}^2$ 、柱穴の長径は  $80 \sim 100 \text{ cm}$  である。



SK203 断面 (北東から)



SK196 完掘状況 (北東から)

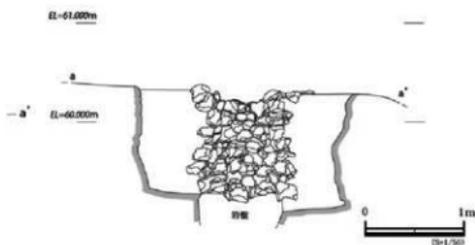
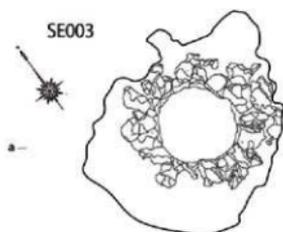
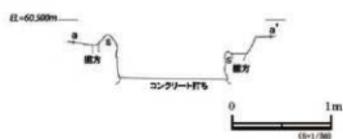
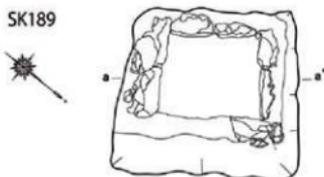


SK198 完掘状況 (北東から)



建物 12 完掘状況 (南から)

第 60 図 区画 34 の遺構 2 (VII地区)



SK273 完掘状況 (北東から)



SK244 断面 (東から)

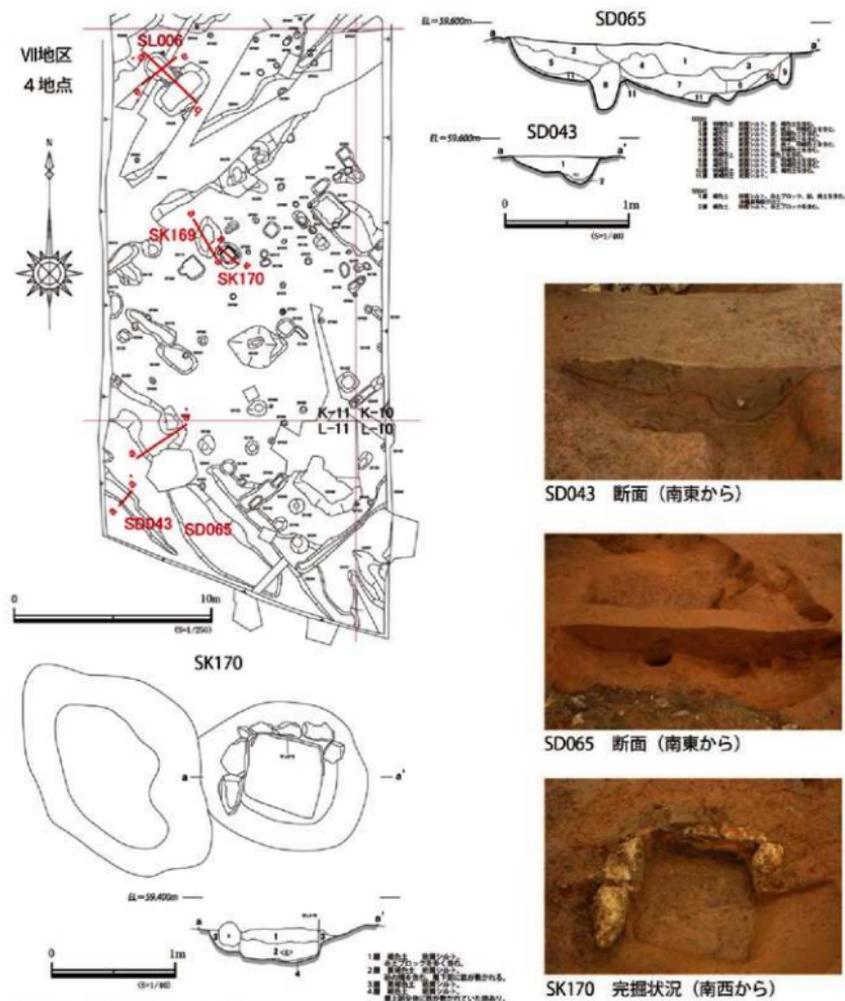


SK189 完掘状況 (北東から)



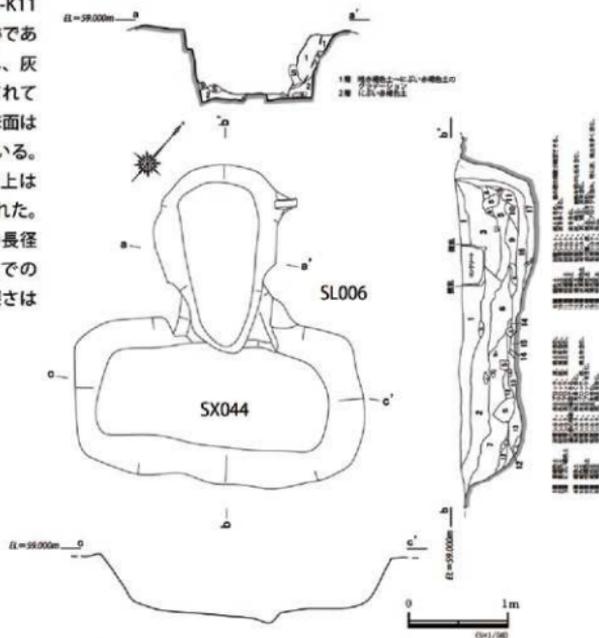
SE003 断面 (南西から)

ここからは区画との関連を把握できなかった遺構の中から、主な遺構について地区別に報告を行う。SD065は15-K・L11グリッドで確認された溝跡で、区画と考えられる溝跡と同じ方向に延びることより、区画の可能性が考えられる。SK170は15-K11グリッドで確認された土抗で、15～35cm大の石灰岩を壁面に配置し、その表面にサントウ技法と似た素材を施している。しかし、サントウ技法はサンゴ砂利と樹液を混ぜているが、本遺構ではサンゴ砂利が混じっていない点で異なっている。石組とサントウ技法と同様の技術を用いたこれまで確認されていないタイプの土抗である。



第62図 VII地区の遺構1(4地点)

SL006・SX044 は、15-K11  
グリッドで確認された窯跡である。  
燃焼部は楕円形を呈し、灰  
原部分は方形に掘り込まれて  
いる。燃焼部の壁面及び床面は  
火熱を受け赤く硬化している。  
燃焼部及び灰原の床面直上は  
炭や焼土の塊が多くみられた。  
全長は約 3.2m、燃焼部の長径  
は約 1.2 × 1.8m、床面までの  
深さは 70cm、灰原部の深さは  
60cm である。



SL006・SX044 断面 (北東から)



SL006・SX044 完掘状況 (南東から)



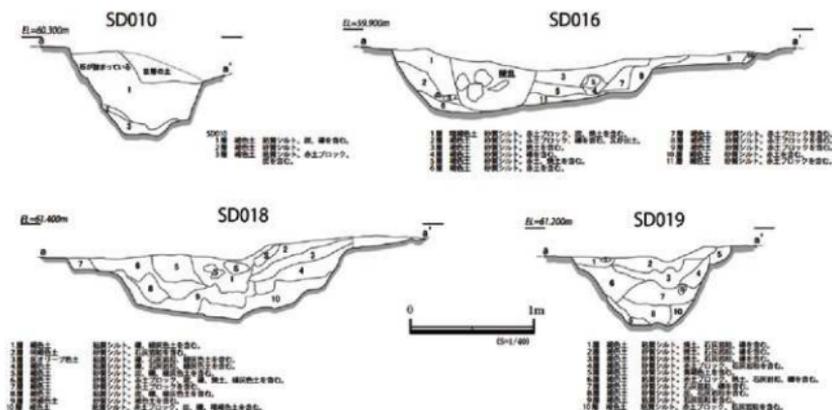
SL006・SX044 サブトレンチ断面被熱部  
(南東から)

続いてⅧ地区の遺構について報告する。主な遺構にピット、土坑、方形石組遺構、井戸、炉跡、地下塚、溝跡等が確認された。ここでは井戸、地下塚、溝跡について詳細を述べる。



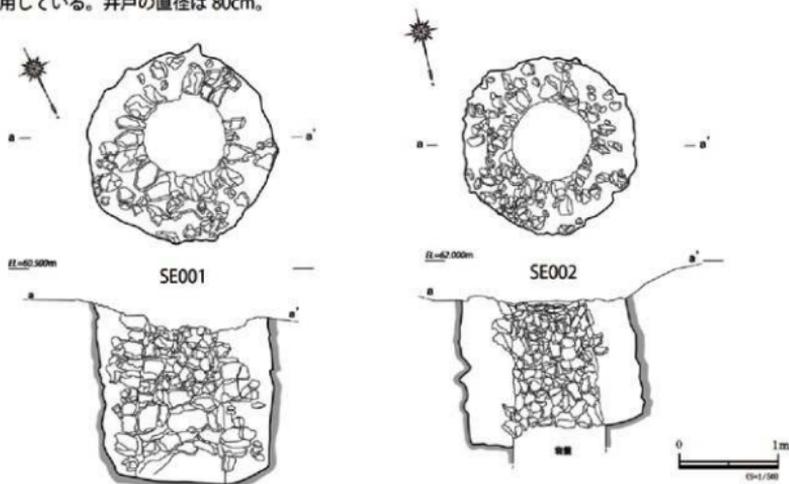
第 64 図 Ⅷ地区の遺構 1

SD010、016、018、019は15-E 3・4、F 2～4グリッドで確認された溝跡で、区画と考えられる溝跡と同じ方向に延びることより、区画の可能性が考えられる。



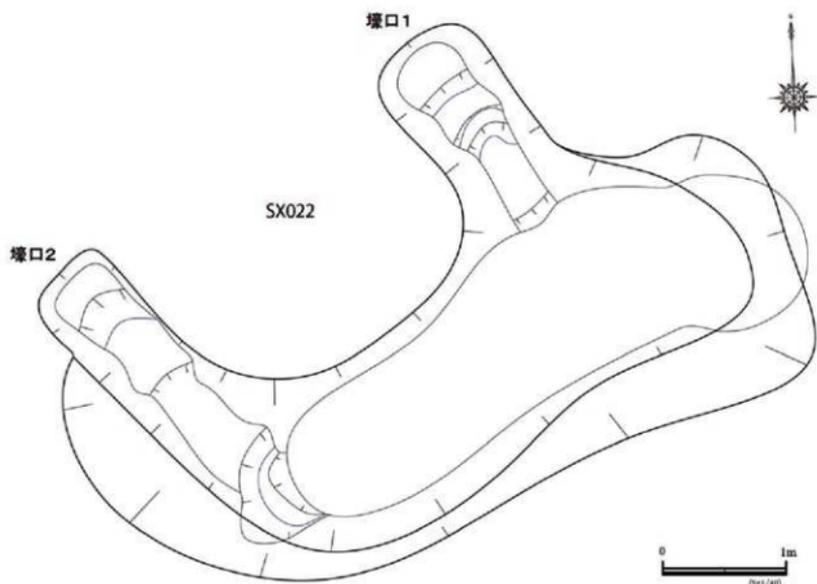
井戸はⅧ地区からは4基確認された。SE001は15-H 5グリッドで確認され、地山をほぼ垂直に掘り込み、15～40cm大の石灰岩を岩盤直上から、ややハの字状に相方積みで積んでいる。10～20cm大の石灰岩礫を裏込め石として蜜に使用している。井戸の直径は80cm。

SE002は15-E 3グリッドで確認されたもので、地山をほぼ垂直に掘り込み、15～30cm大の石灰岩を岩盤直上から、垂直に相方積みで積んでいる。10～20cm大の石灰岩礫を裏込め石として蜜に使用している。井戸の直径は80cm。



第65図 Ⅷ地区の遺構2

SX022は地下壕と考えられる遺構である。15-H 3グリッドで確認された。北西方向に2つの出入り口（壕口）が設けられ、内部へ向かって階段状に下がっていく。壕口の通路幅は70～80cm、内部は北東方向へ4.5m、幅が1.4mの空間が掘り込まれている。



SX022 完掘状況（南から）



SD010 礎検出状況（東から）



SD010 断面（西から）



SD016 石列検出状況（北西から）



SD016 断面（北西から）



SD018 断面（南西から）



SD019 断面（北西から）



SE001 断面（北から）



SE002 断面（南から）



SX022 壕口 1（北西から）



SX022 壕口 2（北西から）



SX022 完掘状況（北東から）

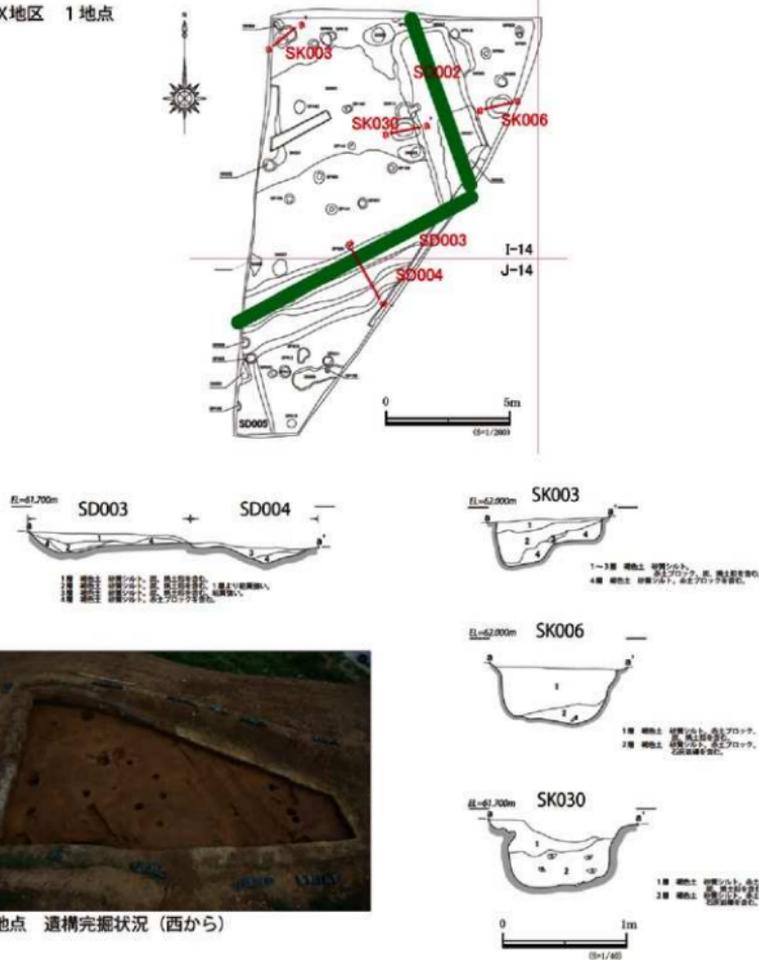
続いてIX地区の遺構について報告する。主な遺構にピット、土坑、方形石組遺構、井戸、炉跡、竈跡、溝跡等が確認された。遺構数が多いため、地点別に詳細を述べる。

#### 1 地点

SD002、003は15-I・J14グリッドで確認された溝跡で、区画と考えられる溝跡と同じ方向に延びることより、区画の可能性が考えられる。

土坑は掘方が方形を呈するものや、段をもつものが確認された。

#### IX地区 1 地点



第 67 図 IX地区の遺構 1 (1 地点)



SK003 断面（北東から）

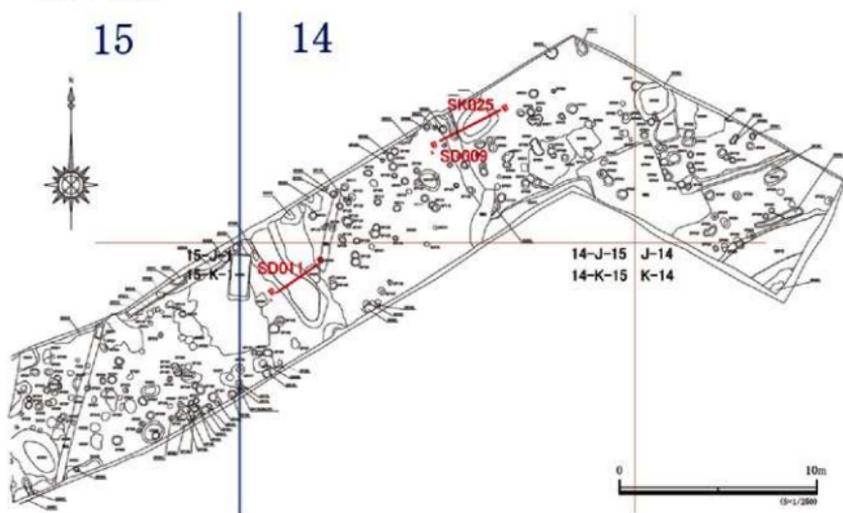


SK006 断面（北から）



SK030 断面（南から）

IX地区 2地点

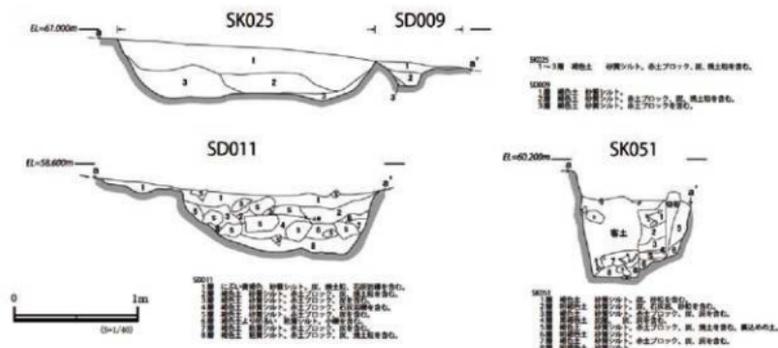


第 68 図 IX地区の遺構 2（2地点）

## 2地点

SD011は14-J・K15グリッドで確認された溝跡である。溝内には10～30cm大の石灰岩がまとまって検出された。これまでも同様の遺構が見つかっており、本来は溝全体に石灰岩が入っていたものと考えられる。

SK025は掘方が方形を呈し、法量が2×1.4mと大型である。SK051は30～40cm大の石灰岩の切石を配置し、床面にモルタル（又はセメント）を施している。その他、2地点では多くのビットが見つかるが、明確な建物プランは確認できていない。



SK025 断面 (東から)



SD011 礫検出状況 (南から)



SK051 断面 (西から)



SK051 床面検出状況 (北西から)

第69図 IX地区の遺構3 (2地点)

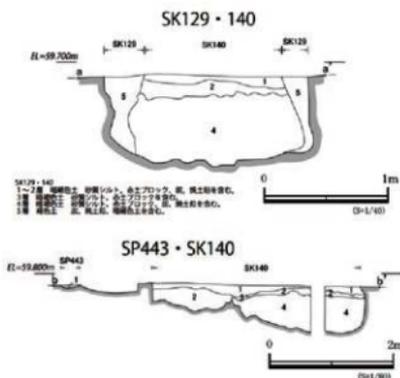
### 3地点

SK129と140が切り合った状況で確認された土坑である。SK129がオーバーハングして掘り込まれ、その後、SK140がSK129を掘り込んでいる。法量は4.5×1.4m、深さが70cmの大型の遺構であるが、同様な遺構は他に見つかっておらず、詳細については不明である。

### IX地区 3地点



SK129・SK140 断面（北から）

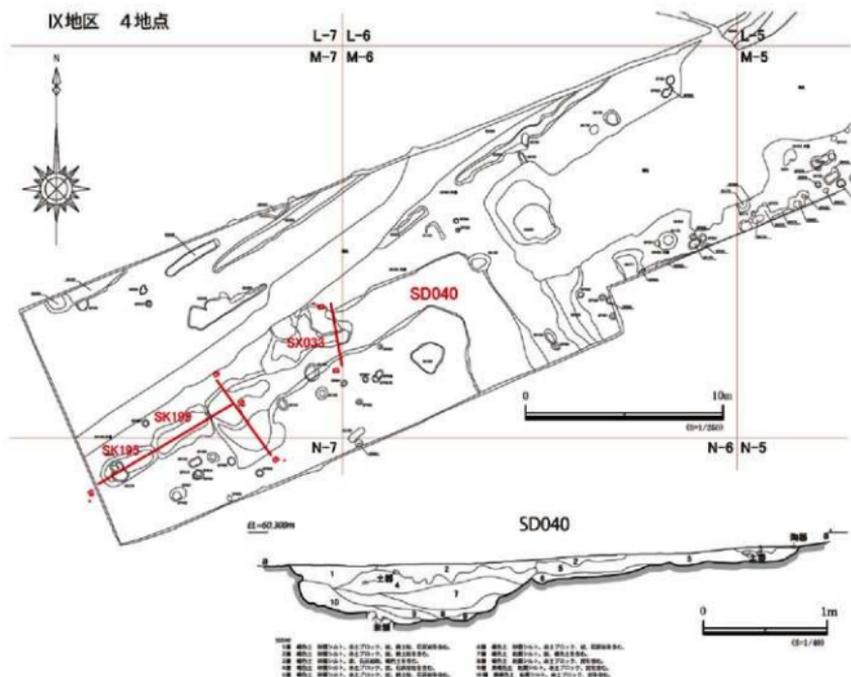


第70図 IX地区の遺構4（3地点）

#### 4地点

SD040は15-M 6・7グリッドで確認されたL字状を呈する溝跡である。床面は岩盤が露出する。溝の上には10～20cm大の石灰岩礫がまともに検出されている。SD040の西側にはSK195と199の土坑が掘り込まれている。SK195が2.9×1.5m、SK199が2.7×1.3mでどちらも方形を呈する大型の土坑である。

#### IX地区 4地点

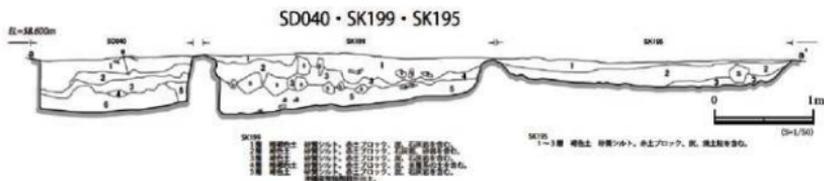


4地点 遺構完掘状況(西から)



SD040 断面(西から)

第71図 IX地区の遺構5(4地点)



SK199 断面 (北から)

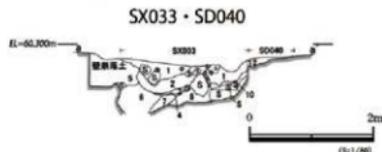


SK195 断面 (北から)

SX033は15-M 7グリッドで確認された遺構である。地山を掘り込み、さらに南東側の壁面と床面の岩盤も掘り込んで、壁と床面が平坦気味に構築している。遺構の北側の一部にやや段状に下がる部分がみられる箇所が入り口部になることを想定したが、遺構の天井部分が残っていないこともあり、詳細は不明である。内部は東西方向に約4m、南北方向に約2～2.4mの空間となっている。内部からはたくさんの陶磁器類が出土した。これらの陶磁器類は東側と西側の空間に分かれるようにし



て見つかり、東側では近現代の本土産陶磁器を中心に、沖縄産陶器、中国産陶磁器の他、石製品・骨製品・貝製品、金属製品等、西側では漆製品(容器)、近現代の本土産陶磁器碗の他、沖縄産陶器の香炉、瓶子、ガラス瓶が出土した。東・西側すべて合わせると計661点の出土が確認された。遺物は土圧により割れた状態のものもあったが、完形のものも多かった。これらの陶磁器類の組み合わせは当時の一般家庭における食器類の在り方を反映しているものと考えられる。



1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

第72図 IX地区の遺構6(4地点)



SX033 遺物出土状況 (南西から)



SX033 遺物出土状況 近景 (南西から)



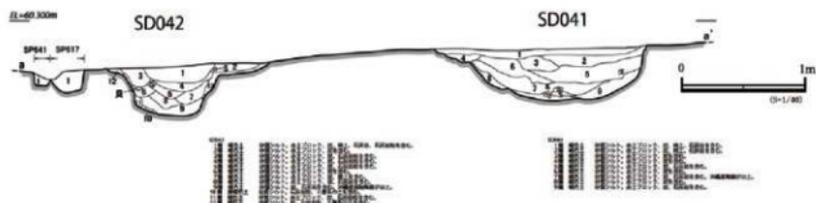
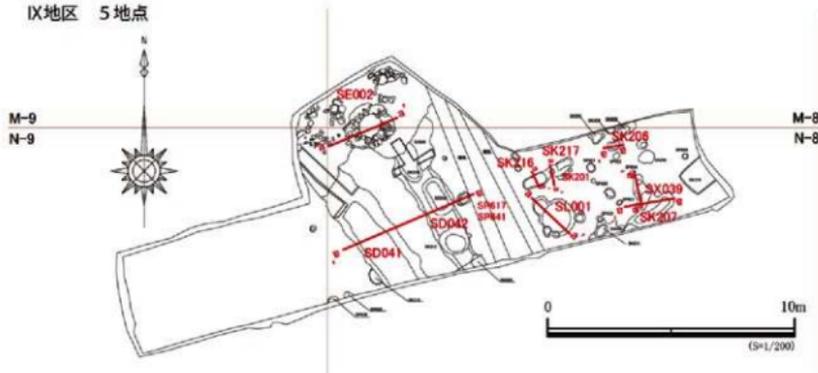
SX033 完掘状況 近景 (西から)

図版 24 IX地区の遺構 1 (4地点)

### 5 地点

SD041・042は15N- 8グリッドで確認された溝跡である。本遺構の北側には井戸（SE002）がある。SE002の周囲にみられる石敷きは、SD041と042の埋土の上に粘性の高い土で造成した上に石敷きを構築している。

### IX地区 5地点

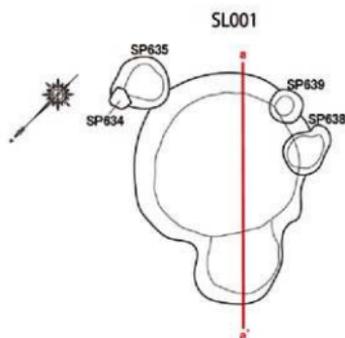


SD042 断面（北西から）

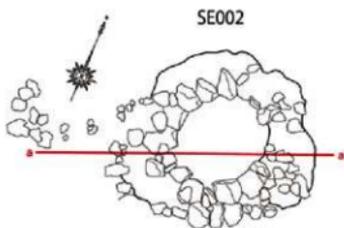
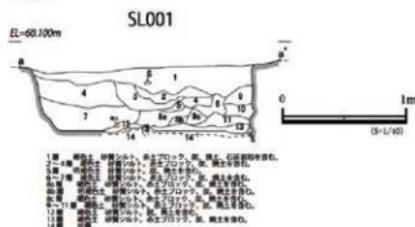


SD041 断面（北西から）

第73図 IX地区の遺構7（5地点）



SL001は15N-8グリッドで確認された窯跡である。燃焼部は円形を呈し、灰原部分は方形に掘り込まれている。床面は炭層が広がり、炭層をさらに掘り下げると岩盤となる。全長は約1.8m、燃焼部の長径は約1.4×1.25m、床面までの深さは55cm、灰原部の深さは45cmである。これまで確認された窯跡よりは小さいサイズである。



SE002は15-M・N8グリッドで確認されたもので、地山を逆ハの字状に掘り込み、20～35cm大の石灰岩の切石を岩盤直上から、ハの字状に丁寧な相方積みで積んでいる。10～20cm大の石灰岩礫を裏込め石としている。井戸の天端付近には石敷遺構が残存している。井戸の直径は90cm。



第74図 IX地区の遺構8（5地点）



SL001 南北断面 北側（東から）



SL001 南北断面 南側（西から）



SL001 東西断面 東側（北から）



SL001 東西断面 西側（南から）



SL001 炭層検出状況（東から）



SL001 炭層掘削状況（東から）



SL001 完掘状況（東から）

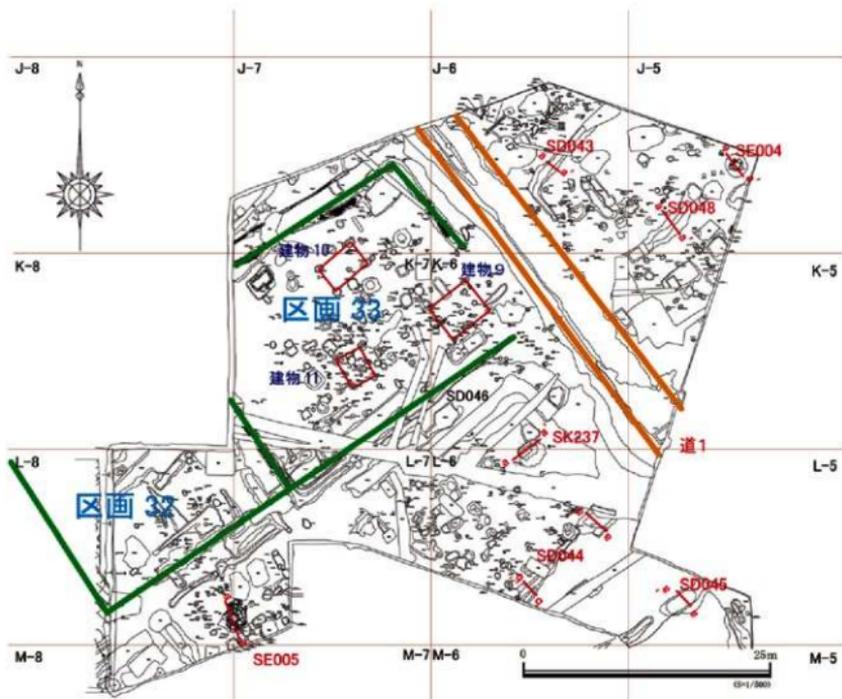


SE002 断面（南から）

図版 25 IX地区の遺構 2（5地点）

## 6地点

SD043、044、045、048は15・J5・6、L5・6グリッドで確認された溝跡でSD043、046はカーブを描いて曲がっており、これらの溝跡と並行して延びるSD044と048も合わせて区画となる可能性がある。

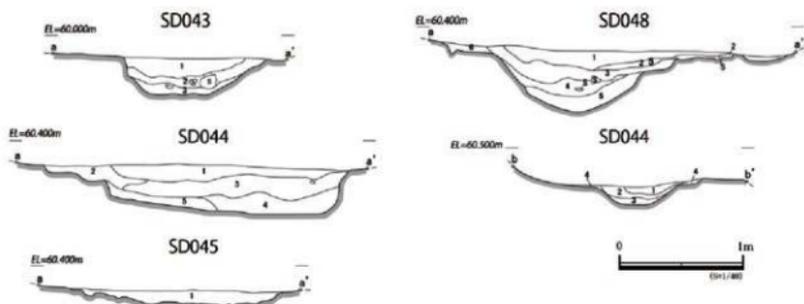


6地点 遺構完掘状況 (東から)



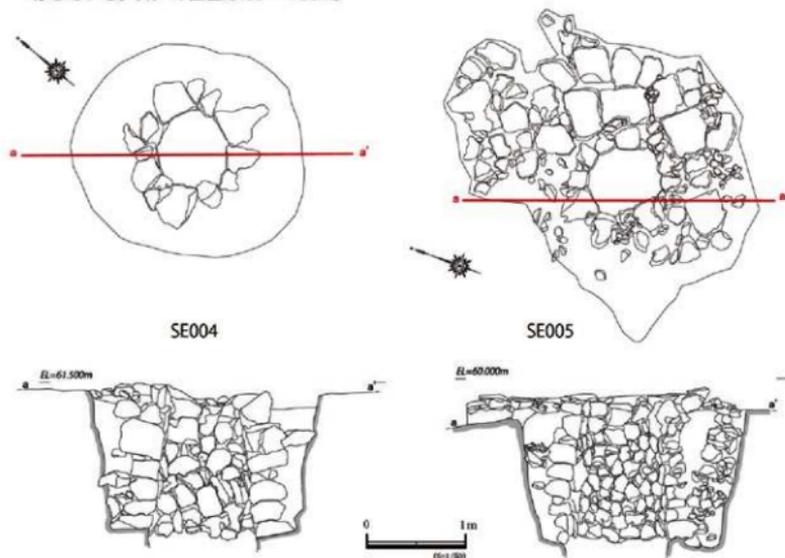
6地点 遺構完掘状況 (北から)

第75図 IX地区の遺構9 (6地点)



SK237は15-K・L 6グリッドで確認された方形石組遺構で、20～40cm大の石灰岩の切石を壁面に配置し、床面及び壁面の表面にモルタル（又はセメント）を施している。裏込めの材には石灰岩の他、陶磁器片や瓦片、中には石臼の破片も使用されている。

SE004は15-J 5グリッドで確認され、地山をやや逆ハの字状に掘り込み、25～40cm大の石灰岩の切石を岩盤直上から、ハの字状に相方積みで積んでいる。井戸の直径は75cm。SE005は15-L 7・8グリッドで確認され、地山を逆ハの字状に掘り込むが、15～25cm大の石灰岩の切石を、岩盤直上からややハの字状に相方積みで積んでいる。SE004は大きめの切石で粗く積むのに対し、SE005は小さめの切石で丁寧に積むなど、造りに違いがみられる。またSE005の天端付近には石敷遺構が残存している。井戸の直径は60～70cm。



第76図 IX地区の遺構10（6地点）